

外国語の授業づくりの手引き

(試行版)

令和5(2023)年度
教員養成機関等との連携による専門人材育成・確保事業
(グローバル化に対応した外国語教育推進事業)

慶應義塾大学

令和6年2月

『外国語の授業づくりの手引き』（2023 年度試行版）正誤表

下記のページに誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

ページ	場所	誤	正
4	1 行目	外国語強化地域拠点事業	外国語教育強化地域拠点事業
4	研究担当者	松木瑤子	松木瑤子
9	6 行目	表現し 伝え合うため	表現し伝え合うため
9	7 行目	目 して捉え	目して捉え
9	7 行目	再構 築	再構築
21	3. パフォーマンス課題で取り上げる社会・文化事象と扱い方、16 行目	県連	関連
23	欄 3 〈書き方説明〉、8 行目	取り組んでいる	取り組もうとしている
38	20 行目	授業ない活動	授業内活動
75	2. 単元目標	アメリカにスペイン語話者の存在に	アメリカのスペイン語話者の存在に
76	6. 学習指導における具体的な評価規準	アメリカにスペイン語話者の存在に	アメリカのスペイン語話者の存在に
84	3. パフォーマンス課題で取り上げる社会・文化事象と扱い方、1 行目	中華街で努める	中華街で勤める
105	5. パフォーマンス課題、10 行目	校内の生徒人向けに	校内の生徒向けに
109	授業の概要、学校名	東京都立高等学校	東京都立北園高等学校
117	3. 社会と文化への気づきのポイント、1 行目	国籍や性格・容姿を表す年齢の表現の仕方	国籍や性格・容姿を表す形容詞や年齢の表現の仕方

目次

本編	3
1. はじめに	4
2. 複数の外国語を学ぶ意義.....	6
3. 資質・能力論	11
4. 授業づくりに向けて（単元指導案様式と作成要領）	16
資料編	31
1. 逆向き設計.....	32
2. パフォーマンス課題	34
3. 令和5年度の単元指導案事例	40

本編

1. はじめに

慶應義塾大学は、平成 29 (2017) 年度に文部科学省の委託を受け「外国語強化地域拠点事業」に取り組んだことに始まり、COVID-19 の流行により中止となったため慶應義塾大学の独自事業として実施した令和 2 (2020) 年度を除き、令和 5 (2023) 年度まで高等学校における外国語教育について 7 年間にわたり研究を行ってきました。

大学側の受け皿になったのは慶應義塾大学外国語教育研究センター研究推進委員会で、ここに所属する大学教員と神奈川県・埼玉県・東京都の高等学校で外国語教育を担当する教員が協同で研究を進めました。この間の研究テーマは一貫して、平成 30 年度に改訂された新しい高等学校学習指導要領で説かれた内容を、外国語教育の現場にどのように落とし込み、効果的な授業を実施するかでした。

本書『外国語の授業づくりの手引き (試行版)』(以下、「手引き (試行版)」)は、新学習指導要領やその核心である資質・能力論、複言語主義を解説するとともに、本プロジェクトが開発した単元指導案様式について具体例を示しながら詳細な説明をしています。

また資料編では、逆向き設計やパフォーマンス課題など、授業づくりに必要な理論と、本プロジェクトのメンバーによる指導案を多数収録しました。

プロジェクトが主な対象としてきたのは、「英語以外の外国語」ですが、もちろん「英語」を担当する先生方にも使っていただけたらと考えています。また高等学校だけでなく、同じく後期中等教育に属する高等専門学校や、また高等教育に属する大学などの外国語教育においても参考になる内容を含んでいます。

「手引き (試行版)」の作成には、令和 5 年度の文部科学省委託事業「教員養成機関等との連携による専門人材育成・確保事業 (グローバル化に対応した外国語教育推進事業)」に参加した以下のメンバーが携わり、本書は同事業の報告書も兼ねています。

本書が高等学校で外国語教育に携わるより多くの教員の手元に届き、外国語の授業の質の向上につながることを願っています。

研究担当者
山下一夫 (慶應義塾大学教授、中国語) ※研究主任
吉川龍生 (慶應義塾大学教授、中国語)
金景彩 (慶應義塾大学助教、韓国語)
松木瑤子 (カリタス女子中学高等学校講師、フランス語)
小山美穂 (カリタス女子中学高等学校講師、フランス語)
遠藤正承 (東京都立第五商業高等学校講師、韓国語)
柳虎順 (東京都立第五商業高等学校講師、韓国語)
温悠 (横浜市立みなと総合高等学校講師、中国語)
池谷尚美 (横浜市立みなと総合高等学校講師、ドイツ語)
石黒みのり (東京都立青梅総合高等学校講師、韓国語)
潮田央 (神奈川県立総合教育センター指導主事、中国語・国語)
常廣徹 (神奈川県立藤沢総合高等学校教諭、中国語・国語)

研究担当者
佐々木亮太（神奈川県立藤沢総合高等学校教諭、スペイン語・英語）
能登慶和（東京都立北園高等学校講師、ドイツ語）
日比野規生（神奈川県立深沢高等学校教諭、スペイン語・英語）
廣瀬瞳（埼玉県立坂戸高等学校講師、スペイン語）

運営指導委員
境一三（慶應義塾大学名誉教授、ドイツ語・ドイツ語教育）
縣由衣子（慶應義塾大学非常勤講師、フランス語教育・英語教育・人文・文化／思想史）
山下誠（神奈川県立厚木商業高等学校教諭、韓国語教育・社会科教育）
水口景子（(公財)国際文化フォーラム常務理事、外国語教育・国際交流）

拡大プロジェクトメンバー
鄭賢熙（青山学院高等部ほか、韓国語）
原田智津子（秋田県立能代松陽高等学校、韓国語・英語）
高島理恵（慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスほか、スペイン語）
柳素子（大阪府立門真なみはや高等学校、中国語）
藤岡安紀子（立命館宇治高等学校、中国語・国語）
Aqil Cheddadi（慶應義塾大学総合政策学部、フランス語）
鈴木冴子（埼玉県立上尾鷹の台高等学校、英語）
武石裕子（新潟市立石山中学校、英語）
辻祐哉（神奈川県立平塚江南高等学校、英語）

（順不同、2024年2月現在）

2. 複数の外国語を学ぶ意義

(1) はじめに

今、日本社会では英語が溢れかえっています。日常生活で、少なくとも英語の単語を見ない日はないでしょう。インターネットでも、テレビ・新聞でも、また商店の看板でも、至る所に英語が見られます。英語は、日本以外の国々から発信される情報を得るためにも、また日本から情報を発信するためにも、なくてはならないものと考えられています。特に、経済活動では英語力は死活問題だとされます。それにもかかわらず、日本人の英語能力は非常に低いので、これを高めなくてはならない、そのために「学校教育では英語にもっと力を入れろ、早期から教育を始めろ」という特に経済界からの強い要望があり¹、英語教育の強化と早期化は進んできました。

その陰にあって、英語以外の外国語教育はなかなか広がりません。日本では伝統的にそれは、中等教育を終え、高等教育機関に入って初めて「第二外国語」という括りの中で学ぶ機会が与えられていましたが、これも1991年の「大学設置規準の大綱化」以来、縮小傾向が続いています。中学校はおろか高等学校でも英語以外の外国語を学んでいる生徒は例外的です。

本章では、まず日本の高校における英語以外の外国語教育の現状を概観し、その後、複数の外国語を学ぶ意義を考えます。特に、英語のような実用的価値がない（とされる）言語をなぜ学ぶのか、またそれが今日の日本の若者にどのような意味を持つのかを、資質・能力論も踏まえて考察します。そこで焦点となるのは、日本社会と世界の多様性に対応した多角的な視点の獲得と共存のための他者理解の力です。

最後に、このプロジェクトでの議論を基に、私たちがまとめた「高校初習外国語の見方・考え方」を示します。

(2) 日本の高校における英語以外の外国語の履修状況

現在、日本の高校で学ばれている英語以外の外国語の数は、一般社団法人日本外国語教育推進機構（以下 JACTFL とする）による2023年の調査「日本の高等学校等における英語以外の外国語科目の開設状況に関する調査」²によれば、31です。その内、中国語、韓国・朝鮮語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語、インドネシア語、ポルトガル語、モンゴル語、ネパール語、フィリピン（タガログ）語、タイ語、ベトナム語の14言語に関しては、文部科学省（以下文科省とする）も2021年度の統計データを2023年に公表しています。JACTFLでは、網羅的な調査を行なっていますので、そちらの数字を採用すれば、英語以外の外国語教育実施校の数は682に上り³、全高等学校数の13.3%となり、7.5校に1校が開設していることになります。

一方、実際に授業を受けている生徒の数は、文科省によれば2021年度に42,324人であり⁴、それを基に計算すると全高校生の1.45%に過ぎません。英語以外の外国語が開講されていても、必修ではなく選択科目

¹ 「次期教育振興基本計画」策定に向けた提言（日本経済団体連合会、2022、https://www.keidanren.or.jp/policy/2022/088_honbun.html、2024年2月13日閲覧）を参照。

² 「日本の高等学校等における英語以外の外国語科目の開設状況に関する調査」（JACTFL、2023年3月）、https://www.jactfl.or.jp/?page_id=4240（2024年2月13日閲覧）。

³ 文科省の調査では607校となっている。

⁴ 「高等学校等における国際交流等の状況についてお知らせします」（文部科学省、2023年3月31日）、https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/koukousei/20230403-mxt_kouhou02-1.pdf（2024年2月1日閲覧）。

とされていることが多いからです。小学校5年生から教科化されている英語を、ほぼ全ての高校生が履修しているのに比べて、非常に小さな履修者数に留まっています。これは、「1+2 言語政策」（全ての生徒が母語以外に二つの言語を学ぶという政策）を取っている EU 諸国と比較にならないのはもちろんのこと、日本の近隣諸国の現状と比べても、決して豊かな外国語教育が提供されているとは言えない状況です。

(3) 学習指導要領に見る英語と英語以外の外国語の扱いの違い

『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 外国語編 英語編』によれば、学習指導要領における英語以外の外国語に関する記述は以下のとおりです。

- 1 その他の外国語に関する科目については、第 1 から第 6 まで及び第 3 款に示す英語に関する各科目の目標及び内容などに準じて指導を行う⁵ものとする。
- 2 高等学校において英語以外の外国語を初めて履修させる場合には、生徒の学習負担等を踏まえ、適切に指導するものとする。⁶

この解説は、全体で 231 ページにわたるものですが、英語以外の外国語に関する記述は、2 ページに過ぎません。この内 1 を読めば、英語以外の外国語は英語に「準じて指導を行う」こととなりますが、小学校から開始する英語と高校に入ってから学び始める言語が同じように学ぶことはできませんので、どうして「準じて」教育することができるだろうかと頭を捻ってしまいます。一方、2 には「生徒の学習負担等を踏まえ、適切に指導するものとする」とあり、さらにその解説には、「高等学校において英語以外の外国語を初めて履修させる場合は、基本的な言語材料を扱い、生徒の習熟の程度に応じた言語活動を行うよう適切な配慮が必要である」（下線は筆者による）とあるので、初修の外国語として、その状況に即して初歩から適宜指導を行うこと、と理解できると思います。いずれにしても、学習指導要領における英語とそれ以外の外国語の扱いにはこのような違いがあります。

(4) 複数の外国語を学習する意義 1

英語以外の外国語は、仮に高校 1 年で履修を開始したとしても、その時点で英語とは学習年数に 5 年の開きがあります。多くは選択科目であり、1 週間に 2 コマ、年間 2 単位の履修に過ぎません。2 年間継続履修できたとしても 4 単位の学習できる内容やそれによって到達可能なスキルは英語には到底及びません。それでもなお学習する意義はどこにあるのでしょうか。

外国語は、言うまでもなく未知の世界に開かれた窓であり、また若者が未踏の地に向かう入り口でもあります。英語を学ぶことによって開かれた窓から世界を見て、世界に飛び立つ可能性はよく言われるところです。英語という窓の重要性を否定する者はいないでしょう。しかし、その窓は、知らず知らずのうちに英語を話す人たちの価値観、世界観に大きな影響を受けています。いくら英語が国際共通語であるからといって、その元になったアングロ・サクソン文化圏のものの方に見方に強く規定されていることは事実ではないでしょ

⁵ ここでは、一般的なケースとして、高校で初めて学ぶ外国語（初習外国語）の例を主に考えていますが、小学校からフランス語を継続的に学んで、高校で第 1 外国語として履修するケースもあります。

⁶ 『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 外国語編 英語編』（文部科学省、2018）、pp. 121-122。

うか。例えば、日本のテレビや新聞の報道だけを見聞きしていたのでは、ウクライナ問題は理解できないと思ってBSテレビのニュースを見た時に、字幕を見る見ないに拘らず、BBCやCNNのニュースだけでは、やはりその母体になる国や文化の価値観や利害関係に絡め取られてしまう危険性があります。それらを批判的に見ると同時に、ロシアのテレビ局のニュースをも批判的に見て、それらを比較しながら自分自身の見方を培うことが必要でしょう。その時に、必ずしも言語学習の成果（スキル）が直接生かされるわけではないし、複数の言語の学習を通して獲得したものの見方、すなわち世界には様々な世界観・価値観を持った人がいること、そして報道も含め、人間の言動は意図の有無に拘らずそうした「観」に依存するのだという認識は、世界を理解するために不可欠のものであると思います。

山登りに例えてみましょう。岩場で自分の体を安全に支え、一步一步登るためには3点確保が重要だと言われます。日本語と英語だけでは2点しか確保できず、とても不安定ですが、それにもう一つ別の言語が加わると3点になり、より安全により確実に高みを目指すことができるようになります。他者を理解し、世界をより良く知るためには、この3点確保が必要なのです。

(5) 複数の外国語を学習する意義 2

現在の学習指導要領では、英語は「英語コミュニケーション」を中心として構成されています。英語が国際共通語として機能している現状では、その英語でコミュニケーションが取れるようになることには大きな意味があり、むしろ必須のことであるとも言えます。しかし、ややもすると4技能5領域のスキルを伸ばすことに過重な重点が置かれ、この学習指導要領の基盤をなす資質・能力論で伸ばすべきとされる汎用的能力（問題解決能力、論理的思考、メタ認知能力など）の育成が陰に隠れてしまう危うさを感じます。4技能5領域のスキルは狭義では「知識・技能」に相当しますが、これは「生きて働く」ものでなくてはなりませんし、学んで「理解していること・できること」は「未知の状況にも対応できる」「思考力・判断力・表現力」とならなければなりません。また、「学びを人生や社会に生かそうとする」「学びに向かう力・人間性等」も涵養されなければならないとされています⁷。

私たちがこのプロジェクトで扱う高校における英語以外の外国語の学習では、「知識・技能」の獲得こそ英語に及ばないにしても、汎用的能力は、具体的な日本社会や世界のあり方に対応して、そこで生かされる力や態度として生徒が身につけることを目指しています。

上記2. で見たように、現在高校で履修されている言語は、日本にいる外国人の母語を多く含んでいます。これらの言語を学ぶことは、それを通して日本社会が言語・文化の背景を異にする人々が多く生活していること、彼らが日本社会の成員であり隣人であるという事実を知ることにつながります。そしてこの学びを通して多様な価値観に触れ、それらを少しでも理解しようとし、彼らと共に生きるという意欲を養うこと、これがこの教科の本質であると考えられます。自分が中国語を学んでうまく自己表現ができない、スペイン語でゴミ分別のルールをうまく説明できない、などというもどかしい体験をすることは、日本で日本語を学びながら生活する人々の困難さに思いを馳せるきっかけになるでしょう。異文化・異言語の人の「異なり」や「多様性」を言語運用を通して身をもって知ることが、物事を均質化してしまう傾向のある英語学習ではできない、英語以外の外国語学習の持つ特質であると考えます。それは、日本社会における共存のための言語学習とも言えるでしょう。

⁷ 奈須正裕『「資質・能力」と学びのメカニズム』（東洋館出版社、2017）、pp. 40-41。

このプロジェクトでは、こうしたことを具体例を伴って考究してきました。その結果、英語以外の外国語は、高校で初修であることが一般的であるので、本書では、「高校初修外国語」を一つの教科と位置づけ、「高校初修外国語の見方・考え方」を以下に提案します。

「各教科等の見方・考え方」とは、学びの「深まり」の鍵となるものとして、学習指導要領において、全ての教科等で整理されています⁸。教科外国語においては「外国語のコミュニケーションの見方・考え方」として、「外国語で表現し 伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること」となっています。

このプロジェクトでは、これを踏まえつつ、高校初修外国語の特質に応じて次のページのように整理しました。

⁸ 文部科学省中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（2016年12月21日）を参照。

高校初修外国語の見方・考え方

①外国語、およびそれとむすびついた文化について、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、目的・場面・状況等に応じて情報や考えなどを形成・整理・再構築し、外国語で表現し伝え合うことによって、よりよい人間関係の形成、社会への参画および自己の実現をしようとする事。

【解説】

- ・外国語とむすびついた文化は単元目標に基づいた言語活動を通じてこそ理解される、という視点が大事である。
- ・ここでいう文化の学びとは、いわゆる「3F (Food, Fashion, Festival)」に代表されるようなコンテンツを単に紹介して終わりというものではない。

②手持ちの言語知識を使ったり、人の助けを借りたりすることで、コミュニケーションをはかることができることに着目して捉え、そうした手段を活用して、積極的に他者とコミュニケーションを取ろうとすること。

【解説】

- ・初修外国語であるためにまだあまり学力差が出ていない状況も利用し、たとえばブロークンな表現でも良いので、臆せずにコミュニケーションを取ろうとする経験をする。こうした、他者と繋がることのできた経験を持つことで、これまでの英語学習において心理的負担を感じていた生徒であっても、それを克服できる可能性がある。
- ・さらに、やはりブロークンな表現でも構わないので、とにかく積極的に他者とコミュニケーションを取ろうとしていく態度を養成していく。

③言語・文化の多様性に着目して捉え、目標言語や既習言語・自言語、およびそれとむすびついた文化について、多面的・多角的に見たり、自分で「気づき」を得たりするとともに、課題を発見したりする力、他者を尊重する態度、「学び」の学び、メタ認知能力などを養うこと。

【解説】

- ・「学び」の学びとは、他者との協同的学習などの中で試行錯誤もしながら、自分にとって適した学習法を自分自身で学びとっていくこと。これによって学習者自身が自律的な学習者に育って行き、生涯にわたって学習を継続することが可能となる。
- ・メタ認知能力とは、自分の思考や行動を第三者の視点で客観的に把握し、認識する力のこと (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiouen/mext_01500.html)。

3. 資質・能力論

今の生徒たちを取りまくネットの状況は、現在教壇に立っている教員が若かった頃とずいぶん変わりました。スマホさえ持っていれば、知らないことはすぐに調べられますし、自動翻訳にかければ外国語の作文もできますし、生成AIに聞いてレポートを仕上げることもできます。もちろん、ネットから取り出した情報をそのまま使ったらダメです。Wikipediaには間違った情報も含まれていますし、DeepLは必ずしも正しい翻訳をするとは限りませんし、ChatGPTはおよそ信じられないようなデタラメを言うことがあります。しかし、だからといってネットそのものを禁止することはできません。ネットの存在を前提に、そこで得た知識を取捨選択し、使いこなしていくことが大事になります。実際、現在の社会ではどのような分野であれ、多かれ少なかれそうした能力が求められるようになっていきます。そのため、学校教育も知識を一方向的に詰め込んでいく従来型のやり方ではなく、生徒が知識をきちんと取捨選択し、それを使いこなせるよう養成する教育を行う必要があります。

平成30年に告示された新しい高等学校学習指導要領は、まさにそうした現代的な教育のあり方を提示したものです。学習指導要領などと言うと、つまらないもの、と思う方もいるかも知れませんが、決してそうではありません。多くの研究者が参与し、コンピテンシーに基づく能力観へのシフトという世界的な流れも背景に、最新の教育研究の成果をもとに作られており、いま目の前にある教育課題を解決し得る、重要な内容が含まれています。

知識を取り出すのが今のように簡単ではなかった時には、「何をいくつ知っているか」が大事でした。もちろん、知識や技能を持っていることは大切です。外国語で言えば、よく使う単語は覚えていないと何もしないでしょう。しかし今まではこの部分ばかりを重視し、単語や文法を大量に詰め込むことに熱中して、それらを実際のコミュニケーションでどのように使うのかという部分が疎かになっていたきらいがあります。また、そもそもなぜ外国語を学ぶのか、外国語を学んでどうするのかという問いに対しても、もしかしたらきちんとした答えを持ち合わせていなかったかも知れません。例えば英語は「入試で必要だから」「実用的だから」と言うとしたら、入試の先には何があるのか、また実用的であるとは何かといったことを、教員は考える必要があります。「英語以外の外国語」に至っては、入試と関係が無いことが多いですし、「実用的だから」と言う場合は、「世界は英語である、それ以外の外国語など学ぶ必要がない」と主張する一部の人々に対し、きちんと反論できなければなりません。さらに——これは英語、英語以外の外国語を問わず——「自動翻訳の性能が上がれば、そもそも外国語を学習する必要はない」という意見に対しても、そうではないと明確に主張できる論拠を持っている必要があるでしょう。

さて、では新学習指導要領ではどのような方針が打ち出されているのでしょうか。まず、第1章総則第1款には次のように書かれています。

3. 2の(1)から(3)までに掲げる事項の実現を図り、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される生徒に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体及び各教科・科目等の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実を図るものとする。その際、生徒の発達の段階や特性等を踏まえつつ、次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする。

- (1) 知識及び技能が習得されるようにすること。
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること。
- (3) 学びに向かう力、人間性等を涵養すること。

また、この部分に対する「解説」は次のように書かれています。

(1) 今回の改訂の基本的な考え方

①教育基本法，学校教育法などを踏まえ，これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を生かし，生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指す。その際，求められる資質・能力とは何かを社会と？共有し，連携する「社会に開かれた教育課程」を重視すること。

②知識及び技能の習得と思考力，判断力，表現力等の育成とのバランスを重視する平成 21 年改訂の学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で，知識の理解の質を更に高め，確かな学力を育成すること。

③道徳教育の充実や体験活動の重視，体育・健康に関する指導の充実により，豊かな心や健やかな体を育成すること。

(2) 育成を目指す資質・能力の明確化

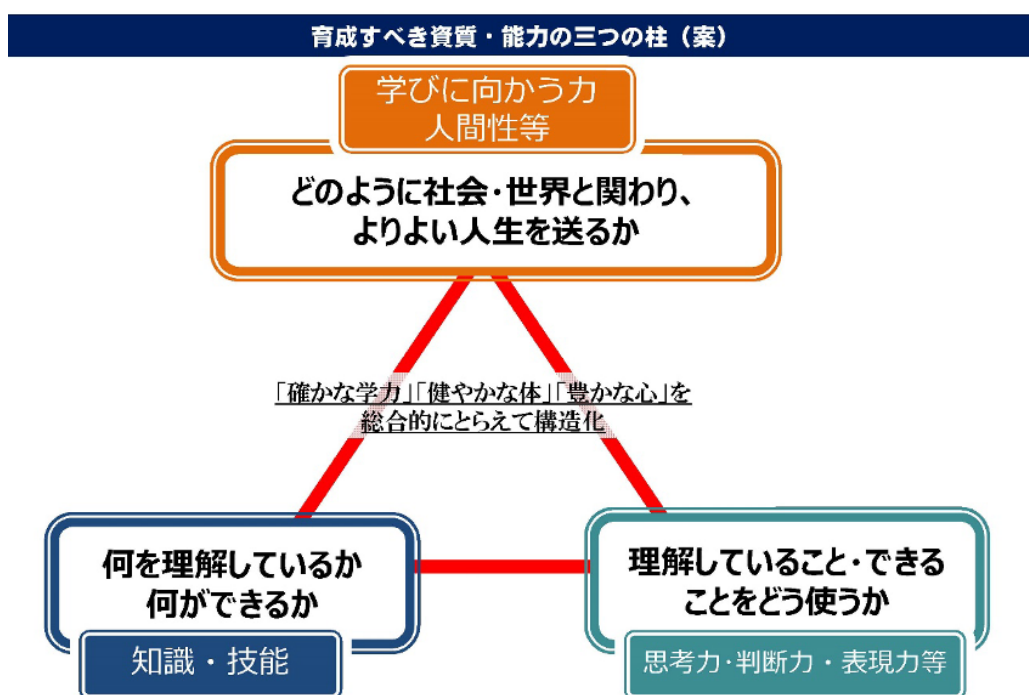
平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申においては，予測困難な社会の変化に主体的に関わり，感性を豊かに働かせながら，どのような未来を創っていくのか，どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え，自らの可能性を發揮し，よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要であること，こうした力は全く新しい力ということではなく学校教育が長年その育成を目指してきた「生きる力」であることを改めて捉え直し，学校教育がしっかりとその強みを發揮できるようにしていくことが必要とされた。また，汎用的な能力の育成を重視する世界的な潮流を踏まえつつ，知識及び技能と思考力，判断力，表現力等とをバランスよく育成してきた我が国の学校教育の蓄積を生かしていくことが重要とされた。

このため「生きる力」をより具体化し，教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を，ア「何を理解しているか，何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」，イ「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」，ウ「どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」の三つの柱に整理するとともに，各教科等の目標や内容についても，この三つの柱に基づく再整理を図るよう提言がなされた。

今回の改訂では，知・徳・体にわたる「生きる力」を生徒に育むために「何のために学ぶのか」という各教科等を学ぶ意義を共有しながら，授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していくことができるようにするため，全ての教科等の目標や内容を「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」の三つの柱で再整理した。

この 2 つの部分から，新学習指導要領の基本的な発想が解ります。最初は「(1) 知識及び技能が習得されるようにすること」です。ここだけ見ると、今までと何も変わらないように思うかも知れません。しかし

解説ではこれが、生きて働く「知識・技能」の習得、と言い換えられています。知識や技能は「とにかく覚えろ」と言ってひたすら詰め込んだりするのではなく、「生きて働く」ようにしましょうと言っているのです。そして、もしかしたら今までは知識や技能を教えて終わりだったかも知れませんが、ここではそうではなく、その次に「(2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること」があります。また解説ではこの「思考力・判断力・表現力等」に、「未知の状況にも対応できる」という形容があります。知識や技能を習得しても、実際にそれらを使おうとした時は、教科書で出てきたのとは違う状況であることの方がむしろ普通ですよ。そのため、単に習った知識や技能を反復できるというだけではダメで、知識や技能を使って対応できる思考力、判断力、表現力を育てましょう、ということになります。さらにそこで終わりではなく、「(3) 学びに向かう力、人間性等を涵養すること」があります。また解説ではこれに「学びを人生や社会に活かそうとする」という形容があります。学んだことを人生や社会に活かすことが大事なので、そうしようとする人間性を養っていきましょう、と言っているのです。そしてこの (1) ~ (3) の「育成すべき資質・能力の三つの柱」によって、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」という「生きる力」を育てましょう、というのが新学習指導要領の骨子になります。整理すると以下の図のようになります。



2

「学習指導要領改訂の方向性 (案)」(文部科学省、2016年6月21日)⁹

ではこの「育成すべき資質・能力の三つの柱」は、外国語の授業で具体的にどう行うのでしょうか。新学習指導要領の第8節外国語・第1款目標を読んでみましょう。

⁹ 画像は、https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/061/siryu/__icsFiles/afieldfile/2016/07/07/1137384_1.pdf (2024年2月20日閲覧) から引用した。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(1) が生きて働く「知識・技能」の習得、(2) が未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、(3) が学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養、にそれぞれ対応しています。

まず(1)ですが、単語や文法などは実際のコミュニケーションで活用できるように習得しましょう、と言っています。そのため教員側は、教科書のこの課に出てくる単語や文法事項を覚え、というので終わるのではなく、こういうコミュニケーションのためにこういう単語や文法を習得するのだという姿勢を持つ必要があります。なおコミュニケーションと言うと、会話のことかと思ってしまうかもしれませんが、決してそれだけにとどまるわけではなく、「聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと」のすべてを含んでいることには注意してください。外国語で書かれた文章を読むのも作者、あるいはその所属する集団とのコミュニケーションとなるのです。

次に(2)ですが、例えば教科書の会話文を暗唱するだけで終わらせず、実際のコミュニケーションの目的・場面・状況に応じて自分で考え、自分で判断し、自分で表現できるようにしましょう、ということになります。例えばその時にネットを利用することもあるかも知れませんが、そうした情報を鵜呑みにするのではなく、自分の中できちんと咀嚼してからアウトプットしよう、ということにもなるわけです。またそれは同時に、どれだけ自動翻訳が発達したとしても、実際のコミュニケーションの目的・場面・状況に対応するためには、そうした思考力や判断力が必要だということも意味しています。この部分を育成するためには、教員が教室で一方向的に知識を押しつけるだけではダメで、生徒側が自分で考えて発表をするといった仕掛けが必要になります。後の章で触れるパフォーマンス課題がこれにあたります。

そして(3)では、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う、ということが説かれています。この態度という部分は、授業での教員への態度、といったつまらない話ではありません。外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけることで、その外国語を勉強しようとする意欲や学習ストラテジーを獲得すれば、自分でさらに勉強を続けていくこともできるわけです。英語の場合は、大学入試科目であるという「大きな問題」があり、場合によっては近視眼的な入試対策に進んでしまうこともありますが、教員が大切にすべきことは生徒がそうした態度を養うことです。もし受験とい

うことを考えるのにも、そうして身につけた外国語を学ぶ意欲や学習ストラテジーが重要になります。

また、外国語の背景にある文化に対する理解、という部分も重要です。ここで言っている文化というのは、これこれの国ではこういうものを食べているとか、こういう服を着ているとか、いついつにはお祭りをするとか、そういう話ではありません。例えば英語の sister は日本語では姉と妹に分かれますし、英語では日本語の「お疲れ様です」に相当する表現はありませんが、それはそれぞれの言語の背景を成す文化が異なっているからで、そういう部分を理解しましょう、ということです。またそれは、自分とは異なる他者への配慮という、一般的な問題にも繋がってきます。

そして、そうした態度の獲得は、英語とそれ以外の外国語だと、自ずと方向性が異なって来ます。英語以外の外国語の学習は、その言語の背景にある文化の理解という要素が非常に強く出てきますし、また英語だけ勉強していたのでは解らなかった学習ストラテジーが、それ以外の外国語を学ぶことで急に見えてくることはよくあります。英語以外の外国語は多くの場合大学受験科目ではないため、勉強して何になるのかといったことを説く方もいますが、この点で考えれば英語学習にとっても有益ということになるわけです。さらに万が一、学習した外国語を実際に使うことがなかったとしても、そうして獲得した態度は人生の様々な分野で役に立てていくことができます。

4. 授業づくりに向けて（単元指導案様式と作成要領）

本プロジェクトでは、高校初修外国語の授業実践における実態を踏まえて、単元指導計画を研究し、指導案様式の開発に取り組んできました。これは『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（中学・外国語）に示された単元指導計画の書き方を参考にしながら、これまで積み上げられてきた高校初修外国語教育の実践から得られた知見、成果を集大成したものです。

以下、プロジェクトで開発した高校初修外国語における単元指導案様式の書き方を、スペイン語の例をもとに説明していきます。

■授業の概要

欄 1

1. 学校名：●●高等学校
2. 科目名：スペイン語
3. 単位数：2単位（50分×週2時間）連続授業
4. 授業者：日比野 規生（専任 外国語科）ALTなし
5. クラスの構成：男子1名 女子6名（3年自由選択科目）
6. 生徒の概況：ほぼ全員が国際系の大学専門学校への進学を希望している。

自由選択科目選択者のため学習意欲が高く、外国語への興味・関心が高い。

欄 1 〈書き方説明〉

授業者が、学習内容を決めて指導案を作成したり、指導案を他の授業者や関係者と共有するうえで必要な要素を、記述します。

年間目標は、基文と資質・能力の3つの柱ごとに、作成します

■年間指導案

1. 年間目標

<p>欄 1</p> <p>高校初修外国語の見方・考え方を働かせ、スペイン語の語法・表現、特徴を学び、スペイン語による言語活動を通して簡単な情報や考えなどを理解したり状況を判断して的確に表現したり伝え合ったりするコミュニケーション能力を身に付ける。</p> <p>スペイン語圏の国々の文化や特徴などに関する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に楽しみながらスペイン語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>		
<p>何を理解しているか？何が出来るか？</p> <p>知識・技能の習得</p>	<p>理解していること・できることをどう使うか</p> <p>思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか</p> <p>学びに向かう力・人間性の涵養</p>
<p>欄 2</p> <p>スペイン語の発音のしかたや語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。</p> <p>スペイン語圏の各国により、語彙や発音が違うことを知る。</p>	<p>欄 3</p> <p>スペイン語によるコミュニケーションを行う目的や場面、状況を的確に判断し、日常的な話題や社会的な話題について、スペイン語を使って簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり伝え合ったりすることができる力を付ける。</p>	<p>欄 4</p> <p>スペイン語に結びついた文化とスペイン語圏の国々の特徴に関する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> <p>スペイン語圏の国々の中でも文化や習慣がそれぞれ異なることを意識し、さらに自国の文化と比較対照しつつ考察し理解しようとする態度を養う。</p>

欄 1 〈書き方説明〉

(1) 基文は、1年間の学習活動が終わるまでに、生徒にどのようなことができるようになり、どのように育ってほしいか、をイメージしながら、『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編』及び「高校初修外国語の見方・考え方」（本書 p. 10）を踏まえて記述します。

当欄の目標は、生徒がどのような力を身に付けるのかを明確にするためのものなので、以下の全ての欄では「生徒」が主語となるように記述します。授業者が生徒に何かをさせるものではないことに注意します。

～基本文例～

・「高校初修外国語の見方・考え方」を働かせ、●●語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと
の言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る。

・●●語の特性及び言語に結びついた文化や社会、●●語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち、日本語圏、●●語圏、英語圏等の文化や社会を理解する。

(2) さらに、見方・考え方には含まれていないが、教師が大事にしたいこと（≒ビリーフ）があれば、記述します。

以下欄2～欄4は、基文を資質能力の3つの柱別に記述します。

※「知識および技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」については、PP. 12-13を参照してください。

欄2 〈書き方説明〉

- (1) 「知識」（何を理解しているか？）「技能」（何ができるか？）をどのように習得するか記述します。
- (2) 「社会・文化事象」について、新たに知見を得るときはこの【知識】に書いても構いません。その時の文末は「知る」とします。

～基本文例～

・●●語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。

欄3 〈書き方説明〉

(1) 「思考力・判断力・表現力」（理解していること・できることをどう使うか）をどのように育成するか記述します。

※少ない学習時間であっても、簡単な情報や考え理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることで、思考力・判断力・表現力の育成は十分可能です。チャレンジしてみましょう。

～基本文例～

・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、●●語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

欄4 〈書き方説明〉

(1) 「学びに向かう力・人間性」（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）をどのように涵養するか記述します。欄4については、どの外国語であっても目的とするところが共通点が多いため、最初の文については【基本文例】に沿って記述します。

～基本文例～

・●●語と結びついた文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に●●語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(2) さらに、教師が大事にしたいこと（≒ビリーフ）や、「高校初修外国語の見方・考え方」に基づき、以下の項目から選択して目標として設定することを推奨します。

- ① ●●語の特性や●●語を使用する人々の考え方、価値観に関心を持ち、日本および●●語圏に住む

人々の文化や社会に目を向け、比較対照しつつ考察し理解しようとする態度を養う。

② コミュニケーションストラテジーを獲得しようとする態度を養う。

③ 目標言語や既習言語・自言語、およびそれとむすびついた文化について、自分で「気づき」を得たりするとともに、課題を発見したりする力、他者を尊重する態度、「学び」の学び、メタ認知能力などを養う。

2. 年間の単元構成

月	単元の内容：欄1	パフォーマンス課題：欄2
4	・アルファベット・発音・アクセントに関する知識 ・挨拶表現・自己紹介の表現	なし
5	・スペイン語圏の国々と文化 ・職業に関するスペイン語 ・主格の代名詞と ser 動詞	あり 『なりきり自己紹介』
6	・数字・時刻の表現 ・疑問詞を使った表現 ・estar と tener を使って体調を表現しよう	なし
7	・¿Cuál es tu ~ favorito(a)?の表現	なし
9	・¿Cuál es tu ~ favorito(a)?の表現の復習と基本的な規則動詞(-ar)動詞との用法を学ぶ	あり 『外国人にインタビューしてみよう』
10	・基本的な規則動詞(-ar -ir -er)動詞の用法を学ぶ	なし
11 12	・比較的長い文章を書き、発表しよう ・スペイン語圏の国の魅力を語ろう。	あり 『突撃○○のお正月』 ～スペイン語圏の国のお正月を紹介する番組に出演しよう～

欄1〈書き方説明〉

(1) おもな学習内容、言語活動などを記述します。

欄2〈書き方説明〉

(1) 単元の目標に沿ってパフォーマンス課題を設定します。必ずしもすべての単元にパフォーマンス課題を設定するのではなく、パフォーマンス課題がある単元とない単元を設定したり、1年間の学習の総仕上げとして最後にパフォーマンス課題を設定したりすることもできます。

(2) 具体的に課題の内容や表題が決まらないが、設定しようと考えている場合には、「あり」と記述します。

※パフォーマンス課題については、PP. 34-39 を参照してください。

■単元指導案

この単元指導案様式は、「2. 単元構成」のなかで、パフォーマンス課題を設定した単元で使われることを想定としています。なお、一部を修正することにより、パフォーマンス課題を設定しない単元で使うこともできます。

1. 単元名

2. 単元目標

単元目標では、年間目標のような基文は、設定（記述）しません。

何を理解しているか？何ができるか？ 知識・技能の習得	理解していること・できることをどう使うか 思考力・判断力・表現力の育成	どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか 学びに向かう力・人間性の涵養
<p>欄 1</p> <p>【知識】スペイン語圏の国の正月の過ごし方を紹介する際に必要な語彙、表現、文法、言語の働きを理解する。</p> <p>【技能】番組を作成するのに必要な表現を正しく活用する技能を身に付ける。</p>	<p>欄 2</p> <p>テレビ番組（動画）によって視聴者に分かりやすく紹介するため、調査したスペイン語圏の正月の過ごし方の特徴について、考えたことや感じたことを、簡単な語句や文を用いて話す。</p>	<p>欄 3</p> <p>紹介の対象となるスペイン語圏の国の正月について粘り強く調べ、それらをわかりやすいスペイン語で表現しようとする。</p> <p>また、正月の過ごし方がスペイン語圏の国々でも異なることを意識した上で、自国の文化とスペイン語圏の国々の文化を尊重する態度を養う。</p>

欄 1 〈書き方説明〉

(1) 単元で身に付ける【知識】と【技能】を別々に記述します。

～基本的な記述方法～

- ・【知識】は、具体的な語彙・文法・表現を記述し、文末を「理解する」とします。
- ・【技能】は、一定の場面のもとで、ある知識を活用する技能を身に付けること及び、それが「5領域」のどれにあたるのかを記述し、文末は「～する技能を身に付ける」とします。

欄 2 〈書き方説明〉

(1) この単元で設定したパフォーマンス課題によって、どのような思考力・判断力・表現力が身に付くのか記述します。

～基本的な記述方法～

- ・【どのような状況（対象）】で【どのような目的】のために、【どのような話題】について（考えたことや感じたことを）、【知識・技能】を用い（るなどし）て【5領域のどれか】をして（理解／概要をとらえることが／表現／etc）できる、のように記述します。

欄 3 〈書き方説明〉

(1) 「学びに向かう力・人間性」については、次の二つの考え方にもとづいて記述します。

- ①「学びに向かう力・人間性」は時間をかけて生まれ、特定の領域・単元だけではなく、年間を通じて達成されるものです。したがって、基本的には年間目標がそのまま単元目標になります。
- ②年間目標の中で、その単元では設定していない要素や、その単元のパフォーマンス課題（言語活動）で特に強調したい要素がある場合は、年間目標の表現をその単元に合わせて一部変更します。

3. パフォーマンス課題で取り上げる社会・文化事象とその扱い方

欄 1

正月の過ごし方：スペイン語圏の国々の正月の過ごし方を調べ、各国の過ごし方を比較してその異同の背景を考察するとともに、日本の正月の過ごし方と比較する。それらと文化の連関について考察する。

欄 1 〈書き方説明〉

(1) 取り上げる社会・文化事象について、「知る」「気づく」「比べる」「考える」などの観点を組み合わせて、指導内容を設定します。この際、高校初修外国語の見方・考え方に沿って、言語活動と関連づけるように留意します。

※「高校初修外国語の見方・考え方」(一部抜粋)(本書 p. 10)

①外国語、およびそれとむすびついた文化について、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、目的・場面・状況等に応じて情報や考えなどを形成・整理・再構築し、外国語で表現し伝え合うことによって、よりよい人間関係の形成、社会への参画および自己の実現をしようとする。

【解説】

・外国語とむすびついた文化は単元目標に基づいた言語活動を通じてこそ理解される、という視点が大事である。

・ここである文化の学びとは、いわゆる「3F (Food, Fashion, Festival)」に代表されるような、目標との県連が希薄で、コンテンツを単に紹介して終わりというものではない。

4. 他教科・他科目との関連

欄 1

次の2例を参考にする。

- ・英語コミュニケーションI (1年)における、年間約6回のパフォーマンス課題設定例
- ・総合的探究の時間(1～3年)における、調べたことを聞き手の立場になって発表するプレゼンテーション活動

欄 1 〈書き方説明〉

(1) その単元で養われる能力が、他教科や他科目の内容が参考になったり、活動に連関が考えられるときには、どのような関係にあるのか記入します。

5. パフォーマンス課題

欄 1

あなたはスペイン語圏の国に住む人物です。今回、日本のテレビ局の依頼で、あなたの国の正月のイベントを日本人に紹介する番組に出演することになりました。自己紹介や、現地の時刻などを含め、3分程度の番組を制作してください。

欄 1 〈書き方説明〉

(1) パフォーマンス課題は授業内で学んだ個々の内容を使って、生徒が総合的にアウトプットできるように設定し、記述します。※パフォーマンス課題については、PP. 34-39を参照してください。

逆向き設計と「指導と評価の一体化」の観点から、
単元目標の達成度を評価します。

6. 単元指導における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	高校初修外国語として重視すること
⇒観点別学習状況評価（数値化＝評定化する）			⇒（数値化しない）
欄1 【知識】 ・スペイン語圏の国の正月の過ごし方を紹介する際に必要な語彙、表現、文法、言語の働きを理解している。 【技能】 ・番組を作成するために必要な表現を正しく活用する技能を身に付けている。	欄2 テレビ番組（動画）によって視聴者に分かりやすく紹介するために、調査したスペイン語圏の正月の過ごし方の特徴について、考えたことや感じたことを、簡単な語句や文を用いて話している。	欄3 紹介の対象となるスペイン語圏の国の正月について粘り強く調べ、それらをわかりやすいスペイン語で表現しようとしている。	欄4 ・学んだスペイン語を授業外でも積極的に活用しようとしている。 ・新年の過ごし方という事柄を自国の文化と比較するという視点を持ち、スペイン語圏との文化の違いに自ら気づきを得ている。

欄1 〈書き方説明〉

(1) 評価規準については、単元目標の「理解する、知る、身に付ける」の文末を書き換えて、「理解している、知っている、身に付けている」とします。

～基本文例～

・【知識】この単元に必要な比較の表現を理解している。／この単元に必要な発音の規則や符号の規則を理解している。／この単元に必要な人称・時制による動詞の形態を理解している。／この単元に必要なさまざまな国名の語彙を理解している。／この単元に必要な数の表現を理解している。／●●語圏の祝祭日を知っている。／●●語圏の年齢の教え方を知っている。

・【技能】この単元に必要な比較の表現を書いたり話したりする技能を身に付けている。／この単元に必要な発音の規則や符号の規則を書いたり読んだりする技能を身に付けている。／この単元に必要な人称・時制による動詞の形態を聞いたり話したりする技能を身に付けている。／この単元に必要なさまざまな国名の語彙を書く技能を身に付けている。／この単元に必要な数の表現を聞いたり話したりする技能を身に付けている。／既習の数の表現と比較の表現をもとに、この単元に必要な年齢について聞いたり話したりする技能を身に付けている。

欄2 〈書き方説明〉

(1) 単元目標の「できる」をここでは「ている」とします。

(2) 【どのような状況（対象）】で【どのような目的】のために、【どのような話題】について（考えたことや感じたことを）、【知識・技能】を用い（るなどし）て【5領域のどれか】をして（理解し／概要をとらえ／表現し／etc）ている、という構成で記述します。

～基本文例～

・スペイン語圏からの留学生に学校の教室を紹介するために、教室の使い方や特徴について、考えたことや感じたことを、簡単な語句や文を用いて話している。／中国の高校生の一日を書きまとめるために、調査した高校生の活動や行動について、時間軸に沿って、動詞・目的語構文を用いるなどして書いて表現している。／・韓国の有名人になりきってロールプレイするために、誕生日や年齢について、数詞などを用いて話したり聞いたりしてやりとりしている。／・簡単な英語で書かれた記事を理解するために、その内容について、既習の語句や文を用いて読んで概要をとらえることができる。

欄3 〈書き方説明〉

(1) 単元目標「学びに向かう力・人間性の涵養」の「主体的に●●語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」のうち、「授業等において積極的に外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度」についての評価規準を記述します。

(2) 「思考力・判断力・表現力」の目標の文末を、ここでは「～しようとしている」に書き換えて記述します。併せて、以下のような状況についても評価します。（『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』（中学・外国語）p.31）

～基本文例～

- ・当該単元の学習に粘り強く取り組んでいる。
- ・見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しようとしている。

欄4 〈書き方説明〉

(1) 単元目標「学びに向かう力・人間性の涵養」の「主体的に●●語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」のうち、「学校教育外においても、生涯にわたって継続して外国語習得に取り組もうとする態度」（『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編』p16）に併せて、高校初修外国語の見方・考え方に基つき、授業者が設定した目標についての評価規準を記述します。

(2) 生徒自身が教員の仕掛けによって何かに気付いたり思考を深めるときは「深めようとしている、気づいている、親しんでいる」などと記述します。

～基本文例～

- ・●●語圏と日本との社会・文化について比較などを通してより親しんでいる。
- ・本単元での学習活動を通し、自らの課題を発見し、今後の学習に生かそうとしている。

7. 各次の指導と評価の具体的な計画

欄1 次	欄2 学習活動	欄3 具体的な評価規準	欄4 評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元の目標説明 ・紹介する国の正月のイベントを決定する 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>番組の趣旨を理解し視聴者に興味を持たせる正月のイベントを決定している。</p>	<p>番組構成シートの点検</p> <p>【思考・判断・表現】 読・書</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・番組に使えるような表現を探す。 ・インタビューシートを作成しクラスメイトからのインタビューに答える。 	<p>【知識・技能】 番組に使えるようなスペイン語の表現を探し意味や語法を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>インタビューシートの質問の内容を正しく理解し、正月のイベントをスペイン語で表現している。</p>	<p>番組構成シートの点検</p> <p>【知識・技能】 読・書</p> <p>【思考・判断・表現】 聞・や</p>
3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューシートをもとに番組構成を確定し台本を完成させる 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>魅力的で視聴者が興味を持てる番組構成を考えて台本を作成している。</p> <p>【知識・技能】 氏名、年齢、職業、出身などの表現をペアワークなどで確認しながら練習している。</p>	<p>番組構成シートの点検・取り組み状況の確認</p> <p>【思考・判断・表現】 書</p> <p>【知識・技能】 発・や</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・リハーサル 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>自分が工夫し、意図をもって構成した部分が効果的に表現できるか確認している。</p>	<p>(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する)</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・撮影 	<p>【知識・技能】【思考・判断・表現】</p> <p>準備した番組構成の意図を踏まえて、正しく発表している。</p>	<p>パフォーマンス評価(ループリック)。</p> <p>【知識・技能】【思考・判断・表現】</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・番組視聴・質疑 	<p>【主体的に学ぼうとする態度】</p> <p>発表を積極的に聞き、自ら進んで疑問に思ったことなどを積極的にスペイン語でやりとりしようとしている</p>	<p>視聴メモの確認 聞・書</p> <p>振り返りシート</p>

欄 1 〈書き方説明〉

(1) 「時」と記入する場合は、その授業が何時間めに行うかを示します。「次」と記入する場合は、その授業がどのようなまとまりで行われているかのおおよその順番を示します。

欄 2 〈書き方説明〉

(1) 各次で行う、主な学習活動を記述します。

欄 3 〈書き方説明〉

(1) 「**6. 単元指導における評価規準**」に沿って設定した学習活動のなかで、三つの観点のどれを、どのようなポイントで評価するのか具体的に記述します。

※授業内のすべての学習活動を評価するわけではありません。

欄 4 〈書き方説明〉

(1) 欄 3 で設定した評価規準を具体的にどのような方法（ワークシート、パフォーマンス課題等）で評価するのか記述します。

※興味付けに行う授業や、パフォーマンス課題を発表する前の練習の次など、評価の対象となるものがない時には、「記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する」等と記入します。

ここまで、スペイン語の単元指導案に、書き方要領を併記して説明をしました。以下に示すのは、この書き方要領に沿って作成された、中国語の単元指導案です。

単元指導案作成要領に基づいた指導案事例（中国語）

■授業の概要

1. 学校名：神奈川県立藤沢総合高等学校
2. 科目名：中国語入門・中国語発展
3. 単位数：それぞれ半期2単位
4. 担当者：潮田央（TTあり）
5. クラスの構成：男子5名 女子15名（2・3次生選択科目）
6. 生徒の概況：外国語に対する興味・関心が高い。

■年間指導案

1. 年間目標：

<p>高校初修外国語の見方・考え方を働かせ、中国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る。中国語の特性及び言語に結びついた文化や社会、中国語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち、日本語圏、中国語圏、英語圏等の文化や社会を理解する。</p>		
<p>何を理解しているか？何ができるか？ 知識・技能の習得</p>	<p>理解していること・できることをどう使うか 思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか 学びに向かう力・人間性の涵養</p>
<p>中国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>中国語を使ってコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、中国語を使って簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p>	<p>中国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に中国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 中国語の特性や考え方、価値観に関心を持ち、日本語圏、中国語圏、英語圏等の文化や社会を理解しようとする態度を養う。</p>

2. 年間の単元構成

月	単元名	パフォーマンス課題
4・5	中国語で挨拶して名刺交換しよう	挨拶して名前や国籍を言う（会話、ピンインの読み方、発音）
6	教室のなかのものを言い当ててみよう	物当てクイズ（疑問詞）
7	買い物してみよう	買い物のロールプレイ（会話、数字の学習）
8・9	自己紹介カードを作ってみよう	既習事項を使った、自己紹介カードの作成（挨拶、名前、住んでいる場所）
10	①朗読大会に参加しよう ②誕生日あてゲーム	①漢詩を使った朗読大会（発音の総復習） ②数字、年月日、週の言い方
11	中国の高校生の一日を紹介しよう	動画のアップ（ピンインの入力、時間詞、動作）
12	ビデオレターで文通しよう	ビデオ撮影（観光地の情報、交通機関、金額、所要時間の言い方）
1	無くしたものを探してみよう（先週一週間のできごとを確認しよう）	スケジュール帳の記入（過去の表現、補語）
2・3	将来の自分に手紙を書こう	手紙の表現方法、時制表現、補語

■単元指導案

1. 単元名 中国の高校生の一日を紹介しよう

2. 単元目標

何を理解しているか？何が出来るか？ 知識・技能の習得	理解していること・できることをどう使うか 思考力・判断力・表現力の育成	どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか 学びに向かう力・人間性の涵養
【知識】 ・活動や行動について、動詞・目的語を使う文の構造を理解する。 ・時間詞を用いた文の構造を理解する。 【技能】 ・活動や行動について、動詞・目的語文や時間詞を使った文を用いて書く技能を身に付ける。 ・動画サイトにアップするために、PCで中国語を入力（ピンインや音声入力等）する技能を身に付ける。	・中国の高校生の一日をまとめるために、調査した高校生の活動や行動について、PCを使って時間軸に沿って、動詞・目的語構文を用いるなどして書くことができる。	・中国の高校生の一日をまとめるために、調査した高校生の活動や行動について、PCを使って時間軸に沿って、動詞・目的語構文を用いるなどして書こうとする。 中国語圏における、動画と字幕の関係について理解しようとする。

3. パフォーマンス課題で取り上げる社会・文化事象とその扱い方

- ・日本と中国の高校生の一日のスケジュールを比較する。
- ・中国語圏における動画での字幕の役割を理解する。

4. 他教科・他科目との関連

○1年次

- ・社会と情報… キーボードの使用法
- ・国語総合（旧カリ）… 「自己紹介をしよう」目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりする。（話す・聞く力）
- ・産業社会と人間… 「他者とのかかわり方を考える」職業人インタビュー

○2、3年次

- ・スペイン語入門・発展… 「スピーチ」（初習外国語を用いた発表で用いられる表現）
- ・総合的な探究の時間（課題研究）

総合学科では、発表活動に力を入れており、どの科目でも発表の機会を多く設定している。とくに、「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」は基幹科目であり、学習活動の総まとめの科目であり、発表に関する学習で身に付いた力を試す場となっている。

5. パフォーマンス課題

中国の高校生の一日を紹介するために、その人物の一日のスケジュールや、趣味・活動について紹介する動画を作成し、字幕を付し、動画サイトにアップする。

6. 学習指導における具体的な評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	高校初修外国語として重視すること
⇒観点別学習状況評価（数値化＝評定化する）			⇒個人内評価
【知識】 ・活動や行動について、動詞・目的語を使う文の構造を理解している。 ・時間詞を用いた文の構造を理解している。 【技能】 ・活動や行動について、動詞・目的語文や時間詞を使った文を用いて書く技能を身に付けている。 ・動画サイトにアップするために、PCで中国語を入力（ピンインや音声入力等）する技能を身に付けている。	・中国の高校生の一日をまとめるために、調査した高校生の活動や行動について、PCを使って時間軸に沿って、動詞・目的語構文を用いるなどして書いている。	・中国の高校生の一日をまとめるために、調査した高校生の活動や行動について、PCを使って時間軸に沿って、動詞・目的語構文を用いるなどして書こうとしている。	中国語圏における、動画と字幕の関係について理解しようとしている。

7. 各次の指導と評価の具体的な計画

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1	・「中国の高校生の一日を紹介しよう」動画を見て、単元の目標を理解する。 ・趣味や好きなことを表現するために、動作についての単語やその決まりを理解する。 ・教科書の文を使って、人物が何をしているか伝え合う。	【知識・技能】 ・活動や行動について、動詞・目的語を使う文の構造を理解している。	・ペーパーテストによる確認（6次） → 【知識・技能】
2	・教科書やプリントの絵を見て、人物が何をしているかペアで伝え合う。	【思考力・判断力・表現力】 ・中国の高校生の一日をまとめている。	（記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する）

3	<p>・好きなこと、動作を表現する単語やきまりについて口頭で知識・技能を確認する。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>・「中国の高校生の一日」動画を作成する際に、活動や行動について、動詞・目的語文や時間詞を使った文を用いて書く技能を身に付けている。</p> <p>・動画サイトにアップするために、PCで中国語を入力（ピンインや音声入力等）する技能を身に付けている。</p>	<p>・口頭での確認（4次）</p> <p>→【知識・技能】</p> <p>・振り返りの記述の分析</p> <p>→【主体的に学習に取り組む態度】</p>
4	<p>・教科書を用いて、数字についての表現を復習し、時間表現についての特徴やきまりを理解する。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>・時間詞を用いた文の構造を理解している。</p>	<p>・ペーパーテストによる確認（7次）</p> <p>→【知識・技能】</p>
5	<p>・中国の典型的な高校生の一日のスケジュールの表を見て、Google Jamboard を使って整理する。</p>	<p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>・中国の高校生の一日をまとめるために、調査した高校生の活動や行動について、PC を使って書いている。</p>	<p>・Google Jamboard の記述の観察、確認</p> <p>→【思考力・判断力・表現力】</p>
6	<p>・「中国の高校生の一日を紹介しよう」動画を撮影し、動画の字幕を作成する。</p> <p>・撮影した動画をクラス内での閲覧に限定した Google サイトにアップする。</p>	<p>【思考力・判断力・表現力】</p> <p>・中国の高校生の一日をまとめるために、調査した高校生の活動や行動について、PC を使って時間軸に沿って、動詞・目的語構文を用いるなどして書いている。</p>	<p>（記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動をj確認する）</p>
7	<p>・お互いの動画を見て、GoogleForms に内容についてコメントし、評価を投票する。</p> <p>・パフォーマンス課題についての達成状況を振り返り、自己の課題を明確にする。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>・中国の高校生の一日をまとめるために、調査した高校生の活動や行動について、PC を使って時間軸に沿って、動詞・目的語構文を用いるなどして書こうとしている。</p>	<p>・動画の視聴による行動の確認</p> <p>→【知識・技能】</p> <p>→【思考力・判断力・表現力】</p> <p>→【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>・振り返りの記述の分析</p> <p>→【主体的に学習に取り組む態度】</p>

資料編

1. 逆向き設計

逆向き設計（バックワードデザイン）によるカリキュラム設計とは、まず目標を考えて、そこから逆算して毎回の授業を組み立てていくというものです。一昔前であれば、特に予定を決めないまま毎回の授業で場当たりに教科書をこなし、中間試験や期末試験が近づくと、ここまで勉強したからこういうテストをしよう、という教員もいました。しかし現在、そういう授業をやっている教員はいないと思います。最初に学期なり学年なりの到達点を考えて、そこから逆算して毎回の授業を組み立てている方がほとんどでしょう。その意味では、逆向き設計は一般的なものと言えます。

問題は、そこで設定している「目標」です。「教科書を終わらせる」とか、「何々という文法項目までやる」といったことではダメなのです。もちろん、教科書は最後までやるのかも知れませんが、また特定の文法項目まで学習はするのでしょう。しかし前の章で述べたとおり、「生きて働く知識・技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」の「育成すべき資質・能力の三つの柱」によって授業を設計するので、授業の組み立てもそれに沿ったものを考えなければなりません。逆に言うと、「育成すべき資質・能力の三つの柱」による授業を実現するためには、逆向き設計によるカリキュラム設計をすればよい、ということになります。

最初に考えるべきは、年間目標です。1年間学習することで、生徒にこのようになって欲しいということを考えます。これは漠然と頭の中で思い浮かべるのではなく、文字化した方が思考の整理にも役に立ちます。本編で解説した単元指導案様式ではこれを記入する欄を設定しています。教員がある種の「書類慣れ」をしていたりすると、その時の癖で「グローバルに活躍できる人材を育成する」といったような、妙に抽象的なことを書いてしまいがちですが、そうではなく、到達したかどうかを実際に測ることができることでなければなりません。「初級文法を一通り理解する」というのもダメです。これだと、生徒が初級文法を一通り理解したとして、ではそれがどうなるのか、という視点が欠けているからです。

年間目標は、あくまでも「育成すべき資質・能力の三つの柱」によって設定します。次の例を見てください。

高校初修外国語の見方・考え方を働かせ、スペイン語の語法・表現、特徴を学び、スペイン語による言語活動を通して簡単な情報や考えなどを理解したり状況を判断して的確に表現したり伝え合ったりするコミュニケーション能力を身に付ける。

スペイン語圏の国々の文化や特徴などに関する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に楽しみながらスペイン語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

「スペイン語の語法・表現、特徴を学び」という部分は「生きて働く知識・技能の習得」、「スペイン語による言語活動を通して簡単な情報や考えなどを理解したり状況を判断して的確に表現したり伝え合ったりするコミュニケーション能力の育成を目指す」という部分は「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」、「スペイン語圏の国々の文化や特徴などに関する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に楽しみながらスペイン語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」という部分は「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」です。非常にすっきりしていますね。

また、年間の授業は幾つかの単元に分かれているので、今度は単元目標を立てます。単元目標もまた、「育成すべき資質・能力の三つの柱」によって設定します。年間目標は幾つかの単元目標から構成されており、個々の単元目標が達成されれば年間目標が達成されるという関係にあります。次の例を見てください。

何を理解しているか？何が出来るか？ 知識・技能の習得	理解していること・できることをどう使うか 思考力・判断力・表現力の育成	どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか 学びに向かう力・人間性の涵養
<p>【知識】 スペイン語圏の国の正月の過ごし方を紹介する際に必要な語彙、表現、文法、言語の働きを理解する。</p> <p>【技能】 番組を作成するのに必要な表現を正しく活用する技能を身に付ける。</p>	<p>テレビ番組（動画）によって視聴者に分かりやすく紹介するために、調査したスペイン語圏の正月の過ごし方の特徴について、考えたことや感じたことを、簡単な語句や文を用いて話す。</p>	<p>紹介の対象となるスペイン語圏の国の正月について粘り強く調べ、それらをわかりやすいスペイン語で表現しようとする。</p> <p>また、正月の過ごし方がスペイン語圏の国々でも異なることを意識した上で、自国の文化とスペイン語圏の国々の文化を尊重する態度を養う。</p>

「スペイン語圏の国の正月の過ごし方を紹介する際に必要な語彙、表現、文法、言語の働きを理解する」という部分は「知識・技能の習得（何を理解しているか？何が出来るか？）」、「テレビ番組（動画）によって視聴者に分かりやすく紹介するために、調査したスペイン語圏の正月の過ごし方の特徴について、考えたことや感じたことを、簡単な語句や文を用いて話す」という部分は「思考力・判断力・表現力の育成（理解していること・できることをどう使うか）」、「紹介の対象となるスペイン語圏の国の正月について粘り強く調べ、それらをわかりやすいスペイン語で表現しようとする。また、正月の過ごし方がスペイン語圏の国々でも異なることを意識した上で、自国の文化とスペイン語圏の国々の文化を尊重する態度を養う。」という部分は「学びに向かう力・人間性の涵養（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）」です。やや抽象度が高かった年間目標を、この単元で行う「スペイン語圏の国の正月についての紹介」というテーマに下ろして設定しています。

次に、この単元目標を達成するための授業を組み立てます。各回の授業を、「スペイン語圏の国の正月についての紹介」ができるようになるために必要な語彙・表現を学び、パフォーマンス課題を行うという流れに落とし込むのです。この単元目標に沿って評価を行うことになります。

ただしカリキュラムの設計は、必ずしも年間目標→単元目標→授業の順番ですんまり決まるわけではありません。年間目標を立てて単元目標を考えた後、単元目標を元にもう一度年間目標を見直すこともありますし、単元目標から授業を設定した後、それに合わせて単元目標を弄ることもあります。このように、年間目標・単元目標・授業の三者を行ったり来たりしながら、最終的にカリキュラムの設計を完成させていきます。

2. パフォーマンス課題

(1) パフォーマンス課題の位置付け

この章では、より実践的な内容へと移る前に、この手引きでのパフォーマンス課題とその評価の考え方について説明します。この手引きに興味を持ち、こうして手に取ってくださっている方々の中には、すでに一度や二度ならず授業でパフォーマンス課題を実践されている方、また、実際に実践してはいるもののこのようなやり方で良いのか、という疑問を胸に頁を繰っている方も多いのではないのでしょうか。この章では、まずはこの手引きでのパフォーマンス課題の考え方を確認します。そして、課題とその評価を授業内の活動としてどのように位置付けているのかを説明します。その上で、前章で述べたようなバックワードデザインの考え方にに基づきつつ、一年を通した授業計画を通じてより一貫性があり、生徒に実施意図の伝わりやすいパフォーマンス課題をどのようにデザインするのか、ということについて考えていきましょう。

(2) パフォーマンス課題をやりっぱなしにしない

パフォーマンス課題をこれまで実際に授業で実践したことのある先生はきっと、課題に実際に取り組ませることで、授業をあまりきちんと聞いていなかったように見える生徒が意外にも生き生きとロールプレイングの課題に創意工夫をして取り組んでいることに気づいたり、思っていたよりも生徒がしっかりと教えたことを習得しているということに喜びを感じたりといった経験を持っているかと思います。生徒が実際に学んだ言語を口に出したり、会話として使いこなそうとしたり、自分の考えを用いる手段とする段階になると、どの程度教員側が「教えたこと」が生徒に「学ばれているのか」ということが手に取るようにはっきりとわかる、教員にとっては教育の実感が持てる場面です。一方で、小テストでは成果を出していた生徒がコミュニケーションでそれを実践する段となると途端に間違いを連発してしまったり、あるいは教室の前に立つや黙り込んでしまう生徒がいたり、とパフォーマンス課題の活動をクラスの中でマネジメントしていくことには困難が伴い、それはクラスの習熟度が初心者であればあるほど、そしてクラスの規模が大きければ大きくなるほど、難しくなっていくものです。

こうした豊かで多様かつ、マネジメントに困難と実感の伴う活動であるからこそ、パフォーマンス課題をやった、ということだけで活動を終えてしまっていないか、という疑問を敢えて問うてみようと思います。パフォーマンス課題は他の授業内の活動と連関を持っていますか？課題の意図は生徒にきちんと理解されていると思いますか？生徒がパフォーマンス課題で実際に行ったことは適切に評価できているのでしょうか？こういった点に留意してパフォーマンス課題と評価を授業計画の中にバックワードデザインで組み込むだけで、授業内の活動としてのパフォーマンス課題の意義と効果は大きく変わります。

(3) パフォーマンスの課題の設定とその評価

具体的に授業計画に一致した形でパフォーマンス課題とその評価をデザインする前に、この手引きが考えるパフォーマンス課題の重要な二つのチェックポイントを見てください。皆さんが実際に実施している課題はこのポイントから見るとどうなるのか、考えてみてください。

- ① このパフォーマンス課題は授業内で学んだ個々の内容を使って、生徒が総合的にアウトプットするものとなっていますか？
- ② このパフォーマンス課題の延長上に実際に生徒が実生活でこの言語を用いて対処できるような場面や状況が想定されていますか？

では、一つ一つのチェックポイントについて見てみます。

- ①このパフォーマンス課題は授業内で学んだ個々の内容を使って、生徒が総合的にアウトプットするものとなっていますか？

このチェックポイントはパフォーマンス課題の総合性を確認するためのものです。パフォーマンス課題の考え方は、その単元で学んだ個々の文法項目や表現、語彙、そして文化的な項目などが小テストで確認できるような記憶としての技能的な知識としてだけではなくて、生徒がすでに持っている知識や言語観と文脈化して関係づけられ、その生徒固有の生きた能力として習得されることを課題の実践を通して促し、それを評価の形で確認しようとするものです。

パフォーマンス課題が総合的なものとして設定されていれば、生徒が実際にその活動を行うときに評価すべき項目は非常に多岐にわたることに気づくでしょう。学んだ文化的項目を場面設定にあった形で選択できているかどうか。言おうとしている内容にあった語彙を適切な文法、表現を用いて使えているかどうか。その課題が発表ややりとりであれば、発音やイントネーションは適切か。書く課題であれば、綴りや文字はどうだろうか。さらに評価項目はこういったその単元で直接的な内容にとどまりません。相手との何らかの形でのコミュニケーションを図り、考えを伝えようとするこの行動において、相手にわかりやすく伝えようという工夫や意図は見てとれるか。あるいは、一度の試みで伝わらないときに粘り強くコミュニケーションを続けようという気持ちがあるか。もしくは、想定していないような事態が出現したときに、これまでの知識を総動員して対処しようとしているか、などです。

このような異なったレイヤーに跨る様々な評価項目は小テストのように単純に評価することはできないので、ルーブリックを用いてこちらも総合的に評価することになります。もちろん全ての項目を評価することはできません。後述するように、授業の目標との一貫性を図りながら、その点を評価する方法を考える必要があります。

- ②このパフォーマンス課題の延長上に実際に生徒が実生活でこの言語を用いて対処できるような場面や状況が想定されていますか？

二つ目のチェックポイントは、パフォーマンス課題における「オーセンティシティ」を確認するものです。言語教育において、「オーセンティシティがある」とは、学習者が実際に実生活でその言語を使う状況、場面に則している、ということの意味します。バラバラの知識として学んだ文法や語彙などを、実際に生徒たちが実生活で用いそうな文脈や場面に置き直し、なるべく実践に近い形でどのようにそれらの知識をツールとして用いることを実践させることで、パフォーマンス課題は単なる課題ではなく、生徒にと

っての一つの外国語使用経験となるのです。課題を教科書での学びを実生活へと繋げていく経路地がいわば教室だと考えると良いのかもしれませんが。

まずは、これまで皆さんが実施してきたパフォーマンス課題を振り返り、この二つのチェックポイントを満たしているか、満たしていないとしたらどのようなところを変更すれば満たすようになるのかを考えてみましょう。

次の節では、もう一歩ステップアップして、この二つのチェックポイントをクリアしたパフォーマンス課題を1年間の授業計画の中に組み込む、ということを考えてみます。

(4) パフォーマンス課題を授業計画に組み込む

パフォーマンス課題を授業計画に組み込み、一貫性のあるものにするための4つのチェックポイントを以下に挙げます。

① その課題を行うことで、あなたの授業全体の年間の目標とその単元の目標としてあげられている項目を達成できますか？

② その課題のルーブリックでの評価項目は、年間の目標と単元の目標を評価するものとなっていますか？また、生徒が評価項目を見た時、どのように学習していけば習熟度が高まるのか生徒自身が理解できるように段階づけられていますか？

③ パフォーマンス課題は、年間目標・単元目標と一貫性のあるルーブリックの評価項目を実現できるような内容として設定されていますか？

④ ルーブリックの評価をどのように授業活動、そして評定と関連づけるかが設定されていますか？

では、一つ一つのチェックポイントを見てください。

①その課題を行うことで、あなたの授業全体の年間の目標とその単元の目標としてあげられている項目を達成できますか？

一番初めに設定されていますが、このポイントが慣れるまで最も難しく感じるかもしれません。また、このポイントをクリアするためには、次の②と③のポイントと一緒に考えて、行ったり来たりしながら相互を調整していく必要もあるかもしれません。

前章で示した通り、この手引きが提案するのは、バックワードデザインでの授業の設計です。したがって、まず、1年間を通して（あるいは、もっと長いスパンで、この言語を学ぶことを通じて、あるいは言語そのものを学ぶことを通じて）生徒に習得してもらいたい根本的な「外国語を学ぶことでどのような人間となって欲しいのか」という大きく抽象的な目標、さらにそれを実現するためのより具体的な1年間での年間到達目標、さらに1年を通じてその目標に到達するための個々の単元の目標、というように大きな目標を解きほぐして細分化していく、という形で授業計画の骨組みを作る、ということになります。このとき、個々のパフォーマンス課題の設定は常に、この大きな目標へと結びつけられることとなります。例えば、大きな目標が「言語の違う他者とも粘り強くコミュニケーションのあり方を探ることがで

きる」で、年間の目標が「スペイン語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、スペイン語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を身に付けることを目標とする。また、スペイン語を学習することで触れる文化やスペイン語圏の人々の暮らしについて気づき、日本及び英語圏の国の文化や社会について言語と関連した経験、比較、考察をする」¹⁰であれば、パフォーマンス課題は、この2段階の大きな考え方を部分的にでもパフォーマンス課題を通して生徒ができていのかを観察し、評価できるような課題を設定する、ということになるのです。もちろん、単元ごとに習得する表現や語彙、文法、文化的な内容などが習得されているかが都度つどのパフォーマンス課題で確かめられなくてはならず、それが個々の課題の差異を生むわけですが、この大きな目標が課題の中に通底していることが、皆さんにとっても授業実践のマイルストーンとなるわけですし、生徒にとっては、授業の一貫性として受け取られることになるのです。

②その課題のルーブリックでの評価項目は、年間の目標と単元の目標を評価するものとなっていますか？また、生徒が評価項目を見た時、どのように学習していけば習熟度が高まるのか生徒自身が理解できるように段階づけられていますか？

①の項目と連続しますが、この年間の大きな目標から単元ごとの小さな目標と、パフォーマンス課題の一貫性が取れているのと同時に、それを評価する項目もまた、これらと一貫したものである必要があります。つまり、目標として設定されたものが到達できているのかを課題を通して評価する、というロジックがあるのです。つまり、目標と課題と関連のある評価項目を考えなくてはなりません。先ほど二節でも述べた通り、パフォーマンス課題は小テストのように単一の評価基準で点数化することのできない総合的な課題です。したがって、評価の指標は総合的に評価するために複数置かれることになる一方で、どの項目を特に評価するのか、取捨選択する必要があります。さらに、ここで評価される内容は「できる／できない」の二択で評価できるようなものではないので、評価の形式は必然的に複数の項目を複数の段階から評価するルーブリックの形式となるわけです。

したがって、評価の項目は、年間の抽象的な「外国語に取り組む態度」を見るような目標から、単元の個々の文法項目を習得できていることを見るような目標までの様々なレイヤーにわたります。

さらに、もう一つ重要なことはこの評価項目は、「できる／できない」ではなく段階的に評価されるということです。つまり、どの程度できていたら、どの段階として評価するのか、ということを明確に言語化する必要があります。この段階の言語化は、生徒にルーブリックを公開する際に、生徒が次に自分が目指すべき段階を示すガイドになり得ます。例えば、発音に関してB評価だった生徒は、A評価の記述を見れば、どのような点を改善すればAに至ることができるのか、ということの評価の項目を見ることで学ぶのです。

¹⁰ 神奈川県立藤沢総合高等学校のスペイン語指導案（授業者：佐々木亮太、2023年8月版）から引用。指導案全体は本書 pp. 67-72 を参照。

③パフォーマンス課題は、年間目標・単元目標と一貫性のあるルーブリックの評価項目を実現できるような内容として設定されていますか？

先ほど述べたように、この①～③までのチェックポイントは、相互に関連していて、設定する際に、目標、課題内容、評価項目の間を行きつ戻りつしながら、調整していく必要があります。この3つ目の項目は、評価と課題の内容に一貫性があるかを見るものです。単元の目標に従って、「一般動詞の使い方と表現方法を理解し、使うことができる」という項目が評価に設定されているとしたら、それは具体的にどのような課題の実施から評価できるのでしょうか？また、それと同時に年間の目標にしたがって、「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図ることができる」¹¹というより広い評価項目が設定されているとき、設定されているパフォーマンス課題はこの単元目標に関連した評価項目と年間目標に関連した評価項目とを同時に評価できるような課題となっているのでしょうか？

④ルーブリックの評価をどのように授業活動、そして評定と関連づけるかが設定されていますか？

最後のチェックポイントは、これまでに説明した①～③の内容とは少し性質が異なるものです。この項目は、評価をどのように授業に組み込んでいるか、あるいは、評定とどのように関係づけるか、ということを確認できているかということを見ます。まずは、評価を授業の具体的な活動にどのように組み込むか、という点ですが、ルーブリックでの評価を行う場合、このルーブリックを単元の授業の進行中に生徒と共有することは、一つの重要な授業内活動となり得ます。つまり、ルーブリックを生徒とのコミュニケーションツールとして授業ない活動に組み込むことで、この単元ではどのようなポイントが学習すべき内容として設定されていて、どのような点が課題において評価されているのか、ということ（つまり、これらは①～③で関連を図ったことで授業および単元の目標となるわけですが）を生徒と共有することが可能になるのです。①～③のポイントを踏まえることで生徒は、目標を評価を通じて知り、課題を通じて実践するということが可能になるのです。

もちろん、授業というものは、蓋を開けてみなくてはわからないもので、その時その時の学校の状況、クラスのメンバーなどに応じて変化していくものです。授業計画を事前にデザインしておいても、実際に課題をさせてみたところで、思わぬところが膨らんだり、盛り上がったり、生徒の気づきが多く得られたり、ということを経験されたことが皆さんおありなのではないかと思います。そのような、そのクラスだけの発見を評価の中に組み入れて、目標の方を有機的に変化させていくこともまた、このような一貫性があってこそ可能になるのです。

さらに、評価と評定の問題ですが、このように考えるとパフォーマンス課題をルーブリックで評価するという活動自体が、授業の学習の外にあるのではなく、言語を学ぶという活動の重要な一部分を占めることとなります。その授業で学んだことの意味や位置付けを生徒が理解する活動が評価だからです。つまり、評価とはすでに言語教育と言語学習の活動の一環であるということ、そのことを踏まえた上で、この評価をどのように反映させるのか、ということをやはり明確化しておく必要があります。例えば、生徒同士でピアでルーブリック評価をさせる場合は、その結果は当然のように評定に反映させない、ということ

¹¹ 同上。

をすでに決めている方もいるでしょう。それはつまり、評価内容よりもピア評価という活動自体に重きを置いているということに他なりません。あるいは、教員による評価は部分的に評定に含める、という選択肢もあれば、教員による評価も評定には含めずにフィードバックにとどめるといった選択肢もあります。いずれにしろ、重要なことは、パフォーマンス課題の評価を授業内の活動として位置付けながら、それをきちんと評定と切り分け、どのように評定に反映させるのか、ということを実前に決定しておく、ということにあります。

この章では、簡単にではありますが、この手引きが考えるパフォーマンス課題のあり方、そして課題と評価を授業計画に組み込む考え方について、ポイントを絞って説明しました。

3. 令和5年度の単元指導案事例

この章では、令和5年度の文部科学省委託事業「教員養成機関等との連携による専門人材育成・確保事業（グローバル化に対応した外国語教育推進事業）」のメンバーによる単元指導案の事例を紹介します。本書で解説した単元指導案様式は改訂を重ねたため、授業者が指導案を作成した時期によって形式と内容に多少の異同があることをお断りします。この章で紹介する単元指導案のリストは以下の通りです。

	言語	実施校	授業者	掲載ページ
(1)	韓国語	東京都立第五商業高等学校	遠藤正承・柳虎順	pp. 41-54
(2)		東京都立青梅総合高等学校	石黒みのり	pp. 55-61
(3)		秋田県立能代松陽高等学校	原田智津子	pp. 62-66
(4)	スペイン語	神奈川県立藤沢総合高等学校	佐々木亮太	pp. 67-72
(5)		埼玉県立坂戸高等学校	廣瀬瞳	pp. 73-82
(6)	中国語	横浜市立みなと総合高等学校	温悠	pp. 83-89
(7)		神奈川県立藤沢総合高等学校	常廣徹	pp. 90-94
(8)		大阪府立門真なみはや高等学校	柳素子	pp. 95-102
(9)	ドイツ語	横浜市立みなと総合高等学校	池谷尚美	pp. 103-108
(10)		東京都立北園高等学校	能登慶和	pp. 109-114
(11)	フランス語	カリタス女子中学高等学校	小山美穂	pp. 115-121
(12)	英語	埼玉県立上尾鷹の台高等学校	鈴木冴子	pp. 122-126

(1) 東京都立第五商業高等学校（授業者：遠藤正承・柳虎順、2024年1月版）

■授業の概要

1. 学校名：東京都立第五商業高等学校
2. 科目名：韓国語
3. 単位数：2
4. 担当者：遠藤正承（非常勤講師）、柳虎順（非常勤講師）
5. クラスの構成：高校3年生47名 2講座同時展開（24名、23名）
6. 生徒の概況：韓国語に関心がある生徒、K-POP・韓流ドラマに関心がある生徒ほか
7. 使用教科書：チョン・ヒョンヒ チョ・ヒチョル『おっ、ハングル 韓国語入門テキスト』
（駿河台出版社、2020年）

■年間指導案

1. 年間目標：

<p>韓国語および韓国語と結びついた文化や社会、韓国語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち、韓国と日本の文化や社会を理解し、コミュニケーションの前提となる考える力を身につけるようにする。</p> <p>韓国語による聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの言語活動を通して、話し手や書き手の考えや情報を理解することができるようにすること、および聞き手や読み手に対して考えや気持ちを伝えることができる資質・能力を育成することを目標とする。</p>		
<p>生きて働く 知識・技能の習得</p>	<p>未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養</p>
<p>韓国語の文字や発音、語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読みこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけるようにする。</p>	<p>韓国語でコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、韓国語で簡単な情報や考えなどを聞いたり読み取ったり、これらを活用して話したり、書いたり、伝え合ったりすることができる力を養う。</p>	<p>韓国語や韓国語と結びついた文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に韓国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。韓国語の特性や韓国語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち、日本および韓国に住む人々の文化や社会を比較対照しつつ考察し理解する。</p>

(1) 東京都立第五商業高等学校（授業者：遠藤正承・柳虎順、2024年1月版）

2. 単元構成：

月	単元名	備考（文化）
4月 (2回)	・ハンゲルの成り立ちや構造 ・基本母音 ・挨拶、教室で使うことば①	アンケート
5月 (2回)	・基本子音、濃音、激音 ・挨拶や自己紹介をしよう - 聞いて話す	・年上の人を大事にする文化
6月 (5回)	・合成母音 ・パッチム、連音化、「의」（「の」に相当する助詞）の発音の変化 ・挨拶や自己紹介をしよう - 読んで話す パフォーマンス課題① (否定文を使い、隣の人を紹介してみよう。)	期末考査
7月 (1回)	人や物の位置を尋ねて答えよう	・韓国の夏の風物詩 (川床、サムゲタン、漢江)
9月 (3回)	・漢字語数詞を覚えて、電話番号や日にちを伝え合ってみよう。 ・固有語数詞を使い、時間を尋ねたり答えたりしてみよう。	・韓国のお盆について ・韓国で緊急電話番号 (112、119、110)
10月 (3回)	・単位名詞と~주세요(~てください)の表現を使い、買い物をしてみよう ・「~아요/어요(~です)」のよ体(格式的でない形)を学ぶ	小テスト①
11月 (2回)	・「~았어요/었어요(~でした)」を学び、過去にあったことについて尋ねたり答えたりする。	小テスト②
11月 (1回)	・文化：韓服体験し、韓国の服飾文化について知ろう。 パフォーマンス課題② (韓国の伝統衣装を着てそれに似あう挨拶をしてみよう)	
12月 (3回)	・韓国のキムチをテーマに食文化について知ろう。 ・食と関係がある言葉や表現を学ぶ。 パフォーマンス課題③ (韓国語で日本の食べ物を紹介するコマーシャルを作ってみよう)	
1月 (2回)	・韓国旅行の計画を立ててみよう。 ・韓国のお正月の遊びをしてみよう。 ユンノリ(双六のような遊び)、チェギチャギ(蹴鞠のような遊び)	

■単元指導案

1. 単元名 韓国語で日本を代表する食べ物を紹介するコマーシャルを作ってみよう

2. 単元の目標

近年、韓国の若者の中で日本食がブームになっていることをうけて、彼らに向けて日本の食べ物を効果的に伝えるコマーシャルを制作し発表する。日韓のコマーシャルを比べながらそこで使われている語彙や表現を学び、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝えあったりするコミュニケーション能力の育成を目標とする。また料理・食文化に関連した韓国語の特性およびその背景にある文化や社会、韓国語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち、日本の食文化や社会と比較・対照しつつ理解する。

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ・～なら、～だったら 「～라면, 이라면」 /～になる 「～이/가 되다」 の使い方と表現方法を理解することができる。 ・韓国の年間行事の一つであるキムジャン(キムチ漬け)について知ることができる。 ・キムチ文化の変化を知ることによって韓国社会の変化を知ることができる。 ・食と関係がある語彙を理解することができる。 ・新しい単語をインターネットの辞書で調べることができる。 ・映像を制作する際に韓国語を入力する機能を身につけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キムジャン文化の変化に韓国社会の変化がどう反映されているのかに気づき、感じたことや考えたことを整理して話すことができる。 ・韓国の若者たちに紹介したい日本の食べ物を選ぶ過程で日本食に関する自分の考えを整理し、仲間と話しあいながらまとめて話すことができる。 ・コマーシャル作成のために、例となる文章と今まで学習した語彙と表現を使い、効果的に宣伝できる文を書いたり話したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の料理・食文化に関する自分の考えを仲間とやりとりしながらコミュニケーションをとり続けようとする態度を身につけることができる。 ・韓国の若者文化や特徴を理解し自分と比較しながら異文化圏の人々に興味を持つことができる。 ・食文化だけではなく、日本および韓国に住む人々の文化や社会を比較しながら理解しようとする態度を身につけることができる。

3. 社会と文化への気づきのポイント

韓国語には食文化とつながっている表現が多い。慣用句やことわざだけではなく、日ごろの挨拶や会話にも食べることを大切に思う意識が表れている。変化しつつある食文化を理解することでその背景にある韓国人の考え方や社会の変化をより深く理解するとともに、日本の食文化との比較・対照ができる。

4. 他教科・他科目との連携

- ・地理歴史・地理総合：朝鮮半島の食文化。日本の食文化。
- ・国語・言語文化：食に関する日本語表現との対照。
- ・外国語・英語：食文化に関連する英語独特の表現との対照。

5. パフォーマンス課題

「韓国語で日本を代表する食べ物を紹介するコマーシャルを作り発表しよう！」

日本食がブームになっている韓国の若者たちに紹介したい日本の食べ物を選び、効果的に宣伝できるイメージや言葉を選ぶ。発表の時はコマーシャルの上映だけではなく作り手としての意図を説明する。（韓国を代表する食べ物であるキムチのコマーシャルを参考に事前学習を行う。）

6. 学習指導における具体的な評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学びに取り組む態度	観点別状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況
⇒観点別学習状況評価		⇒個人内評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・～なら、～だったら「～라면, 이라면」/～になる「～이/가 되다」の使い方と表現方法を理解している。 ・韓国の年間行事の一つであるキムジャンについて知っている。 ・キムチ文化の変化について知っている。 ・食と関係がある語彙を理解している。 ・新しい単語をネットの辞書で調べることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キムジャン文化の変化に韓国社会の変化がどう反映されているのかに気づき、感じたことや考えたことを整理して話すことができている。 ・韓国の若者たちに紹介したい日本の食べ物を選ぶ過程で日本食に関する自分の考えを整理し、仲間と話し合いながらまとめて話すことができている。 ・コマーシャル作成のために、例となる文章と今まで学習した語彙と表現を使い、効果的に宣伝できる文を書いたり話したりすることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の料理・食文化に関する自分の考えを仲間とやりとりしながらコミュニケーションをとり続けようとする態度を身につけることができている。 ・韓国の若者の文化や特徴を理解し自分と比較しながら異文化圏の人々に興味を持つことができている。 ・食文化だけではなく、日本および韓国に住む人々の文化や社会を比較しながら理解しようとする態度を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食文化とことばの関連性に気づこうとしている。 ・食文化以外に日韓の文化や習慣の違い、共通点にも興味を持とうとしている。 ・知識や経験を仲間と共有し話し合い、多くの発見をしようとしている。



7. 単元の指導と評価の計画（*）は時間数

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国を代表する食べ物であるキムチと関係がある行事（キムジャン）を学ぶ。 ・キムチのコマーシャルで使われている語彙や表現を学ぶ。 ・韓国の若者に紹介したい日本食に何があるかをグループで話し合う。 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔から越冬準備（월동 준비）の一つとして行われたキムジャンについて知っている。 ・～なら、～だったら 「～라면, 이라면」 / ～になる 「～이/가 되다」 の使い方と表現方法を理解し使うことができている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の料理・食文化に関する自分の考えをグループで話し合い、まとめることができている。 	ワークシート 小テスト【知識・機能】（後日）
2 (2)	<p>韓国の若者に紹介したい日本食を選び、今まで学習した語彙や文法を使い映像を作る。</p> <p>（CM作成企画書にグループの意見をまとめ、動画作成は自分が使っているアプリを使用する）</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コマーシャル作成のために、例となる文章と今まで学習した語彙と表現を使い、効果的に宣伝できる文を書いたり話したりすることができている。 ・映像を制作する際に韓国語を入力する機能を身につけている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視聴者に内容を効果的に宣伝できるようグループでやりとりしながら作成している。 	（記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する）
3 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・作ったコマーシャルをパドレットに載せる。 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パドレットのアプリの使い方を身につけている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループが作成したコマーシャルを参考にしながら自分たちが作ったコマーシャルを修正したり作り直したりしている。 	
4 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・コマーシャルを上映する。 ・他のグループで作ったコマーシャルを評価する。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作り手の意図を視聴者が理解できるよう考えて発表している。 <p>【主体的に学びに取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他グループの発表を聴き、新たな気づき、発見をしようとしている。 	ループリック ふりかえりシート

■本時の指導案

本時1回目の指導と評価の計画

2023.11.24（1組）12.1（2組） 1・2校時

分	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出欠点呼 ・ 今日の授業目標を述べる。 ・ 韓国のキムチに関する質問をする （食べたことがあるか聞く。먹어 봤어요? キムチについて知っていることがあるか聞く。 韓国人にとってキムチはどんな存在だと思いますか） 		
20	<p>韓国の一大行事である「キムジャン」についてわかったことを話してみましよう。 （キムジャンは昔から越冬準備（월동 준비）の一つとして春に野菜が出回るまで食べられるキムチを大量に作る行事。11月の末に行われる。）</p> <p>① キムジャンの動画を視聴する。 （動画を見ながら教師が説明を加える）</p>  <p style="text-align: center;">https://youtu.be/W87f0BWnpsM</p> <p>② 動画を見て感じたことを話して見ましよう。 ③ 韓国政府で毎年発表するキムジャンに関するアンケート調査の結果を見ながら韓国社会の変化について話してみましよう。（キムジャンをする人口の変化及びキムチの保存方法の変化など） ④ 日本の食べ物の中で時代の変化を感じさせることがあるか話してみましよう。</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昔から越冬準備（월동 준비）の一つとして行われたキムジャンについて知っている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 韓国のキムジャン文化の変化の背景にある社会の変化に気づいている。 <p>【主体的に学びに取り組む態度】</p> <p>日本の食文化の変化に気づいている。</p>	
20	<ul style="list-style-type: none"> ・ コマーシャルを見て韓国語を学びましよう。 ① BIBIGO キムチコマーシャルを視聴  <p style="text-align: center;">https://www.youtube.com/watch?v=JdmBy_0cu_jQ</p> <p>② 音声だけ聞いて広告に出る韓国語を書いてみましよう。 （プリントの穴埋め）</p>		

	<p style="text-align: center;">【コマーシャルのセリフ】</p> <p>김치만 가지고 밥 먹냐? 비비고 김치라면 김치 하나로 충분하다! 우리집 김치 비비고가 되다! (맛으로 완성한 김치) 한식의 자존심, 비비고 김치. 김치가 밥도둑이네</p> <p>訳) キムチだけでご飯食べているの? ビビゴキムチならキムチ一つで十分! わが家のキムチ。ビビゴになった!(味が完成したキムチ) 韓食のプライド、ビビゴキムチ。キムチで箸が進む!</p>			
30	<p>③完成したセリフやコメントを読んでみよう (全体、個人)</p> <p>① コマーシャルに出てきた文法や語彙を学びましょう。 (プリントで例文を提示しながら文法を学ぶ) 【文法】 ・～なら、～だったら 「～라면, 이라면」 ・～になる 「～이/가 되다」 【語彙】 비비다. 맛. 하나로. 충분하다. 우리집. 한식 자존심. 밥도둑, 맛집</p> <p>② コマーシャルのセリフを訳してみよう。 ③ 学んだ文法を使い作文をしてみよう。</p>		<p>【知識・機能】 ・～なら、～だったら 「～라면, 이라면」 /～になる 「～이/가 되다」の使い方と表現方法を理解し使うことができている。</p>	<p>【知識・機能】 小テスト (後日)</p>
5	<p>映像を見ながらセリフを言って見よう。</p>			
15	<p>・韓国の若者に紹介したい日本の食べ物について話してみよう。</p> <p>① 日本食と思われるものに何があるか? ② 韓国の若者に人気がありそうなものはなにか? ③ 日本人として外国人にわかってもらいたい日本食はあるか。 ・次回の授業のために紹介したい食べ物を決めて映像を準備しておく。</p>		<p>【思考・判断・表現】 日本食に関する自分の考えを整理し仲間と話しあいながらまとめて話すことができている。</p>	

2023.12.8 1・2校

本時2回目の指導と評価の計画

分	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
5	出欠点呼。 本時の発表について方法等を確認する。		
10	前の授業で話し合った内容をCM制作企画書にまとめる。		
80	今まで学習した語彙や文法を使い映像を作る。 (動画作成は自分が使っているアプリを使用する)	【知識・技能】 ・限られた時間で駆使できるツールを使い適切な情報を見つけている。 ・映像を制作する際に韓国語を入力する機能を身につけている。 【思考・判断・表現】 ・得られた情報について仲間と話し合いながら映像を作成し、韓国語で発表原稿を作成している。 ・視聴者が分かりやすいように工夫している。	(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する)
5	ふりかえりとまとめ		

2023.12.15 1校

本時3回目の指導と評価の計画

10	出来上がったコマercialをパドレットに載せる。	【知識・技能】 パドレットの使い方を身につけている。	
40	・完成したコマercialの韓国語が間違っていないか確認をする。 ・他のグループのコマercialを一緒に視聴する。	【主体的に学びに取り組む態度】 ・他のグループのコマercialを参考に自分のグループのコマercialを修正しようとしている。	(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する)

(1) 東京都立第五商業高等学校（授業者：遠藤正承・柳虎順、2024年1月版）

2024.1.12 1・2校時 視聴覚室

本時4回目の指導と評価の計画

本時はフランス語の國末薫先生の協力でフランス語選択生徒と合同で発表する。

分	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
10	出欠点呼。上映準備		
80	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに発表を行う。 韓国語（フランス語）で自己紹介をし、作り手としての思いを日本語で発表する。 作成したコマーシャルを上映する。 上映後、質問があれば質問する。 他のグループのコマーシャルを評価する。（パドレットのコメント欄に載せる。） 	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作り手としての考えを聴者が理解できるように考えて発表している。 <p>【主体的に学びに取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 他グループの発表を聴き、新たな気づき、発見をしようとしている。 	ルーブリック
10	<ul style="list-style-type: none"> パドレットのリアクション機能でよかったと思う作品に投票する。（一人3作品） 本時のまとめや次の授業の案内をする。 	<p>【主体的に学びに取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表されたコマーシャルを総合的に判断し、自グループの作品と比較しつつ、優れた点を学ぼうとしている。 	ふりかえりシート

(1) 東京都立第五商業高等学校（授業者：遠藤正承・柳虎順、2024年1月版）

「韓国語・フランス語で日本の食べものを紹介しよう」
パフォーマンス課題の評価ルーブリック（教員用）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A 日本の料理・食べものに関して映像を適切に取りこみ、韓国語（フランス語）で簡潔かつ、わかりやすく作成している。	A 日本の料理・食べものに関する内容について、仲間と話し合い、状況に応じて判断し、非常にわかりやすく発表している。	A 日本の料理・食べものに関する内容を把握し、日韓（日仏）の共通点や違いに気づき、関心を深めようとしている。
B 日本の料理・食べものに関して映像を取りこみ、韓国語（フランス語）で概ねわかりやすく作成している。	B 日本の料理・食べものに関する内容について、仲間と話し合い、状況に応じて判断し、概ねわかりやすく発表している。	B 日本の料理・食べものに関する内容を概ね把握し、日韓（日仏）の共通点や違いに気づき、関心を持つようとしている。
C 「b」を満たしていない。	C 「b」を満たしていない。	C 「b」を満たしていない。

(1) 東京都立第五商業高等学校 (授業者: 遠藤正承・柳虎順、2024年1月版)

「韓国語・フランス語で日本の食べものを紹介しよう」 2024年1月12日
 他グループの発表評価用手引き (生徒用)

3年 組 番、名前 ()

	5 目標達成	3 おおよそ目標達成	1 努力が必要
A スムーズ	非常にスムーズ。	おおよそスムーズ。	よく止まる。
B 内容のわかりやすさ	とてもよくわかった。	おおよそわかった。	わかりづらい。
C 関心の拡大	非常に関心をもった。	おおよそ関心をもった。	ぜんぜん関心をもたなかった。
D 発表内容への理解	とてもよく理解した。	おおよそ理解できた。	ぜんぜん理解できなかった。

「韓国語・フランス語で日本の食べものを紹介しよう」 ワークシート

他グループの発表を聞き、「他グループの発表評価用手引き(生徒用)」を見ながらこたえてください。

グループ名	・聞き取れた単語、発表を聞いて発見したこと、質問、疑問等 ・発表への感想一言	上記「手引き」参照		
		5	3	1
	・単語、発見、質問、疑問等☞ ・発表へ一言☞	A		
		B		
		C		
		D		
	・単語、発見、質問、疑問等☞ ・発表へ一言☞	A		
		B		
		C		
		D		
	・単語、発見、質問、疑問等☞ ・発表へ一言☞	A		
		B		
		C		
		D		
	・単語、発見、質問、疑問等☞ ・発表へ一言☞	A		
		B		
		C		
		D		

本時 1 回目 ワークシート

김장&김치について (映像を見ながら)

1. 김장의動画を見て気づいたこと等

2. BIBIGO のキムチコマーシャルを見て、空欄を埋めよう。

- ① 김치() 밥 먹냐?
- ② 비비고 김치() 김치 하나로 충분하다!
- ③ 우리집 김치 비비고()!
- ④ () 완성한 김치
- ⑤ 한식의 (), 비비고 김치
- ⑥ 김치가 ()이네

3. BIBIGO のキムチコマーシャルに出てきた文法と語彙を学びましょう。上のセリフを訳しましょう。

- 【文法】 ・ ~라면 , 이라면
 ・ ~이/가 되다

【語彙】 비비다. 맛. 하나로. 충분하다. 우리집. 한식. 자존심. 밥도둑, 맛집

4. 作文してみましょう。

- ① 「~라면/이라면 ○○ (～なら○○です)」という単純な文を作ってみましょう。
- ② 「~이/가 되다 (～になる)」という単純な文を作ってみましょう。
- ④ この①と②を組み合わせてもいいでしょう。

(1) 東京都立第五商業高等学校 (授業者：遠藤正承・柳虎順、2024年1月版)

本時 2回目 ワークシート

CM 制作企画書

(フランス語の國末先生作成)

班名：
<u>役割分担 (兼任 OK)</u> プロデューサー (グループのまとめ役、スケジュールの管理)： アシスタント・ディレクター (作品の現場責任者、プロデューサーを助ける)： 脚本・書記 (CMの流れを考える)： 撮影&編集： タレント (CMに登場する人 (なしも OK))：
対象となる商品：
撮影場所・撮影日：
ビデオの流れ <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>

「日本の食を韓国に紹介しよう」今後のこと

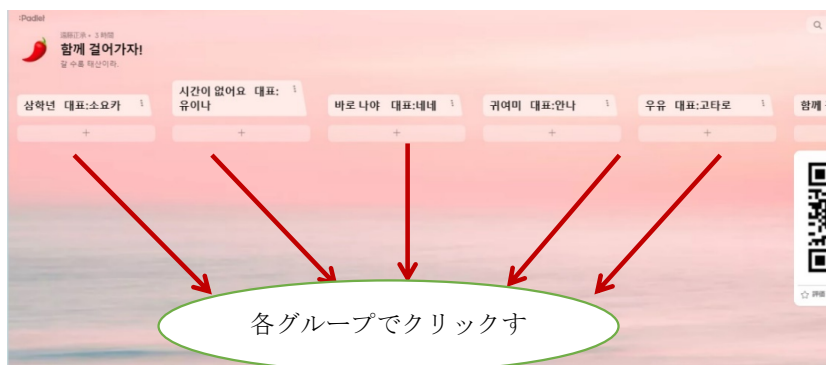
2023. 12. 15

《本日 12/15 の授業内容》

- ① QRコードから接続してください。
- ② 各グループは先週の授業で作成した【企画書】をアップしてください。
- ③ コマーシャルの作成が完成しているグループはコマーシャルもアップしてください。
- ④ 授業では完成したコマーシャルの中の韓国語の確認や発表冒頭に韓国語で行う自己紹介や挨拶の言葉の発音のチェックをします。
- ⑤ 自己紹介ののちCM制作意図、ねらいを日本語で練ってください。
これは日本語です。これ以外は韓国語です。

《冬休み中に行なう作業》

- ① 未完成グループCMを完成。**全体発表用**のタブレットにアップしてください。
- ② 作業中の韓国語のセリフ、ナレーションをハングルで書き、タブレットにアップしてください。
⇒書いた文章、音声を遠藤と柳がチェックします。
⇒チェック後のセリフの音声を柳がタブレットにアップします。
- ③ それをもとに各自、発音練習をし、動画を修正してください。
- ④ 発表冒頭に韓国語で発表する内容を日本語で書いてアップしてください。
(韓国語が分からない人のために)
- ⑤ 修正最終版を1月まで 11日までにアップしてください。
- ⑥ 質問があればタブレット上にあげてください。質問歓迎。



《「日本の食を韓国に紹介しよう」1月12日当日》 フランス語チームと合同発表。

- ① 視聴覚室に直接集合。グループごとに着席していただきます。
- ② 発表前、10分程度最終発音練習。
- ③ 各グループの発表が終了したときごとにふりかえりシートを書いてください。

■授業の概要

1. 学校名： 都立青梅総合高等学校
2. 科目名： ハングル
3. 単位数： 2単位
4. 担当者： 石黒みのり
5. クラスの構成： 高校2年生 計34名
6. 生徒の概況： Kカルチャーに関心のある生徒が多い。初学者が大半である。
7. 使用教科書： 『Check! Can! Do! 韓国語』（朝日出版社）

■年間指導案

1. 年間目標：

<ul style="list-style-type: none">・韓国語に関心を持つことができる。日本語（母語）との共通点や違いを見つけることができる。・学習した文法及び語彙を積極的に使用し、自ら表現（発信）することができる。・簡単な表現は聞き取ることができ、やりとりすることができる。		
生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
自ら表現（発信）及びやりとりするために、必要な語彙表現を習得する。	自ら表現（発信）するために必要な文法及び語彙を積極的に使用することができる。 (学習したことを前提に) 簡単な表現は聞き取ることができ、やりとりすることができる。	韓国語に関心を持つことができる。 学習した表現や文法、単語を通して日本語（母語）との共通点や違いを見つけることができる。

2. 単元構成：

月	単元名	備考
4	☆全員で自己紹介をしよう L1 イントロダクション（韓国語とは？ハングルとは？挨拶） L2 基本母音・合成母音、L3 子音①（平音・激音・濃音）	
5	L3 子音②パッチム 文法編 L1 名詞文「こんにちは。Aです」	
6	文法編 L2 名詞文（否定）「韓国人ではありません」	小テスト
7	期末試験	

(2) 都立青梅総合高等学校 (授業者：石黒みのり、2023年8月版)

	★韓国文化クイズ	
9	★ハングルで謎解き 文法編 L3 こそあど言葉「それが水ですか？」 ☆L1～3 を使って会話文をつくろう 文法編 L4 疑問詞「趣味は何ですか？」 ☆好きなもの・趣味・住んでいるところをインタビューしよう	
10	文法編 L5 固有数詞「何名ですか？」 文法編 L6 漢数詞「これいくらですか？」 文法編 L7 存在詞①「明日授業がありますか？」 ☆兄弟・物・予定の有無をインタビューしよう	小テスト
11	文法編 L8 存在詞②「公園の横にあります」	
12	期末試験	
1	文法編 L9 動詞・形容詞の活用「明日コンサートがあります」 文法編 L10 動詞・形容詞の活用 (否定)「いいえ、行きません」 ☆動詞・形容詞の活用を使ってインタビューしよう ☆☆「先生の日」をスキットを通して学ぼう (スキット大会)	
2	学年末試験	

■単元指導案

1. 単元名 1年間の学びを活かし、スキットを通して「先生の日」について話してみよう

2. 単元の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・韓国語及び韓国 (文化) に関心を持つことができる。 ・日本語 (母語) や文化の共通点や違いを見つけることができる。 ・これまで学習した文法及び語彙を積極的に使用し、自ら表現することができる。(1年間のまとめ) ・簡単な表現は聞き取ることができ、(台本内で) やりとりすることができる。 		
生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
自ら表現及び (台本内で) やりとりするために、必要な語彙表現を習得する。	自ら表現するために必要な文法及び語彙を積極的に使用しすることができる。 (学習したことを前提に) 簡単な表現は聞き取ることができ、(台本内で) やりとりすることができる。	韓国語及び韓国 (文化) に関心を持つことができる。 学習した表現や文法、単語を通して日本語 (母語) や文化の共通点や違いを見つけることができる。

3. 社会と文化への気づきのポイント

<p>■言語の学びと結びついているか</p> <p>■知識を獲得しているか</p> <p>■比較ができていますか</p> <p>■気づき（発見）が起こっているか</p> <p>□考察（理由背景など）できているか</p>

4. 他教科・他科目との連携

なし

5. パフォーマンス課題

1年間の学びを活かし、スキットを通して「先生の日」について話してみよう

6. 学習指導における具体的な評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学びに取り組む態度	観点別状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況 ⇒個人内評価
⇒観点別学習状況評価		⇒個人内評価	
スキット（台本）を通して自分を表現するために、必要な語彙表現、及び発音を習得する。	スキットを通して自分を表現するために必要な文法及び語彙を積極的に使用することができる。 （学習したことを前提に）簡単な表現は聞き取ることができる。	グループ内で練習する態度、発音、声の大きさ、協力して練習しているかどうか。 話し合いができてい るか。知らない表現は自分たちで探すことができるか。	授業レポート 相互評価（ルーブリック評価）

7. 単元の指導と評価の計画

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1	スキット大会説明 スキット課題文練習	【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 しっかり声を出しているか	【学びに向かう力・人間性】 観察、授業レポート
2	スキット準備① （台本作成など）	【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 協働作業ができていますか	【学びに向かう力・人間性】 観察、授業レポート
3	スキット準備② （台本作成など）	【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】	【学びに向かう力・人間性】 観察、授業レポート

(2) 都立青梅総合高等学校（授業者：石黒みのり、2023年8月版）

		協働作業ができているか	
4	スキット準備③ (台本作成など)	【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 協働作業ができているか	【学びに向かう力・人間性】 観察、授業レポート
5	スキット準備④ (台本作成など)	【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 協働作業ができているか	【学びに向かう力・人間性】 観察、授業レポート
6	スキット準備⑤ (台本作成など)	【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 協働作業ができているか	【学びに向かう力・人間性】 観察、台本提出、授業レポート
7	スキット準備⑥ (台本作成など)	【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 協働作業ができているか	【学びに向かう力・人間性】 観察、授業レポート
8	本番（発表）	【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 しっかり声を出しているか 協働作業ができているか	【学びに向かう力・人間性】 観察、投票、アンケート (振り返り)

■本時の指導案

1. 本時の指導と評価の計画（7～8 時限）

分	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
5	挨拶	しっかり声を出しているか	観察
45	最終リハーサル	しっかり声を出しているか 協働作業ができているか	観察
25	本番（発表）	しっかり声を出しているか 協働作業ができているか	観察
15	投票、アンケート	他グループをよく見ているか 自分たちをよく分析できているか	観察
10	結果発表		観察

(2) 都立青梅総合高等学校 (授業者：石黒みのり、2023年8月版)

2. 補足事項

ループリック評価 (山下一夫先生 WS のループリック評価を拝借)

	目標以上 5点	目標達成 4点	少し頑張ろう 3点	努力が必要 2点
発音	非常にきれい	ほぼ正確	間違いが多い	間違いが非常に多い
なめらかさ	非常になめらか	自然、機械的ではない	時々つかえる	よくつかえる
感情	自然な感情が込められている	感情が込められている	あまり感情が込められていない	棒読みで全く伝わらない
内容	非常によく考えて作られている	よく考えて作られている	あまりきちんと考えられていない	きちんと考えられていない
やりとり	質問にきちんと対応ができる	質問に対応ができる	質問にあまり対応できていない	質問に全く対応できていない

スキット「話してみよう韓国語 2016～17」

中高生スキット部門 <先生の日> から引用

A：韓国人 B：日本人

(教室で)

A：明日は「先生の日」ですよ。

B：先生の日って何ですか？

A：え？日本にはないんですか？先生に感謝する日です！

B：そんな日があるんですか！明日は5月15日ですか？

A：はい！だから先生にプレゼントしようと思うんですが、一緒に買いに行きますか？

B：そうですね！何がいいですか？

A：先生の日は、やはりカーネーションです！

B：じゃあ、お花屋さんに行きましょう！

A：ところで、この近くにお花屋さんがありますか？

B：(地図を見ながら…) お花屋さん…あった！学校から右に行けばすぐありますよ！

(花屋の前で)

A：着きました！あ…カーネーションが売り切れだそうです！！！！

B：じゃあ、どうしますか??

(以下自由創作)

「함께 말해봐요 한국어 2016~17」

중고생 스킷 부문 <스승의 날>

A: 한국인 B: 일본인

(교실에서)

A: 내일이 '스승의 날'이에요.

B: 스승의 날이 뭐예요?

A: 네? 일본에는 없어요? 선생님에게 감사하는 날이에요!

B: 그런 날이 있어요? 내일은 5월 15일이에요?

A: 네! 그래서 선생님에게 선물하려는데 같이 사러 갑니까?

B: 그래요! 뭐가 좋습니까?

A: 스승의 날에는 역시 카네이션이에요!

B: 그럼 꽃집에 가요!

A: 근데 이 근처에 꽃집이 있어요?

B: (지도를 보며) 꽃집이...아 여기 있어요!! 학교에서 오른쪽으로 가면 바로 나옵니다!

(꽃집 앞에서)

A: 바로 여기예요! 아... 카네이션이 다 나갔대요!!!!

B: 그럼 우리 어떡해요??

(이하, 자유창작)

(3) 秋田県立能代松陽高等学校 (授業者：原田智津子、2023年8月版)

■授業の概要

1. 学校名：秋田県立能代松陽高等学校
2. 科目名：韓国語
3. 単位数：2単位 (50分授業)
4. 担当者：原田智津子
5. クラスの構成：3年生普通科 選択23名 (男子12名、女子11名)
6. 生徒の概況：2年次から継続履修している生徒たちである。文字を読むのにかなり時間を要する生徒から、何も見ずにスラスラ読めるまで混在している。また韓国文化に対する興味・関心も高い者からほぼない者まで様々であるが、全体的に反応が良く元気のあるクラスである。
7. 使用教科書：韓国語の初歩 三訂版 (白水社)

■年間指導案

1. 年間目標：

韓国語の読み書きや発展的な文法事項を学び、実践的なコミュニケーション能力を身につける。 韓国語の学習を通して韓国の文化や歴史に触れることにより、国際的な視野を広げる。		
生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ・文を正しく読むことができる。 ・簡単な会話をすることができる。 ・基本的な文構造や発音の変化を理解している。 ・韓国の地理や歴史、文化について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単語や文法を正しく用いて、話したり文を書いたりしている。 ・日本や他の国と比較して、韓国の地理や歴史、文化について考えたり判断したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に韓国語での言語活動に取り組んでいる。 ・主体的に文法や単語を身につけたり、それを用いて思考・判断・表現をしたりしようとしている。

2. 単元構成：

月	単元名	備考
4	第9課－4 発音の変化 (激音化) 第15課 「～です」「～ですか」「～ではありません」 / 世界文化遺産	
5	第9課－5 発音の変化 (濃音化) 助詞のまとめ	中間考査
6	第16課 「動詞＋ます (か)、形容詞＋です (か)」 / 韓国の歴史名所	期末考査
7	第17課 尊敬表現・特殊な尊敬語 / 「～で」 / 韓国の美術	スピーキング テスト

(3) 秋田県立能代松陽高等学校（授業者：原田智津子、2023年8月版）

8	第9課－6, 7 発音の変化（流音化、口蓋音化）	
9	第18課 尊敬表現／㉔建国神話	プレゼンテーション
10	第19課 用言の過去・完了表現／歴史上の人物 第20課 用言の意志・推量・婉曲表現／「～が好きだ・嫌いだ」	中間考査
11	第21課 「～したい」「～しましょうか」「～しましょう」「～している」／ 前近代の日朝交流と朝鮮通信使 第22課 動詞の不可能表現／「～が上手だ」／近代の朝鮮半島と日本	期末考査 音読テスト
12	第23課 用言の並列・先行・様態表現／用言の逆接表現／「～しに」「～に 会う」／現代韓国政治の歴史	音読テスト
1	第24課 「～すれば」／語幹用言・変則用言／韓国語学習とインターネット	学年末考査

■単元指導案

1. 単元名 第15課 생일이 언제예요? (誕生日はいつですか?)

2. 単元の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・해요体の「～です／～ですか」「～ではありません」の形を理解し、文を作ることができる。 ・自分の誕生日や年齢を言ったり、相手に質問したりできる。 		
生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ・田中さんとユジンさんの会話の内容を読み取り、音読することができる。 ・2つの「～です」「～ではありません」の形の使い分けができる。 ・2つの数詞の使い分けができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な数詞を使って、自分の誕生日や年齢を言うことができる。 ・相手に質問し、誕生日や年齢を聞き取ることができる。 ・与えられたキーワードを使って「～です」「～ではありません」の文を言ったり書いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国人の名前や年齢の数え方について理解を深める。 ・意欲的に言語活動に取り組んでいる。 ・周囲の生徒と積極的にコミュニケーションを取り、互いに学びあう姿勢がある。

3. 社会と文化への気づきのポイント

<input type="checkbox"/> 「～です」「～ではありません」の形で使われる助詞のルールに気づく。 <input type="checkbox"/> 韓国人の名前の漢字とハングルの関連について知る。 <input type="checkbox"/> 韓国の年齢の数え方について、日本と比較して理解する。 <input type="checkbox"/> 韓国の1歳の誕生祝いや、最近の誕生日の流行について知る。

4. 他教科・他科目との連携

世界史（朝鮮戦争／兵役）

5. パフォーマンス課題

韓国の芸能人になりきって、自己紹介をする。

6. 学習指導における具体的な評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学びに取り組む態度	観点別状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況
⇒観点別学習状況評価		⇒個人内評価	
<ul style="list-style-type: none"> 教科書の会話の内容を読み取り、音読できるか。 2つの「～です」「～ではありません」の形の違いが理解できるか。 2つの数詞の使い分けができるか。 （授業中の発表・提出物・定期考査）	<ul style="list-style-type: none"> 自分の誕生日や年齢を言ったり、相手の誕生日や年齢を聞き取ったりすることができるか。 「～です」「～ではありません」の文を言ったり書いたりすることができるか。 （パフォーマンス課題・定期考査）	<ul style="list-style-type: none"> 韓国人の名前や年齢の数え方について理解しようとしているか。 意欲的に言語活動に取り組んでいるか。 周囲の生徒と積極的にコミュニケーションを取り、互いに学びあう姿勢があるか。 （パフォーマンス課題・定期考査）	<ul style="list-style-type: none"> 韓国の文化を知り、今後の学習や考え方に生かそうとしているか。 間違いをおそれずに積極的にコミュニケーションを取ろうとしたり、聞き手に伝わるように発表したりしているか。

7. 単元の指導と評価の計画

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> 会話文の読み取り 2つの「～です(か)」の違いを学ぶ 	【知識・技能】 ・会話文の内容と解読体の「～です(か)」の使い分けが理解できる。 【思考・判断・表現】 ・解読体の「～です(か)」を正しく使い分けてフレーズを書くことができる。	観察 問題演習
2	<ul style="list-style-type: none"> 音読練習 2つの「～ではありません」の違いを学ぶ 	【知識・技能】 ・2つの数詞の違いに注意して、正しく読むことができる。 【思考・判断・表現】 ・解読体の「～ではありません」を正しく使い分けてフレーズを書くことができる。	観察 問題演習
3	<ul style="list-style-type: none"> 音読練習 	【知識・技能】	観察

(3) 秋田県立能代松陽高等学校（授業者：原田智津子、2023年8月版）

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の誕生日と年齢を入れて自己紹介をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・会話文を自然なスピードで、正しく読むことができる。 【思考・判断・表現】 ・해요体の「~です」、数詞を正しく使って自分の自己紹介文を書き、読むことができる。 	発表 ワークシート提出
4	<ul style="list-style-type: none"> ・相手にインタビューする ・他者になりきって自己紹介をする 	<ul style="list-style-type: none"> 【思考・判断・表現】 ・해요体の「~です(か)」「~ではありません」、2つの数詞を正しく使って質問をしたり、質問に答えたりすることができる。 ・質問の答えをまとめ、韓国の芸能人になりきって自己紹介をすることができる。 【主体的に学びに取り組む態度】 ・周りの生徒と積極的にかかわり、コミュニケーション活動をしようとしている。 ・韓国人の名前や年齢に興味をもって、活動に取り組んでいる。 	観察 発表 ワークシート提出

■本時の指導案

1. 本時の指導と評価の計画

分	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
5	〈前時までの復習〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを通して漢字語数詞と固有語数詞の復習をする。 ・ペアで会話文を音読する。 		
20	〈インタビュー活動〉 <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューの形式を確認し、練習する。 ・教室をまわって8人の生徒にインタビューをする。 ・韓国の芸能人になりきって質問に答える。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思考・判断・表現】 ・해요体の「~です(か)」「~ではありません」、2つの数詞を正しく使って質問をしたり、質問に答えたりすることができる。 【主体的に学びに取り組む態度】 ・周りの生徒と積極的にかかわり、コミュニケーション活動をしようとしている。 ・韓国人の名前や年齢に興味をもって、活動に取り組んでいる。 	観察 ワークシート提出

(3) 秋田県立能代松陽高等学校（授業者：原田智津子、2023年8月版）

20	〈発表〉 ・ 韓国の芸能人になりきって自己紹介する。 ・ 他の生徒の発表を聞き、評価する。	【思考・判断・表現】 質問の答えをまとめ、韓国の芸能人になりきって自己紹介をすることができる。	発表
5	〈まとめ〉 ・ 文法事項のポイントを確認する。 ・ 本時のふりかえり、自己評価を書く。		ワークシート提出

2. 補足事項

■授業の概要

1. 学校名：神奈川県立藤沢総合高等学校
2. 科目名：スペイン語発展
3. 単位数：2単位 (後期週4時間)
4. 担当者：奥村サラ、小関啓子、佐々木亮太
5. クラスの構成：高校2・3年生 21名(男3名・女18名)
6. 生徒の概況：少人数講座でスペイン語への学習意欲が高い。
7. 使用教科書：Gramañol ー文法中心スペイン語総合学習教本ー『朝日出版』

■年間指導案

1. 年間目標：

スペイン語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、スペイン語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を身に付けることを目標とする。また、スペイン語を学習することで触れる文化やスペイン語圏の人々の暮らしについて気づき、日本及び英語圏の国の文化や社会について言語と関連した経験、比較、考察をする。		
生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の音声と発音を身に付ける。 ・日時、数字、色など日常生活に必要なものの表現を身に付ける。 ・自分の伝えたいことや書きたいことが表現できるための基本動詞と現在時制の文法規則の習得をする。 ・スペイン語の符号と記号の規則を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能の習得で学習した内容を用い、日常的なテーマなど場面や状況に応じて、話す、書く、聞こうとする。 ・知識・技能の習得で学習した内容をほかの要素と結び付け場面や状況に応じて、主に話す・書くことで表現しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的かつ応用的にスペイン語を用いる各単元でのパフォーマンス課題への粘り強い取り組みから得る課題の探究と解決力を身に付ける。 ・スペイン語またスペイン語圏の文化や言語の特色に触れ、現在の生活との比較・考察・言語との文化の結びつき等を実感することで自身の生活に生かす力を身に付ける。

2. 単元構成：

月	単元名	備考
10月	○存在と時刻の表現をしよう！ Lección 7 トイレはどこにありますか？	Estar 動詞、疑問詞
11月	○便利な表現を使ってみよう！ (Lección 10 アスピリンはありますか？) (Lección 8 コーヒーを飲みましょう！) △実技テスト：～する予定、～でいく、～したい Lección 9 カードで払えますか？ ◆パフォーマンステスト 藤沢総合高校の便利な教室を紹介してみよう！	ir 動詞 tener 動詞 Lección 10、Lección 8 poder 動詞
12月	○好きなものをいってみよう！ ○スペイン語圏のクリスマス	これまでのまとめテスト (授業内)、gustar 動詞
1月～ 2月	日常の様々な場面での表現を使ってみよう！ パフォーマンス課題②：設定された状況で寸劇を発表しよう！	病院、空港、買い物の中で の会話表現

■単元指導案

1. 単元名 ○便利な表現を使ってみよう！

2. 単元の目標

<p>いままで学習してきた表現 (ir, poder, tener 及び動詞の現在形と ser、estar 動詞など) を活かし、藤沢総合高校内のよく使用する教室 (または便利な教室) を紹介できる力を身に付ける。スペインからの留学生が来ることを想定して校内の紹介をする動画を撮影して、スペイン語を用いて状況に応じて特に話す・書く能力の育成を目標とする。また本単元活動を通して生徒自身の生活と海外の学校の設備や生活時間の違いなどを社会と文化面での気づきや比較を促す。</p>		
生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<ul style="list-style-type: none"> 一般動詞の使い方と表現方法を理解し、使用する。 tener, poder, ir の使い方と表現方法を理解し、使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室を紹介する際のスペイン語での表現を自分で思考し、使用場面に合わせて書く。 国の紹介をする動画作成を通して、スペイン語で話す。 他グループの発表の内容を理解し、その内容から自分の意見や感想を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 動画という媒体を通して、見ている相手に伝えるコミュニケーション態度を養う。動画を通しての表現や構成の工夫をすることで伝える。 スペイン語圏の国々の人々の文化や特徴を理解し、自身の生活と比較し、今後に生かす。 失敗を恐れずとにかく粘り強くスペイン語を使用する態度を身に付ける。

3. 社会と文化への気づきのポイント

☑言語の学びと結びついているか

⑤ ①～④の中の流れが起きることでスペイン語を学び、活動する中で日本と海外の学校の違いという社会と文化の気づきが起こる。

☑知識を獲得しているか

④ ①が起きるとスペイン語圏の学校関係の新たな知識を知る機会が発生する

予想例「スペインの学校では昼食はとても大切で昼休みが長い傾向にある」

☑比較ができているか

② ①が起きると比較が自然的に発生する

「日本とスペインの学校は同じなのだろうか？」

☑気づき（発見）が起こっているか（仕掛けのファーストステージ）

①日本とスペイン語圏の学校の生活の違いに気づくかどうか

予想例「私たちの学校の教室についてスペイン語で説明しているけどこの教室は海外の学校にも同じようにあるのかな？」「私たちは藤沢総合高校の生活が普通だけどスペインの学校も同じ時間で動くのかな？」

☑考察（理由背景など）できているか

③ ②が起きると考察につながる

予想例「なぜ日本の学校の昼休みはスペインより短いのか？」

※生徒が自発的にこの気づきが起こることを想定して、誰かが気づいたときに問い（発問）する計画だが、実践中に気づきが起こらない場合こちらから「みんな藤沢総合の教室を今回スペイン語で紹介しているけど、スペイン語圏の国々の学校にも同じような部屋ってあるのかな？」など発問をする場合がある。

4. 他教科・他科目との連携

産業社会と人間（発表活動、他者理解・自己理解）

英語コミュニケーションⅡ（Lesson 4の単元で英語を用いた動画を撮影するパフォーマンス課題を実施済み）

5. パフォーマンス課題

藤沢総合高校の便利な教室を紹介してみよう！

【パフォーマンス課題概要】

スペイン語圏からの留学生が藤沢総合高校に来る想定を考えて、学校内のよく使う教室の紹介動画を作成する。紹介する教室は3～4教室に設定する。

【紹介スキットの予想例】

「〇〇教室はここにあります。普段ここでお昼ご飯を食べています。またこの教室で中国語の勉強もしています。次の教室に行きましょう。」「図書室はここにあります。ここでは本を借りることができます。放課後には生徒がここで勉強をします。」

動画内のスキットには既習事項を工夫次第で使える場面が多くあるので教師側からの支援を含めて表現を生徒が表現を考えて、実際に動画を撮影する。

撮影した動画はGoogle Classroom上に提出してもらい、動画を見て評価をする。

6. 学習指導における具体的な評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学びに取り組む態度	観点別状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況
⇒観点別学習状況評価		⇒個人内評価	
<ul style="list-style-type: none"> 一般動詞の使い方と表現方法を理解し、使おうとしている。 tener, poder, ir の使い方と表現方法を理解し、使おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室を紹介する際のスペイン語での表現を自分で思考し、使用場面に合わせて書こうとしている。 国の紹介をする動画作成を通して、スペイン語で話そうとしている。 他グループの発表の内容を理解し、その内容から自分の意見や感想を考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 動画という媒体を通して、見ている相手に伝えるコミュニケーションをとろうとしている。動画をを通しての表現や構成の工夫及び伝える方法を考え実行しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> スペイン語圏の国々の人々の文化や特徴を理解し、自身の生活と比較し、今後に生かそうとしている。 失敗を恐れずとにかく粘り強くスペイン語を使用する態度を身に付けようとしている。

7. 単元の指導と評価の計画

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1 (3)	ir 動詞の活用を知り、使用する。	ir 動詞を適切な形で使い分けができる。【知識・技能】	小テスト【知識・技能】(後日)
	ir 動詞の様々な表現を知り、使用する。	ir 動詞を場面に合わせて表現を変更することができる。【思考・判断・表現】	実技テスト【思考・判断・表現】(3次に実施)
2 (3)	tener 動詞の活用を知り、使用する。	tener 動詞を適切な形で使い分けができる。【知識・技能】	小テスト【知識・技能】(後日)
	tener 動詞の様々な表現を知り、使用する。	tener 動詞を場面に合わせて表現を変更することができる。【思考・判断・表現】	実技テスト【思考・判断・表現】(3次に実施)
3 (3)	poder 動詞の活用を知り、使用する。	poder 動詞を適切な形で使い分けができる。【知識・技能】	小テスト【知識・技能】(1週間後)
	poder 動詞の表現を知り、使用する。	poder 動詞を場面に合わせて表現を変更することができる。【思考・判断・表現】	
4 (4)	パフォーマンス課題の作成と発表(視聴)	小グループによる校内の教室を紹介するVTRを作成し、作成後は全員で視聴する。	パフォーマンス課題 【知識・技能】【思考・判断・表現】 【主体的に学習する態度】

(4) 神奈川県立藤沢総合高等学校 (授業者: 佐々木亮太、2023年8月版)

		評価規準については下記ルーブリック参照	
--	--	---------------------	--

■本時の指導案

1. 本時の指導と評価の計画 (4次4時間目を予定) ※4次3時間目の動画作成の回になるかもしれません

分	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
5	あいさつ 出席確認 本時の目標の確認	なし	なし
5	動画視聴の準備	【主体的に学習に取り組む態度】 【思考力・判断力・表現力】	(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する)
30	動画視聴 (相互評価シートを書く)	【主体的に学習に取り組む態度】 【思考力・判断力・表現力】	(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する)
15	本時のまとめ 振り返りシートの記入	なし	振り返りシート (総括的評価と形成的評価両方)

2. 補足事項

パフォーマンス課題のルーブリック

評価／観点	スペイン語の音声と発声 スペイン語の表現文作成 【知識・技能】 [話すこと] [書くこと]	内容の工夫と表現 表現作成 動画を用いた表現 (これは音声言語に限らない) 【思考・判断・表現】 [話すこと] [書くこと]	作成に係る取組姿勢 (粘り強さと工夫の凝らし方) と新たな気づき、振り返り 【主体的に学習に取り組む態度】
A	動画内で説明されているセリフを聞いて理解ができる。また音声面 (アクセント、センテンスのイントネーション) がスペイン語の音に沿って発声されている。	場面や状況に応じて今まで学習してきた表現を取り入れる工夫をし、セリフを作成している。動画内で視聴側を意識した伝える工夫がなされている。	グループで協力して撮影を行っている。粘り強くより良い動画を撮影しようという姿勢が活動から読み取ることができる。振り返りシートに本活動を通して学んだことや気づきが多く書かれていて、内容も厚いものとなっている。
B	動画内のセリフを聞いて大意は理解できる。しかしながら音声面 (アクセント、センテンスのイントネーション) に多少の誤りがある。	場面や状況に応じて今まで学習してきた表現を取り入れる工夫をし、セリフを作成している。	グループで協力して撮影を行っている。振り返りシートに本活動を通して学んだことや気づきが多く書かれている。
C	「B」を満たしていない。	「B」を満たしていない。	「B」を満たしていない。

本単元では前期 (または昨年) のスペイン語入門で学習したことを土台にし、汎用性のある動詞の使用を軸として構成している。表現の幅が広がったところで自身の生活の多くを占める学校の施設を紹介することで既習事項の活用方法の考察と自身の生活環境の再確認が同時にできるようになっている。スペイン語で日本の学校施設を紹介することから感じる違和感に気づき、そこから海外の学校施設や学校生活に派生していくと社会や文化への橋渡しにもなる単元である。

■授業の概要

1. 学校名：埼玉県立坂戸高等学校
2. 科目名：スペイン語コミュニケーション
3. 単位数：2単位 (週1回：45分授業×2コマ連続)
4. 担当者：廣瀬(和田) 瞳 (非常勤・他教科担当なし)
TT有り：デレオン アランダ エリザベス (多言語支援員)
5. クラスの構成：外国語科 高校2年生 12名 (男7名・女5名)
6. 生徒の概況：今年度から初めてスペイン語を学習し始めた生徒たちである。
外国語科の生徒であるため、比較的外国語の興味・関心が高い。
7. 使用教科書：朝日出版社「イラストで楽しもう、スペイン語！ 改訂版」

■年間指導案

1. 年間目標：

スペイン語の言語的特徴を理解し、スペイン語による聞く、読む、話す、書くことの言語活動を通して、身の回りの人物やもの・ことに関する簡単な情報や考えを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーション能力の育成を目指す。また、スペイン語がどこの国や地域で使用されているかを理解し、それらの国や地域の社会文化に目を向ける態度を養うことを目標とする。		
生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
スペイン語の音声や語彙、表現、文法、言語のはたらきなどの理解を深めるとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションで4技能5領域にわたって活用できる技能を身につけるようにする。スペイン語が使用されている国や地域、及びスペイン語が話されるようになった背景に関する知識を深める。	スペイン語のコミュニケーションを行う場面や目的、状況を適切に理解し、それらを考慮しながら日常的な話題についてスペイン語で適切に考えを理解したり、表現したり、伝え合ったりする力を養う。また、知らない・わからないことがあった時に対応できるコミュニケーションストラテジーを養う。	自身のスペイン語学習を振り返り、スペイン語でコミュニケーションをする意義を見出すと同時に、スペイン語圏の社会文化に目を向ける態度を養う。

2. 単元構成: ※以下、◇は文法項目を表し、◆は社会文化項目を表す。

月	単元名	備考
4月(3回) 5月(1回)	第0課「あいさつをしよう！」 ◇ アルファベット ◇ 母音と子音の発音、アクセントの位置 ◇ 挨拶、教室で使う言葉 ◇ 数字(1-10) ◇ 身の周りの語彙と名詞の性 パフォーマンス課題①「初対面のやりとりをしよう」	体調を表す表現(L1)
5月(2回) 6月(3回)	第1課「友達になろう！」 ◇ 主語代名詞 ◇ SER 動詞 ◇ 国名と国籍の性・数、職業の性・数 ◇ ESTAR 動詞 ◇ 肯定文、否定文、疑問文の語順とイントネーション ◆ 世界の国名、都市名(スペイン語圏の国と地域) ◆ スペイン語圏の人の名前 パフォーマンス課題②「自己紹介をして質問をし合おう」	疑問詞 Dónde (L2) 1学期期末テスト
9月(3回) 10月(3回) 11月(3回)	第2課「自分の生活を話そう！」 ◇ 定冠詞と不定冠詞、所有形容詞前置形、名詞の数 ◇ 規則動詞の活用(-AR, -ER, -IR) ◇ 不規則動詞 VER ◇ 前置詞: con, a, de, en ◇ 疑問詞: Qué, Dónde, Quién ◆ ラテンアメリカの人種 ◆ アメリカのヒスパニック パフォーマンス課題③ 「ヒスパニック系有名人にインタビューしよう」	-AR: hablar, estudiar, trabajar, tomar -ER: leer, comer, aprender -IR: escribir, vivir
11月(1回) 1月(4回) 2月(2回)	第3課「家族の話をしてしよう！」 ◇ 親族を表す名詞 ◇ 性格や容姿を表す形容詞 ◇ 数字(11-100) ◇ 不規則動詞 TENER, IR, HACER ◇ 形容詞の比較級と最上級 ◆ スペイン語圏の人々 パフォーマンス課題④ 「家族や好きな有名人を紹介しよう」	3学期学年末テスト

■単元指導案

1. 単元名: 第2課「自分の生活を話そう！」

2. 単元の目標 ※以下、◇は文法項目を表し、◆は社会文化項目を表す。

<p>-ar, -er, -ir の規則動詞を適切に活用してスペイン語で自身の生活について表現する能力を身につけるとともに、何を、誰と、どこでといった疑問詞を適切に用いたやり取りができる能力の育成を目指す。[話す(やりとり)・書く]</p> <p>また、アメリカのスペイン語の使用状況及びヒスパニックに関する理解を深めることを目標とする。</p>		
<p>生きて働く 知識・技能の習得</p>	<p>未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養</p>
<p>◇ -ar, -er, -ir の規則動詞を主語代名詞に合わせて適切に活用する。</p> <p>◇ 前置詞および疑問詞の用法を理解し、それらを用いて正しい語順で疑問文を作る。</p> <p>◇ 定冠詞、不定冠詞が性数によって、所有形容詞が数によって変化することを理解し、適切に用いる。</p> <p>◇ スペイン語の特殊文字や記号、アクセント符号をPCで入力できる。</p> <p>◆ アメリカのヒスパニックの人たちの複言語・複文化的状況を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 相手や、目的、手段を踏まえて状況に合わせてながら、適切に表現したり、質問しあったりする能力を養う。 • わからないことがあった時に既存の知識やコミュニケーションストラテジーを活用し、対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 苦手な点を克服するために粘り強く取り組み、間違いを恐れることなく学習したことを積極的に活用しようとする姿勢を養う。 ◆ アメリカのヒスパニックの人々の複言語的状況を理解し、アメリカにスペイン語話者の存在に目を向けようとする態度を養う。

3. パフォーマンス課題で取り上げる社会・文化事象とその扱い方

本単元では、「～に住む」「～を話す」という基本的な動詞や「どこで」「何を」といった疑問詞を導入し習得する中で、「日本に住んでいるから/日本で生まれているから 日本語を話す」のような単一言語主義的考えではなく、国と言語が必ずしも一致しないことや世界の複言語・複文化主義的状況に気づき理解することを目標とする。

今回のパフォーマンス課題では特に、英語圏であるアメリカのヒスパニックに焦点を当て、世界的に有名なアーティストが多言語を話し、多様な文化的背景を持つことを知る中で、スペイン語話者にも様々な国や地域のルーツの人がいることに気づくことをねらいとする。

また、スペイン語圏の複言語・複文化社会を、英語圏ならびに日本のような単一言語社会と比較したり、どうしてアメリカではスペイン語話者が多いのかといった社会的背景を考えたりすることを目指す。

4. 他教科・他科目との連携

地理、公共 (現代社会)、音楽

5. パフォーマンス課題

「ヒスパニック系有名人にインタビューしよう」

あなたは記者として世界的に有名なヒスパニック系のアーティストにインタビューをして、その人物の情報を記事として発信することになりました。この課題では (1) 有名人役と (2) 記者役の両方をしてもらいます。インタビューで話す／聞く情報は以下のとおりです。

※初対面の設定です。記者役はustedを使うことをお勧めします。

- ①名前：¿Cómo se llama?
- ②職業：¿Qué es?
- ③国籍・出身地：¿De dónde es?
- ④どこに住んでいるか：¿Dónde vive?
- ⑤誰と住んでいるか：¿Con quién vive?
- ⑥どの言語を話すか：¿Qué lenguas habla?
- ⑦どの曲が最も有名／人気か：¿Cuál es su canción más popular / famosa?
- ⑧どの言語で歌うか：¿En qué lengua(s) canta?

(1) 有名人役 (話す)

ヒスパニック系のアーティストを調べて、その人になりきってインタビューに答えてください。

(2) 記者役 (話す、書く)

あなたは有名人にインタビューをして、その人物から聞き取った情報を記事にまとめてください。

6. 学習指導における具体的な評価規準 ※以下、◇は文法項目を表し、◆は社会文化項目を表す。

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性	
		主体的に学びに取り組む態度	観点別状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況
⇒観点別学習状況評価			⇒個人内評価
◇ -ar, -er, -irの規則動詞を主語代名詞に合わせて適切に活用している。 ◇ 前置詞および疑問詞の用法を理解し、それらを用いて正しい語順で疑問文を作っている。 ◇ 定冠詞、不定冠詞が性数によって、所有形容詞が数によって変化することを理解し、適切に用	相手や、目的、手段を踏まえて状況に合わせてながら、適切に表現し、質問しあっている。 わからないことがあった時に既存の知識やコミュニケーション	苦手な点を克服するために粘り強く取り組み、間違いを恐れることなく学習したことを積極的に活用しようとしている。	◆ アメリカのヒスパニックの人々の複言語的状況を理解し、アメリカにスペイン語話者の存在に目を向けようとする態度を養う。

いている。 ☆ スペイン語の特殊文字や記号、アクセント符号をPCで入力できている。 ◆ アメリカのヒスパニックの人たちの複言語・複文化的状況を理解する。	ンストラテジーを活用し、対応している。		
--	---------------------	--	--

パフォーマンス課題の評価ルーブリック：有名人役・記者役（話す）

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
a	単元で学習した文法項目を用いてミスなく、正しい発音で流暢にインタビューに答えられる。	相手や、目的、手段を踏まえて、状況に合わせて、必要であればジェスチャーを使ったりしてインタビューに答えられる。わからないことがあった時に聞き返すだけでなく、返答の間を作らないようにできる。	スペイン語を話すときには間違いを恐れず、聞こえる声で、原稿を見ずに相手に伝えようとしている。
b	一部に誤りがあるが単元で学習した文法項目を用いおり、理解に困らない発音でインタビューに答えられる。	相手や、目的、手段を踏まえて、状況に合わせて、例となる文章の構成で、インタビューに答えられる。わからないことがあった時に聞き返すことができる。	スペイン語を話すときには間違いを恐れず、聞こえる声で、一部原稿を見ながらであるが相手に伝えようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

7. 単元の指導と評価の計画

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1(9/13) 2(9/20)	-ar 動詞、-er 動詞、-ir 動詞、及び前置詞の導入	主語に合わせて適切に動詞を活用できているか。【知識・技能】 前置詞の意味を理解し、正しい語順と発音で文を言えているか。【知識・技能】	授業での観察 (3次に小テスト①)
3(9/27)	小テスト①実施 「動詞の活用、前置詞」 冠詞及び疑問詞とその答え方の練習	定冠詞と不定冠詞の違いを理解し、名詞の性数を一致させて適切に活用することができるか。疑問詞や前置詞を伴う疑問詞を使って適切な語順で疑問文を作り、適切な答え方ができているか。【知識・技能】	小テスト①(50点満点) 【知識・技能】 授業での観察 (4次に小テスト②)

(5) 埼玉県立坂戸高等学校（授業者：廣瀬瞳、2024年1月版）

<p>4(10/4)</p>	<p>小テスト②実施 「冠詞、疑問詞」</p> <p>パフォーマンス課題の説明、及び担当の人物決めと調べ学習</p> <p><宿題> 小テスト①と②の直し</p>	<p>アメリカをはじめとした世界的に有名なアーティストの出身地や話す言語を知る。【知識・技能】</p> <p>小テストで間違えた点について、それらを復習して克服しようとしているか。【主体的に学びに取り組む態度】</p>	<p>小テスト②(50点満点) 【知識・技能】</p> <p>(記録に残す評価は行わないが生徒の活動を確認する)</p> <p>(5次に小テストの直しを提出し、再テストを実施)</p>
<p>5(10/11)</p>	<p>小テスト①と②再テスト</p> <p>パフォーマンス課題用の台本(有名人用)の作成</p>	<p>習った文法項目を使いながら、なりきる有名人についての台本を作成できているか。【思考力・判断力・表現力】</p>	<p>間違えた箇所の直しの提出と再テスト 【主体的に学びに取り組む態度】</p> <p>ワークシートの準備状況の確認【思考力・判断力・表現力】</p>
<p>6(10/25)</p>	<p>パフォーマンス課題用の台本(記者用)の作成</p> <p>キーボード入力の練習</p>	<p>習った文法項目を使いながら、記者としてのインタビューの台本を作成できているか。【思考力・判断力・表現力】</p> <p>Chromebookでのスペイン語の特殊文字や記号やアクセント符号を入力できているか。【知識・技能】</p>	<p>ワークシートの準備状況の確認【思考力・判断力・表現力】</p> <p>(記録に残す評価は行わないが生徒の活動を確認する)</p>
<p>7(11/1)</p>	<p>ペアでのやりとりの模擬練習</p> <p>ALTによる発音チェックと指導(ペアごとに全員)</p>	<p>わからないことがあった時にコミュニケーションストラテジーを活用できているか。【思考力・判断力・表現力】</p> <p>ALTの発音指導により自身の発音を振り返り、より良くしようと練習しているか【主体的に学びに取り組む態度】</p>	<p>(記録に残す評価は行わないが生徒の活動を確認する)</p> <p>(記録に残す評価は行わないが生徒の活動を確認する)</p>
<p>8(11/8)</p>	<p>パフォーマンス課題</p>	<p>[話す]評価用ルーブリック参照 【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学びに取り組む態度】</p> <p>[書く]記者役として聞き取った情報を3人称に活用して書けているか。適切なPC入力ができているか。【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】</p>	<p>ルーブリック (録画し、後日評価)</p> <p>手書き段階のライティング記事の提出、及びPadletへの投稿【知識・技能】【思考力・判断力・</p>

	パフォーマンス課題で書いた記事を読み合い、アメリカのヒスパニックの人たちの複言語・複文化状況について考える	学習を通してアメリカのヒスパニックの人たちの複言語・複文化的状況を理解し、アメリカにスペイン語話者の存在に目を向けようとする態度が見られるか。【知識・技能】<個人内評価>	表現力】 ワークシートの提出
9(11/15)	期末テスト(筆記・口頭) 学習の振り返り	単元の学習事項をよく理解し、状況に合わせて適切に活用できているか【知識・技能】 自身の学習を振り返り、学習の意義や課題を見出しているか<個人内評価>	期末テスト(筆記・口頭) 振り返りシート

■本時の指導案

1. 本時の指導と評価の計画 (11月8日 5、6校時)

分	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
10	挨拶、出席確認 本時の内容の説明とパフォーマンス課題の確認	なし	なし
20	パフォーマンス課題[話す] (各3ペアの2グループに分けて実施)	評価用ルーブリック参照 【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】 【主体的に学びに取り組む態度】	ルーブリック (録画し、後日評価)
10	パフォーマンス課題[書く] (手書きで文章を作成)	記者役として聞き取った情報を3人称に活用して書けているか。【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】	手書きのライティング記事を提出
5	手書きで書いた記事の添削	なし	なし
10	休憩 (PC立ち上げ準備)		
15	パフォーマンス課題[書く] (PadletにPC入力の記事を投稿)	Chromebookでのスペイン語の特殊文字や記号やアクセント符号を入力できているか。【知識・技能】	後日キーボード入力の技能を採点
25	クラスメートが書いた記事を読んでワークシートに取り組む	アメリカのヒスパニックの人たちの複言語・複文化的状況を理解し、アメリカにスペイン語話者の存在に目を向けようとする態度が見られるか。【知識・技能】<個人内評価>	取り組み状況の確認 ワークシート提出
10	学習のまとめと期末テストの案内	なし	なし

2. 補足事項

【ライティング用の採点基準】

手書きのライティング 10点満点

- それぞれ文で用いる動詞が適切であり、動詞の活用が主語に合わせて適切にできている。(3点)
- 前置詞を適切に用いている。(2点)
- 国籍、職業を性に気をつけながら正しく用いている。言語名が適切に書けている。(3点)
- アクセント符号が必要な箇所に正しくある。大文字・小文字が適切である。(2点)

PCのライティング 5点満点

- 必要な項目が時間内に書けている。(1点)
- アクセント符号や特殊文字(n)が適切できている。(2点)
- 大文字小文字が適切に区別されている。(1点)
- ピリオドやコンマの抜けがない。(1点)

【生徒がなりきる予定のヒスパニック系アーティスト一覧】 ※Feat. も含む

- Jennifer Lopez: ニューヨーク出身、両親がプエルトリコ系アメリカ人、代表曲「On the Floor」
- Selena Gomez: テキサス出身、両親がプエルトリコ系アメリカ人、代表曲「I Want You To Know」
- Cardi B.: ニューヨーク出身、父はドミニカ人で母はトリニダード人、代表曲「Taki Taki」
- Becky G.: カリフォルニア出身、両親はメキシコ系アメリカ人、代表曲「Shower」
- Christina Aguilera: ニューヨーク出身、父はエクアドル出身アメリカ人で母はアイルランド系アメリカ人、代表曲「Moves Like Jagger」
- Pitbull: フロリダ (マイアミ) 出身、両親はキューバ人、代表曲「Timber」
- Ricky Martin: プエルトリコ出身、後にアメリカやメキシコに住む。両親はバスク系とカナリア系のスペイン人、英・西・葡・仏・伊を話す。代表曲「Livin' La Vida Loca」
- Daddy Yankee: プエルトリコ出身、代表曲「Despacito」
- Luis Fonsi: プエルトリコ出身、フロリダに移住、代表曲「Despacito」
- Don Omar: プエルトリコ出身、代表曲「Danza Kuduro」
- Bruno Mars: ハワイ出身、父はニューヨーク出身のプエルトリコ人とユダヤ人のハーフ、母はフィリピン出身、代表曲「Uptown Funk」
- Enrique Iglesias: フロリダ (マイアミ) 出身、父はスペイン人で母はスペイン系フィリピン人、代表曲「Bailando」

【研究授業で使用するワークシート「アメリカのヒスパニック」の内容】

★クラスメートのPadletの投稿を読んで、以下の質問に答えましょう。

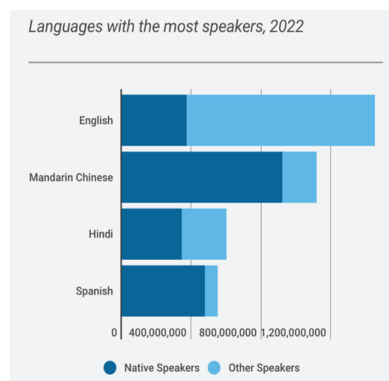
1. 13人のアーティストの中で、あなたが名前を聞いたことがある人や曲を聞いたことがある人はどのくらいいましたか？また、その人たちがスペイン語を話すことを知っていましたか？
2. どの国籍の人がいましたか？国籍と出身地（都市や州）が違う人はいましたか？
3. 2言語以上話す人はどのくらいいましたか？英語以外では、何の言語を話していましたか？

<世界のスペイン語話者人口 (2023)>

外国語としてのスペイン語を含む 5億9,900万人
英語、中国語、ヒンディー語に続き4位 (世界の人口の7.5%)

ネイティブのスペイン語話者 5億人
母国語としては中国語に続き2位 (世界の人口の6.2%)

※Source: [El Español: Una Lengua Viva. Informe 2023 | Instituto Cervantes](#)



※Source: [What is the most spoken language? |](#)

4. スペイン語のネイティブ話者の人口の多い国ベスト5を当ててください。

アメリカのスペイン語話者はどのくらいいるでしょうか？

- | | | |
|----|-------|-----------|
| 1位 | _____ | 1億3,123万人 |
| 2位 | _____ | 5,215万人 |
| 3位 | _____ | 4,761万人 |
| 4位 | _____ | 4,665万人 |
| 5位 | _____ | 4,125万人 |

※Source: [El español en el mundo. Anuario 2023 del Instituto Cervantes](#)

2060年には第____位になると予測されます。
想定話者数は1億1,100万人で、アメリカの人口の27.5% (1/3)にあたります。

5. アメリカの都市や州で出身地として/居住地としてでてきたところはどこですか？

<州: Estado>

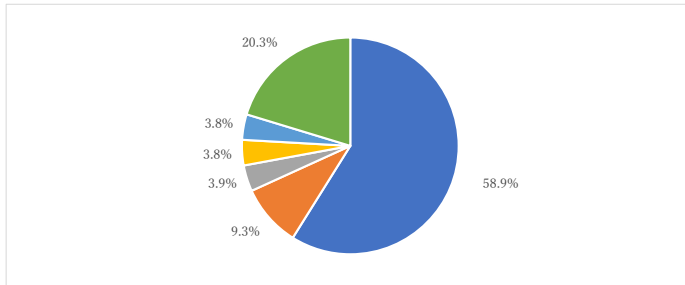
<都市: Ciudad>

6. 上の5番で出てきた州や地域を下の白地図に書き込み、塗ってみましょう。



7. どうして5番や6番のエリアにスペイン語話者が多いのか考えてみましょう。

8. アメリカのヒスパニックの人たちはどこの国にルーツがある人が多いと思いますか？



9. アメリカと日本の言語の使用状況を比べてみて、気づいたことを書きましょう。
10. その他、学習を通して気づいたことや考えたこと、初めて知ったことや疑問点などを書きましょう。

■授業の概要

1. 学校名：横浜市立みなと総合高等学校
2. 科目名：中国語会話基礎・中国語会話 I
3. 単位数：2
4. 担当者：温 悠
5. クラスの構成：中国語会話基礎（2年女子4名）・中国語会話 I（3年女子12名、男子3名）
6. 生徒の概況：2,3年生の合同クラスであり、新・旧カリキュラム合同クラスである。月曜日と木曜日に1時間ずつ授業がある。生徒は中国語の学習に意欲的である。クラスには、在県特別入試枠で入学してきた中国語ネイティブが4人いる。日本・中国の生徒間で、日本語の学習と中国語の学習を互いにしあう間柄である。
7. 使用教科書：『中国語のススメ』 白帝社

■年間指導案

1. 年間目標：

身近な中国人と中国語でコミュニケーションがとれる。中国語の特徴や中国語話者の文化や社会を知る。簡単な中国語によって目的に応じて、聞くこと・読むこと・話すこと・書くことができる。中国語によって主体的にコミュニケーションをとる態度を身に付ける。		
生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
目的に応じてコミュニケーションをするために、必要な中国語の音声・語彙・表現・文法を理解する。これらの知識を使い、中国語で聞く・書く・読む・話すことができる。	目的に応じて、学んだ語句・文法事項を用いて、中国語で話したり書いたりすることができる。場面や状況に応じて簡単な中国語が聞いたり読んだりできる。	中国語の背景にある文化や社会への理解を深めようとする。中国語によって主体的に、粘り強くコミュニケーションを取ろうとする。

2. 単元構成：

月	単元名	備考
4～6月	ピンインを読んで発音してみよう。 自己紹介をしよう。 家族紹介をしよう。	
7～9月	連絡方法を伝えることができる。 食事を注文できる。	

(6) 横浜市立みなと総合高等学校（授業者：温悠、2024年1月版）

10～12月	中華街へ行こう。 食事の注文をしよう。 買い物をしよう。	中国語を用いて中華街で食事を注文したり買い物をしたりする。
1～3月	学校案内ができる。 時間をたずねることができる。 簡単なスピーチをしよう。	

■単元指導案

1. 単元名 横浜中華街へ行こう

2. 単元の目標

横浜中華街の文化や社会への理解を深め、中国語で、 お店で食事を注文したり買い物をしたりすることができる。		
生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
既習の自分についての言い方、食事の注文や買い物についての表現を用いて話したり聞いたりすることができる。 中華街の歴史や文化を理解する。	学習した横浜中華街の文化に関連した会話をし、中華街での会話の場面や状況を想定して、中国語によって台本を作成し、実際に会話において話したり聞いたりすることができる。	横浜中華街の歴史や文化に対する理解を深め、中華街の現在を学び、中華街の人と粘り強く主体的にコミュニケーションをとり、自らの学習を調整しようとする。

3. パフォーマンス課題で取り上げる社会・文化事象とその扱い方

横浜中華街の歴史を知る。お店へ行き、その歴史や料理を紹介しながら中華街で努める人のことを知ろうとする。横浜中華街で暮らす人の社会や文化を学び、授業でこれまで学んだことを活かして中国語で会話することができる。

4. 他教科・他科目との連携

産業社会と人間
地歴・公民科

5. パフォーマンス課題

中華街のお店で簡単な中国語を用いて自分について説明したり、自分のほしいものを注文したりすることができる。

6. 学習指導における具体的な評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学習に取り組む態度	観点別状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況
⇒観点別学習状況評価			⇒個人内評価
既習の自分についての言い方、食事の注文や買い物についての表現を用いて話したり聞いたりしている。中華街の歴史や文化を理解している。	学習した横浜中華街の文化に関連した会話をし、中華街での会話の場面や状況を想定して、中国語によって台本を作成し、実際に会話において話したり聞いたりしている。	横浜中華街の歴史や文化に対する理解を深め、中華街の現在を学び、中華街の人と粘り強く主体的にコミュニケーションをとり、自らの学習を調整しようとしている。	会話の相手を想定して台本を作ることができる。言語やさまざまな方法を用いて相手に伝える工夫をしようとする。

7. 単元の指導と評価の計画

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1	中華街の歴史・商品・料理の資料や動画を用いて調べ、興味あること話し合う。	中華街の歴史や文化を理解している。【知識・技能】	4次のパフォーマンス課題（ループリック） 振り返り
2	お店で買い物・料理を注文する際に必要な表現を復習する。	中華街での場面を想定して話したりきいたりしている。【思考・判断・表現】	発表（音読テスト） 【思考・判断・表現】
3	場面を設定し、学んだ語彙・文法を用いて台本を作成する。	中華街での会話の場面や状況を想定して、中国語によって台本を作成している。【思考・判断・表現】	ワークシート 【思考・判断・表現】
4	ペアで会話練習をする。 グループで会話練習をする。 グループ内発表	学習した横浜中華街の文化に関連した会話をし、中華街での会話の場面や状況を想定して、中国語によって台本を作成し、会話において話したり聞いたりしている。 【思考・判断・表現】	ループリック
5	現地実践。 （各自で放課後や休日に行く）	学習した横浜中華街の文化に関連した会話をし、中華街での会話の場面や状況を想定して、中国語によって台本を作成し、実際に会話において話したり聞いたりしている。【思	記録シートの作成 【思考・判断・表現】

(6) 横浜市立みなと総合高等学校（授業者：温悠、2024年1月版）

		考・判断・表現】	
6	記録を用いてクラスで現地実践の報告文を作る。 報告文を中国語に訳す。 実践に基づいて台本の会話文を再考する。	横浜中華街の歴史や文化に対する理解を深め、中華街の現在を学び、中華街の人と粘り強く主体的にコミュニケーションをとり、自らの学習を調整しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】	ワークシート 【主体的に学習に取り組む態度】 自己評価【個人内評価】
7	書き換えた会話文と報告文をクラス内で発表する。	学習した横浜中華街の文化に関連した会話と中華街での会話の場面や状況を中国語で報告しようとしている。【思考・判断・表現】	発表（ループリック） 【思考・判断・表現】

■本時の指導案

1. 本時の指導と評価の計画

	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
導入	中華街での実践の記録を用いてクラス内で実践報告の準備をする。	なし	
展開	クラス内で順番に報告（発表）をする。	既習の自分についての言い方、食事の注文や買い物についての表現を用いて話したり聞いたりしている。 学習した横浜中華街の文化に関連した会話をし、中華街での会話の場面や状況を想定して、中国語によって台本を作成し、実際に会話の場面において話したり聞いたりしている。	ワークシート（記録用） 【思考・判断・表現】 発表（ループリック） 【主体的に学習に取り組む態度】
まとめ	ワークシートに自己評価を書く。 会話文を再考する準備をする。	横浜中華街の歴史や文化に対する理解を深め、中華街の現在を学び、中華街の人と粘り強く主体的にコミュニケーションをとり、自らの学習を調整しようとしている。	自己評価 【主体的に学習に取り組む態度】 【個人内評価】

補足事項

横浜市立みなと総合高等学校は、横浜中華街の延平門のすぐ横にあり、学科から歩いて数分のところに中華街大通りがある。生徒は中華街の歴史とその成り立ちについてあまり知らない。今回は生徒の生活の身近にある横浜中華街の歴史や成り立ちについて学び、中華街の現在の様子、日本にある他の中華街や世界の中華街についても知るきっかけとしたい。

実際に横浜中華街の飲食店や雑貨店などのお店を訪ね、お客として買い物をする前提で、中国語で台本を作成する。使う中国語は事前に作文し、買い物や食事を注文する時に使う文章とそれ以外の「我是日本人/你是哪国人? /我的爸爸是银行职员。」などの既習中国語もうまく会話文に取り入れながら、会話文を作成

(6) 横浜市立みなと総合高等学校（授業者：温悠、2024年1月版）

するよう指導を行う。現地でどんなことが起こるかなど事前に考えて作文するようにする。

現地へは授業中でなく、自分たちで放課後など都合の良い時に行き、パフォーマンス課題を実施する。生徒たちは、課題について必要に応じて相手に許可を取り、記録を取る。後日授業内でその時の様子の説明をしながら、買い物時に使えた中国語、聞き取れた中国語について簡単な中国語で発表する。発表後は、中華街での実践を踏まえて反省点を出し、実際の様子にあうよう会話を改善し、授業内でもう一度発表を行う。

在県の生徒は中国語の課題のほかに、中国人であることを活かし、中華街に住む人あるいは働く人にインタビューを行い中国語と日本語で発表する。課題内容は、事前に作成した中国語の課題文を使って、現地でインタビューを行い。発表時、正しい日本語で言い間違えなく、ひっかからないで訳して言えることとしている。

在県の生徒とは、みなと総合高校で行っている特別入試枠で入学する生徒のことを指す。特別入試は、在日六年以内の外国籍の生徒を対象に行っている。彼らの中には、中国語を母語とする生徒もおり、中国語の授業を履修した際、中国語の先生のような役割をよくしている。

以上

横浜市立みなと総合高等学校 中国語会話Ⅰ 学習計画表

次	日程	学習活動
1	10月5日（木）	中華街の歴史・商品・料理の資料を用いて調べ、興味あること話し合う。
2	10月16日（月） 10月19日（木）	お店で買い物・料理を注文する際に必要な表現を復習する。
3	10月23日（月）	場面を設定し、学んだ語彙・文法を用いて台本を作成する。
4	10月26日（木） 10月30日（月）	ペアで会話練習をする。 グループで会話練習をする。 グループ内発表
5	11月6日（月） 11月9日（木） 10月31日（木）～11月8日（水）	日→中翻訳練習 会話文の見直しと実践記録づくり 会話文ピアレビュー 現地実践。 （各自で放課後や休日に行く）
6	11月13日（月） 11月16日（木）	実践記録づくり報告文作成 報告文ピアレビュー
7	11月20日（月） 11月24日（金）	記録を用いてクラスで現地実践の報告を中国語でする。 報告後、実践に基づいて台本の会話文や報告文を再考する。 書き換えた会話文をクラス内で発表する。 自己評価、中国語のふりかえりシートを行う。

(6) 横浜市立みなと総合高等学校 (授業者: 温悠、2024年1月版)

ループリック

パフォーマンス課題について

項目/点数	10	8	4	2
中華街の歴史や文化を理解できた。	歴史や文化をよく理解できた。	歴史や文化を少し学習できた。	歴史や文化をあまり理解できない。	歴史や文化を全く理解できない。
場面を想定して中国語で会話文を作れる。	場面を想定してよく書くことができた。	場面を想定して少し書くことができた。	場面を想定してあまり書くことができなかった。	場面を想定して全く書くことができなかった。
中華街のお店で中国語を話せる。	学習した中国語をよく話せた。	学習した中国語を少し話せた。	学習した中国語をあまり話せなかった。	学習した中国語を全く話せなかった。
中華街で粘り強くコミュニケーションできた。	粘り強くコミュニケーションできた。	少しコミュニケーションできた。	あまりコミュニケーションできなかった。	全くコミュニケーションできなかった。
				合計:

報告 (発表) について

項目/点数	5	3	1	
中国語の発音 (子音・母音・声調)	よくできる	少しできる	あまりできない	
中国語の作文 (単語・文法事項)	よくできる	少しできる	あまりできない	
発表態度(前を向く・アイコンタクト)	よくできる	少しできる	あまりできない	
声の大きさ	よく聞こえる声で話せた	少し聞こえる声で話せた	あまり聞こえない声で話す	合計:

(6) 横浜市立みなと総合高等学校 (授業者: 温悠、2024 年 1 月版)

中国語 課題 ふりかえりシート

学籍番号

氏名

年 月 日

- 1, 你叫什么名字?
- 2, 你是日本人吗?
- 3, 你学习汉语吗?
- 4, 你去了中华街吗?
- 5, 你几月几号 (什么时候) 去了中华街?
- 6, 你和谁一起去中华街?
- 7, 你在中华街吃了什么菜?
- 8, 你吃的那个菜辣不辣?
- 9, 你怕辣吗?
- 10, 你是初中生还是高中生?

■授業の概要

1. 学校名： 神奈川県立藤沢総合高等学校
2. 科目名： 中国語発展
3. 単位数： 2単位（後期のみ・55分×週4時間）
4. 担当者： 常廣 徹・高 華（ALT）
5. クラスの構成： 高校2・3年生 24名（男子0名・女子24名）
6. 生徒の概況： 履修生徒全員が昨年度または今年度前期に中国語入門を履修している生徒であり、中国語の発音の基礎、簡単な日常表現については学習済である。発音練習等も熱心に取り組む生徒が多く、中国語への学習意欲は高い。
7. 使用教科書： 『中国語で伝えよう！コミュニケーション・チャイニーズ』朝日出版社

■年間指導案

1. 年間目標：

中国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、中国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図り、中国語の特性及びその背景にある文化や社会、中国語を使用する人々の考え方や価値観に関心を持ち、日本語圏、中国語圏、英語圏等の文化や社会を理解する。		
生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
【知識】 中国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解する。 【技能】 聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	中国語でコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、中国語で簡単な情報や考えなどを聞いたり読み取ったり、これらを活用して話したり、書いたり、伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、中国語の特性や考え方や価値観に関心を持ち、日本語圏、中国語圏、英語圏等の文化や社会を理解する。

2. 単元構成：

月	単元名	備考
4・5月	中国を知ろう！ 発音の基礎を習得しよう！ 中国の昔話を知ろう！ 中国語で名刺交換をしよう！	中国の基本的情報や歴史の調べ学習をする 四声、単母音、子音の発音テストを実施する 中国の伝記小説をもとにした映画を鑑賞する 中国語で挨拶をして名前を言う (会話、ピンインの読み方、発音) 《テキスト第1課・第2課の内容》 “是”を用いた動詞述語文、喝疑問文、名前の言い方、指示代名詞、形容詞述語文等
6・7月	日常会話を覚えよう！ 自己紹介をしよう！	数字、日にち、曜日、年齢の言い方、場所の言い方、好きなことの言い方等の日常会話表現を覚える 《テキスト第3課・第4課の内容》 動詞+“过”、副詞“也”、“喜欢”+動詞句、数字、日にち、曜日、年齢の言い方、名詞述語文等 既習事項を用いた自己紹介カードの作成と朗読（挨拶、名前、高校名、好きなこと） 《テキスト第5課・第6課の内容》 所有・存在を表わす動詞“有”、量詞、疑問詞疑問文、前置詞“离”等
8・9月	中国語入門の学習をふりかえろう！	既習事項の確認筆記テストを実施する 《テキスト第7課の内容》 動詞+“一下”、反復疑問文、“清”+動詞句等
10月	中国語の世界を広めよう！ 漢詩を読もう！	中国語入門で学習した成果をポスターで発表する（文化祭と連動） 漢詩の朗読をする（発音の総復習） 《テキスト第8課・第9課の内容》 場所の表現、去/来を用いた連動文、動作の方法、手段の尋ね方等
11月 12月	中国の地域紹介文を書こう！ (中国のさまざまな地域を紹介しよう！①) 中国の地域紹介スライドを製作しよう！ (中国のさまざまな地域を紹介しよう！②)	中国の地域を1つ選択し、その地域の紹介文を作成する 作成した紹介文をもとにグループで紹介スライドを製作し、視聴する 《テキスト第10課の内容》 中国語の字幕入力、動作の完了、比較の表現等
1月	中国の地域観光プランを製作しよう！ (中国のさまざまな地域を紹介しよう！③)	製作したスライドをもとに、その地域の観光プランを作成、発表する 《テキスト第11課・第12課の内容》 選択疑問文、時刻や時点の表現、動作の起点等
2・3月	1年後の自分に手紙を書こう！	既習事項を用いて1年後の自分宛に手紙を書く

※4～9月（前期）は「中国語入門」の学習内容である

■単元指導案

1. 単元名 中国の地域紹介スライドを製作しよう！

2. 単元の目標

<p>前単元で学習した中国のさまざまな地域を紹介する紹介文をもとに、紹介する地域の画像、映像を用いた紹介スライドを製作することで、中国のさまざまな地域の紹介を中国語で行うことができる。また、スライド製作の過程で調べた中国のさまざまな地域の文化や人々の生き方を知り、日本との違いを探究することで異文化理解を深めることができる。</p>		
<p>生きて働く 知識・技能の習得</p>	<p>未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養</p>
<p>【知識】 ・動詞、目的語文や動作の完了、比較の表現を用いた文について理解する。 【技能】 ・中国のさまざまな地域を紹介するスライドを製作する際に、場所や活動について、動詞、目的語文や動作の完了、比較の表現を用いた文を話す技能を身に付ける。</p>	<p>・中国のさまざまな地域を紹介するスライドを製作するために、前単元で作成した紹介文をもとに、調査した情報を整理し、簡単な語句や文を用いてまとめることができる。 ・中国のさまざまな地域を紹介するスライドの製作を通じて、中国語で表現することができる。</p>	<p>・スライドという媒体を通して、見ている相手にわかりやすく伝えるコミュニケーション力を養う。あわせてスライドの製作を通しての表現や構成の工夫について深く考えて実行することで、自分の考えを粘り強く中国語で表現し、自らの学習を調整しようとする。</p>

3. 社会と文化への気づきのポイント

中国のさまざまな地域を中国語を用いて紹介することで、日本と異なる点について理解を深めることができる。あわせてスライド製作のために中国のさまざまな地域にある歴史的建造物、料理名等について調査することで、国際社会を生きるグローバルな視点を獲得することができる。また、歴史的建造物や料理名等の中国語と日本語を比較することで、名称のあり方の違いなどに気づくことができる。このような活動を通して製作した、中国のさまざまな地域を紹介したスライドを視聴することで、自らが調べた以外の地域の中国の文化を知ることができ、中国の広大さと多様な文化について知ることができる。

4. 他教科・他科目との連携

- ・情報Ⅰ（1年次履修）…インターネットを用いた調査、プレゼンテーション資料の作成法
- ・現代の国語（1年次履修）…目的や場に応じた効果的な表現の方法
- ・産業社会と人間（1年次履修）…単元「1年間をまとめる」における発表
- ・スペイン語入門、スペイン語発展（2・3年次理由）
…単元「便利な表現を使ってみよう！」におけるスライド製作
- ・総合的な探究の時間（課題研究Ⅱ・Ⅲ）…課題に関する調査研究及び発表

5. パフォーマンス課題

「中国のさまざまな地域を紹介するスライドを作って発表しよう！」
中国語を勉強していて、実際に中国に行ってみたい日本人の視聴者を想定して、旅行に出かけたい中国のさまざまな地域について、中国語で紹介し、その後の観光プラン作成に役立つ中国語のスライドを作成し発表する。

6. 学習指導における具体的な評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学びに取り組む態度	観点別状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況
⇒観点別学習状況評価		⇒個人内評価	
【知識】 ・動詞、目的語文や動作の完了、比較の表現を用いた文について理解している。 【技能】 ・中国のさまざまな地域を紹介するスライドを製作する際に、場所や活動について、動詞、目的語文や動作の完了、比較の表現を用いた文を話す技能を身に付けることができる。	・中国のさまざまな地域を紹介するスライドを製作するために、前単元で作成した紹介文をもとに、調査した地域の歴史的建造物や料理等の情報を整理し、簡単な語句や文を用いてまとめることができる。 ・話すことにおいて、中国のさまざまな地域を紹介するスライドの製作を通じて、中国語で表現している。	・スライドという媒体を通して、見ている相手にわかりやすく伝えるコミュニケーション力を養う。あわせてスライド視聴を通して中国の社会や文化について深く考えることで、自分の考えを粘り強く中国語で表現し、自らの学習を調整しようとする。	・中国のさまざまな地域の文化や特徴を理解し、日本語との名所のあり方等を比較し、今後に生かすことができている。 (振り返りシート) ・学習した文法や語法を踏まえて、粘り強く中国語を用いる姿勢を身に付けることができる。

7. 単元の指導と評価の計画

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1 (2)	テキスト第10課の学習を通じて、動作の完了を表わす助詞“了”、“是～的”の用法、比較を表す前置詞“比”の用法について学習する。	・単語の意味、例文の日本語訳を通じて、完了と比較の用法を理解している。 【知識・技能】 ・中国語に訳す練習問題を通じて、完了と比較の用法を正しく用いて話すことができる。 【思考・判断・表現】	筆記テスト (後日) 【知識・技能】 【思考・判断・表現】
2 (4)	選択した地域ごとに小グループにわかれ、前単元で作成した紹介文を共有した上で、紹介する地域について調査する。情報を整理し、画像資料等の素材をもとに紹介スライドを製作する。	・前単元で作成した紹介文をもとに、調査した地域の歴史的建造物や料理等の情報を整理し、簡単な語句や文を用いてまとめることができる。 【思考・判断・表現】 ・整理した情報、画像資料等の素材をもとに紹介スライドを適切に製作することができる。 【思考・判断・表現】	(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する)
3 (2)	他グループの発表を聞くことで、中国のさまざまな地域にある社会や文化について学習する。	・スライド発表を通して中国の社会や文化について深く考えることで、自分の考えを粘り強く中国語で表現し、自らの学習を調整しようとしている。 【主体的に学習する態度】	発表を聞く際の行動の確認 発表シート 単元振り返りシート 【主体的に学習する態度】

■本時の指導案

1. 本時の指導と評価の計画

分	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
導入 5	本時の学習活動と目的について確認する。	なし	なし
展開 45	発表練習を行う。 (スライドの動作確認) 製作したスライドを用いて発表する。 他の班の発表を聞く。	各グループのスライドを視聴し、中国のさまざまな地域の文化等について、気づいた点を発表シートにまとめることができる。【主体的に学習する態度】	スライドの視聴による行動の確認 【主体的に学習する態度】
まとめ 5	単元の振り返りをする。 次単元の予告をする。	紹介スライドの製作を通じて、気が付いた点、工夫した点などを発表シートにまとめることができる。【主体的に学習する態度】	発表シートの記述 【主体的に学習する態度】

2. 補足事項

本単元は令和4年度に本校スペイン語発展で実施した同プロジェクトの研究授業「便利な表現を使ってみよう!」の内容、及び同単元のパフォーマンス課題「スペイン語圏の国で紹介するVTRを作ってみよう!」を中国語で実践しようと試みたものである。本校生徒の中には中国語とスペイン語の両方を履修する生徒も少なからずおり、同じパフォーマンス課題でも国や言語が異なることで、さまざまな面において文化の違いを感じることができ、生徒にとっての学びの気づきも多いのではないかと考える。また、同じパフォーマンス課題を両言語の授業で実践することができれば、一つの言語に留まらず、さまざまな言語において同様の学習活動を行うことができ、学習活動に広がりをもつことができると考えている。

(8) 大阪府立門真なみはや高等学校（授業者：柳素子、2023年8月版）

■授業の概要

1. 学校名：大阪府立門真なみはや高等学校
2. 科目名：「中国語演習」（選択必修科目、「グローバル中国語」と連携）
3. 単位数：2単位(50分×2コマ連続×週1日)
4. 担当者：柳 素子(外国語(中国語)科教諭)
5. クラスの構成：高校2年生 25名(男子2名・女子23名)
6. 生徒の概況：本クラスは25名から成り、4月から週2コマというペースで中国語を学んでいる。授業中は真面目に取り組んでいる生徒が多いが、発言は少なく、発音練習の際の声も小さい。なお、クラスには中国ルーツの生徒が3名在籍しており、他教室においてNCT(中国語ネイティブ教員)の指導のもと問題演習を行っている。
7. 使用教科書：「できる・つたわる・コミュニケーション中国語」（白水社）

■年間指導案

1. 年間目標：

中国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。また、中国語の背景にある文化、価値観についても理解を深め、多文化共生の考え方にも着目して捉えさせる。		
生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
中国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともにこれらの知識を、聞くこと、読むこと話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題について、中国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	中国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(来るべき多文化共生社会において、中国ルーツの人々と主体的に関わり共生していこうとする態度を育成する。)

(8) 大阪府立門真なみはや高等学校（授業者：柳素子、2023年8月版）

2. 単元構成：

月	単元名	備考
4月	第1課 あいさつする	
5月	第2課 名前を尋ねる 第3課 食べたいものを尋ねる	
6月	第4課 近況を尋ねる 復習1 第1課～第4課	パフォーマンス課題： 自己紹介
7月	第5課 予定を尋ねる	
9月	第6課 場所を尋ねる。 第7課 注文する	
10月 11月	第8課 買い物をする（値段の交渉をする）	「グローバル中国語」と 連携
	復習2 第5課～第8課	パフォーマンス課題： 中国食材店の紹介
12月	第9課 出来事を尋ねる①	
1月	第10課 出来事を尋ねる②	
2月	1年間の総復習	

■単元指導案

1. 単元名 第8課「値段の交渉をする」

2. 単元の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な話題（買い物）について、基本的な語句や文を用いて、相手に配慮しながら話して伝えることができる。 ・中国食材店での購買実習を通して、中国の文化、価値観について理解を深める。 ・地域社会において、中国ルーツの人々（地域の中国食材店の店員、近隣小学校の中国ルーツの児童）と交流することで、多文化共生のあり方について考える。

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
指示代名詞、量詞（助数詞）、値段の言い方の意味・用法を理解する。またこれらの知識を実際のコミュニケーション（買い物や中国食材店の紹介）において活用できる技能（聞く、読む、書く）を身に付けるようにする。	買い物の場面において、既習事項も使って、自分の好みや要望を適切に書き、話し（やりとり）ことができる。 ・中国食材店を紹介する場面において既習事項も使って適切に書き、話す（発表）ことができる。	・中国食材店の取材を通して、中国語の背景にある文化に対する理解を深める。 ・中国ルーツの店員や小学生など年齢の異なる相手に配慮しながら、中国語を使って主体的にコミュニケーションを図ることがで

		きる。 ・地域社会において多様なルーツの人々と共生していくためにはどうすればいいのかを考える。
--	--	--

3. 社会と文化への気づきのポイント

■言語の学びと結びついているか？

⇒パフォーマンス課題を遂行する際に、単元の文法・表現項目である指示代名詞、助数詞、値段の言い方を用いて4技能5領域を網羅した学習を行う。

⇒多文化共生の観点から、中国ルーツの人々と積極的にかかわることができるようにコミュニケーションストラテジーについて学ぶ。

■知識を獲得しているか？

⇒中国の食文化に関する知識の獲得

・中国北方の主食は小麦で、米を使った料理は少ない。（取材をする3つの食材店は北方出身の方が経営されているので、マントウ（蒸しパン）など小麦を使ったものが多く販売されている。）

・中国の年中行事に関する食品（それぞれの時期に合わせて販売される。）

（ちまき<端午の節句>、月餅<中秋節>、湯圓<旧正月の最終日>など。）

・もともとは地方や少数民族のお菓子であったもの（現在は中国全土で販売されている）

（麻花（天津）、沙琪玛（満州族））

■比較やできているか？ ■気づき（発見）が起こっているか？

⇒日本のスーパーマーケットと中国食材店を比較し、共通点と相違点について考察している。

（品揃え、陳列方法、フレキシブルな営業時間など）

⇒中国特有の食材やその種類の多さに気づいている。

（冷凍餃子（肉、エビ、野菜）、調味料、卵（鶏卵、アヒルの卵）、きくらげ（黒木耳、白木耳）、豆腐製品（豆腐、干豆腐（押し延べ豆腐）、豆腐皮（ゆば））、小米（粟）、香辛料が多く入ったラーメン、砂糖が入ったウーロン茶など）

■考察（理由背景など）できているか

⇒門真市に中国食材店が多い理由について調査・考察を行う。（「グローバル中国語」と連携）

（「府内市町村の在留外国人数が多い上位10か国・地域名及び在留外国人数（大阪府2021資料）」などを用いて、門真市は府下でも外国人在住者が多く、その中でも市の人口に占める中国人の割合がで比較的高いことを理解する。）

4. 他教科・他科目との連携

「グローバル中国語」（中国事情に関する科目）

(8) 大阪府立門真なみはや高等学校（授業者：柳素子、2023年8月版）

5. パフォーマンス課題

本校の中国語フィールド（生徒の興味・関心・進路に沿って選択できる科目群のこと）では、K高校の中国語クラスでは同市内にあるA小学校の中国語母語クラスの児童と交流を行っています。今年度は市内の中国食材店の紹介をすることになりました。店への取材（買い物）を行い、その内容をスライドにまとめ、母語クラスの小学生に中国語と日本語でプレゼンテーションを行いましょう。

6. 学習指導における具体的な評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学びに取り組む態度	観点別状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況
⇒観点別学習状況評価		⇒個人内評価	
<ul style="list-style-type: none"> 指示代名詞、量詞（助数詞）、値段の言い方の意味・用法を理解する。 上記の知識の理解を基に、買い物や中国食材店の紹介において活用できる技能（聞く、読む、書く）を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物でほしいものを探ることができるように、既習事項も活用しながら自分の好みや要望を、適切に書き、話している（やりとり）。 中国食材店の紹介をするために既習事項も活用しながら適切に書き、話している（発表）。 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物でほしいものを探ることができるように、自分の好みや要望を、適切に書き、話そ（やりとり）うとしている。 中国食材店の紹介をするために既習事項も活用しながら適切に表現し、わかりやすく書き、話そ（発表）うとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に配慮しながら、中国語を使って主体的に、自立的にコミュニケーションを図ろうとしている。 単元の学習後も、中国ルーツの人々が多く居住する地域において、自らは異なる文化、価値観について理解し、中国語を使って積極的に関わり共生していこうとする意欲が見られる。

7. 単元の指導と評価の計画

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1	指示代名詞、助数詞、中国の通貨について学ぶ。	買い物をする場面で必要な語彙・文法事項を理解し、表現している。【知・理】	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 ワークシートの記述点検
2	値段を尋ねたり、値引き交渉に関する表現を学ぶ。		<ul style="list-style-type: none"> 練習問題の点検 本文暗唱テスト 定期試験（後日実施）
	《校外学習（フィールドの日）》 神戸中華街での購買実習	適切な表現を使って買い物をすることができる。 【思・判・表】	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 振り返りシートの記述点検
3	中華街での購買実習のふりかえりと中国食材店での取材（買い物）の準備1（一斉、グループ）	中華街での購買実習のふりかえりをもとに、買い物をする場面で必要な語彙やコミュニケーションストラテジーについて理解している。【知・理】	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 ジャムボードやドキュメントへの記述点検

(8) 大阪府立門真なみはや高等学校（授業者：柳素子、2023年8月版）

		既習事項も活用しながら、取材（買い物）に必要な表現をまとめている。【思・判・表】	
4	中国食材店での取材（買い物）の準備2（グループ）	既習事項も活用しながら、取材（買い物）に必要な表現をまとめている。【思・判・表】 グループワークにおいて、協力しながら積極的に課題を解決し、発表しようとしている。【態】	・行動観察 ・ジャムボードやドキュメントへの記述点検
5	中国食材店での取材（買い物）を行う。（グローバル中国語）	買い物の場面において、既習事項も使って、自分の好みや要望を適切に表現したり伝えたりすることができる。【思・判・表】	・行動観察
6	中国取材結果をスライドにまとめ、発表原稿を作成する。	グループのメンバーと協力しながら取材や原稿の作成を行う。【態】	
7	小学校でのプレゼンテーション、ふりかえり	中国食材店について既習事項も活用しながら適切にわかりやすく紹介している。【思・判・表】 グループのメンバーと協力しながら、聞き手に配慮した（ジェスチャー、アイコンタクト等）、わかりやすい発表を行っている。また、振り返りシートからは、自らの言語活動を振り返り、中国文化への理解が見られる。【態】	・行動観察 ・ループリック評価 ・発表原稿（PPTの内容も含む） ・振り返りシートの記述点検 ＜当日はプレゼンテーションを録画し、後日動画を確認しながら評価を行う。＞

■本時の指導案

1. 本時の指導と評価の計画

分	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
5	○中国語であいさつをする。 ○中国語で日時、曜日を言う。	正確に発音している。【知・理】	
5	○本時の目標の確認 ○音読練習 <u>教科書（第8課本文）</u> ・ピンインのみ、簡体字のみ、日本語のみのそれぞれの画面を見ながら練習する。	指示代名詞、量詞（助数詞）、値段の言い方の意味・用法を理解した上で、正確に発音している。【知・理】	
15	<u>神戸中華街での購買実習のふりかえり</u> ・中華街で使用した語彙について全員で共有する。教師から提示された、中国食材店での気づきのヒントとなるような語彙（ピンイン表示）を調べ、簡体字と意味	・中華街での購買実習のふりかえりをもとに、買い物をする場面で必要な語彙やコミュニケーションストラテジーについて理解している。【知・理】	

(8) 大阪府立門真なみはや高等学校（授業者：柳素子、2023年8月版）

	を確認しておく。 ・コミュニケーションストラテジーについて学ぶ。 (繰り返し要求(ゆっくり言ってもらおう、紙に書いてもらおうよう依頼する)、ジェスチャーなど)		
20	○会話文の作成 4つのグループに分かれ、各自がクロムブックを用いて、グループごとにワークシート(Googleドキュメント)を共有しながら、会話文を作る。 ○Sharing(中間指導) 各グループの疑問点などを全体で共有し、内容面と言語面からのフィードバックを受ける。	・買い物でほしいものを探すことができるように、既習事項も活用しながら自分の好みや要望を、適切に表現している。【思・判・表】 ・グループのメンバーで協力しながら作成している(フリーライダーが生じていない)。【態】 ・Sharing(中間指導)では積極的に意見を出している。【態】	
5	○本時のまとめをする ○次時の予告を聞く。 ○中国語であいさつをする。		

2. 補足事項

2. 1. 実践の背景

本校は総合学科の高校であり、「日本語が必要な帰国生徒・外国人生徒入学選抜」を実施しており、外国にルーツを有する生徒も多数在籍している。こうした外国ルーツの生徒を対象に母語授業を開講する設定していることから、本校で開設している中国語に関する科目は、初級から母語話者レベルまでと多岐にわたる。また、本校が位置する門真市には中国ルーツの人々が多く居住し、市内の複数の小中学校でも中国語母語クラスが設けられ、さらに高校の近くには中国食材店や中国人が経営するレストランが立ち並ぶ。近年、教育現場においては、「異文化理解や多文化共生の考え方が根付くような取組を進めること(中教審2021)」が求められるようになってきている。こうした背景をふまえ、実践者は勤務校の置かれた環境が絶好の「学習リソース(learning resources)」になると考えた。そこで、昨年度は、中国語の学習を通して「多文化共生」への理解を深めることを目標に、中国ルーツの人々が多く居住する地域社会に目を向け、(神戸中華街で会話の練習をしたのち、)地元の中国食材店で取材(買い物)を行い、その成果を近隣の小学校の中国語母語クラスで発表した。

今年度も同じテーマで実践を行うが、昨年度の反省から単元の指導計画を練り直し、「社会と文化への気づき」に重点をおいた形で学習を進める。昨年度の実践では、教科書で学習した買い物に関する表現を使って、神戸中華街で購買実習を行い、そのふりかえりをふまえて、地元の中国食材店において、取材と買い物を行った。生徒たちは、買い物以外にも、グループごとに質問事項を考えて、店名の由来、営業時間、おすすめの商品などを尋ねることができた。しかしながら、中国の食材店の取材においては、気づきや日中の比

(8) 大阪府立門真なみはや高等学校（授業者：柳素子、2023年8月版）

較において不十分な点もあった。そこで、「足場かけ」として、「きくらげ」、「卵」など中国の食品について理解する上でキーとなる語をピンイン（発音記号）で提示し、前もって意味と簡体字を調査した上で取材をしてもらうことにした。また、昨年度の中国食材店のふりかえりからは、店員の声が聞き取れなかった、会話が途切れてしまったなどの意見が挙がった。神戸中華街では、商品名を聞いたり、値段を聞いたり、おつりをもらったりと教科書の本文に近い会話内容で対応ができた。しかし、中国食材店では質問によっては答えが聞き取れないことは容易に想像できるし、そもそも客はほとんど中国語母語話者であり、店員に対して生徒のレベルに合わせたティーチャーズトークは期待できない。そこで、今年度はコミュニケーションストラテジーについて指導（繰り返し要求（ゆっくり言ってもらおう、紙に書いてもらうよう依頼する）、ジェスチャーなど）することで、学びの深化を図る。

2. 2. ループリック評価

今年度は、「社会や文化のポイントへの気づき」に重点をおいて実践が行われるようになったこともあり、ループリックについても、昨年度設定したパフォーマンス課題へのループリックのほかに、文化に関する記述も追加し（太字部分）、多角的に評価ができるようにした。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙や表現が適切に使用されている。 ・理解しやすい発音で話している（声調やピンイン（発音記号）に気をつけて発音しており、声も大きく明瞭で、伝えた内容がよくわかる。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国食材店の様子や特徴が十分に伝わるように、わかりやすく話している。 ・既習事項（時間・曜日の言い方、場所を尋ねる表現、所有の表現など）を三項目以上活用しながら、表現したいことを伝えている。 ・視覚資料を効果的に活用し、非常にわかりやすい発表である。（スライドの写真、レイアウト、文字サイズ等が見る人を引きつけ、印象に残る工夫がある。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国食材店の様子や特徴が十分に伝わるように、わかりやすく話そうとしている。 ・既習事項（時間・曜日の言い方、場所を尋ねる表現、所有の表現など）を三項目以上活用しながら、表現したいことを伝えようとしている。 ・発表では、聞き手に配慮して、常にアイコンタクトを保ち、伝えたい部分の強調や身振り手ぶりなどを工夫している。 ・一回で通じなくても、繰り返したり、自らの中国語の発音を省みながら言い直すなど、粘り強くコミュニケーションを取ろうとしている。（コミュニケーションストラテジーの活用）
b	<ul style="list-style-type: none"> ・多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の語彙や表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国食材店の様子や特徴をわかりやすく話している。 ・既習事項（時間・曜日の言い方、場所を 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国食材店の様子や特徴をわかりやすく話そうとしている。 ・既習事項（時間・曜日の言い方、場所を尋ねる表現、所有の表現など）を1項目以上活用しながら、表現したいことを伝えようとしている。

(8) 大阪府立門真なみはや高等学校（授業者：柳素子、2023年8月版）

<p>を使って話して伝えている。</p> <p>・多少の誤りはあるが、理解できる発音で話している（声調やピンイン（発音記号）の正確さに少し欠けるが、大体声も大きく明瞭で、伝えたい内容はほとんどわかる。）。</p>	<p>尋ねる表現、所有の表現などを1項目以上活用しながら、表現したいことを<u>伝えて</u>いる。</p> <p>・視覚資料を活用し、わかりやすい発表である（スライドの写真、レイアウト、文字サイズ等が見やすい。）。</p>	<p>る。</p> <p>・発表では、アイコンタクトや伝えたい部分の強調、身振り手ぶりなどが部分的に見られる。</p> <p>・日本のスーパーと中国食材店の共通点や相違点を整理できる。</p>
<p>c 「b」を満たしていない。</p>	<p>「b」を満たしていない。</p>	<p>「b」を満たしていない。</p>

<参考文献>

（ループリックの記述に関して参考にした文献）

国際交流基金 2010 「日本事情・日本文化を教える」 p72

国際文化フォーラム 2013 「外国語学習のめやす」 p94

■授業の概要

1. 学校名: 横浜市立みなと総合高等学校
2. 科目名: ドイツ語
3. 単位数: 2
4. 担当者: 池谷尚美 (非常勤)
5. クラスの構成: 高校2.3年生 4名(男0名・女4名、2年生、3年生2名ずつ)
6. 生徒の概況: 生徒の興味は、デザイン、お城など。
7. 使用教科書: Spitze! 1 (朝日出版社)

■年間指導案

1. 年間目標:

ドイツ語圏の同世代の生徒や、身近にいる同世代の生徒と交流することを想定し、ドイツ語やドイツ語圏の文化に関心を深め、相手の文化と自分の文化をお互いに紹介するような活動を通じ、自己紹介・趣味・自分の一日について話題にし、自ら発信することができる。		
生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
○ドイツ語の音声、語彙、文法、言語の働き等を母語や既習言語の知識を援用しながら理解する。	○相手と自分の関係や、相手の文化的な背景に配慮しつつ、コミュニケーションを円滑に進めるために、4技能のスキルを場面に応じて適切に運用することができる。 ○相手の考えを理解し、自分の考えを様々な手段(文字テキスト、ジェスチャー、写真、動画等)を使いながら伝えることができる。	○相手と積極的に関係を構築するために、自ら発信し、積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を養う。 ○ドイツ語圏の文化を、他文化や自文化と比較しながら理解を深めることと同時に、自文化や固定観念についても内省することができる。

2. 単元構成:

月	単元名	備考
4-5月	Lektion1 挨拶、自己紹介	
5-6月	Lektion2 職業、国籍	
7-9月	Lektion 3 友達の紹介、話せる言葉について	

10-12月	Lektion4 持ち物 (前半)、(レストランでの会話)、食習慣 (後半)	
1-2月	Lektion5 家や部屋について話す	
2-3月	Lektion6 家族について話す	

■単元指導案

1. 単元名 食習慣(Lektion4 後半)

2. 単元の目標

ドイツ語圏 (オーストリア、スイス) の朝・昼・夕食や名物料理について話す。		
生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
(知識) 食品の名前や名詞の性等の知識を理解し、活用することができる 食べ物の好みを伝える文の形や意味を理解し、使うことができる。 (技能) 食べものの好みを伝えたり、朝食・昼食・夕食に何を食べるかを伝えることができる	(思考) 日本とドイツ語圏の朝・昼・夕食や名物料理を知り、比較することができる。 目標言語圏の3つの国 (ドイツ・スイス・オーストリア) の食文化を比較することができる。 (判断) 朝食、昼食、夕食、名物料理について、どれを伝えるべきか適切に判断することができる。 (表現) 朝食、昼食、夕食、名物料理について、聞き手にわかりやすく伝えることができる。	ドイツ語圏の食文化や食習慣について、関心を持ち、尊重する態度を養う。 発表の際に発音が難しかったり、詰まることがあっても、言い直すなどして粘り強く取り組む態度を養う。 学習を振り返り、自分の学習を調整したりする力を養う。(得意なことや苦手なことを意識したり、自分に合った学習を身につけるなど)

3. 社会と文化への気づきのポイント (知る・気づく・比べる・考えるなど)

ドイツ語圏の国 (ドイツ、オーストリア、スイス) の食文化を調べ、その国の歴史や地理的な条件などを考察することができる。
--

4. 他教科・他科目との連携

社会 (歴史、地理)、家庭科

5. パフォーマンス課題

あなたは、みなと総合高校の高校生新聞の記者です。あなたは、オーストリア/スイスの高校生に、普段何を食べているか、その国の名物は何か、ドイツ語でインタビューし、それを他の生徒に伝えます。高校生同士なので、やりとりは”du” や” ihr” を使います。

- 記者役の方は、校内の生徒向けに、状況の説明
- あいさつ、お互いの自己紹介
- 朝食・昼食・夕食に何を食べているか
- オーストリア・スイスの名物料理（die Spezialität, -en）は何か
（現地高校生役の方は、画像をパワーポイントでまとめる）
- お礼
- 記者役の方は、校内の生徒人向けに、日本語でまとめを言う

6. 学習指導における具体的な評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学びに取り組む態度	<small>観点別状況評価や評定には示しきれない</small> 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況
⇒観点別学習状況評価		⇒個人内評価	
（知識）食品の名詞の性、食習慣に関する慣用表現を理解している。 （技能）定型句を用いて食習慣を話すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ●紹介するべきものを適切に取捨選択している。 ●食習慣に関する表現を適切に応用している。 ●相手にわかるように適切に発表する技能が身に付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ドイツ語圏の食文化と自文化の対比しながら、ドイツ語圏の食文化を深く知り、尊重しようとしている。 ●難しい単語の読み方や、発音にも粘り強く取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の学習を振り返り、自分なりの工夫やストラテジーを使っている。

7. 単元の指導と評価の計画

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1	身近な物について、ドイツ語で何というか伝える	身近なもの（本、傘、時計など）をドイツ語で何というか理解している。 身近な物の単語を正しく発音している。 名詞の性に応じた冠詞の使い分けをし	生徒同士で口頭で質疑応答する様子で評価

(9) 横浜市立みなと総合高等学校（授業者：池谷尚美、2024年1月版）

		ている。 「～はドイツ語で何と言いますか？- それは～です」の文を、語句を変えて 適切に応用している。	
2	身近な物の色や印象を 話す	色の単語を適切に発音している 色の単語を使い、身近なものが何色か を伝えている 「～を持っている」というの文を、語句 を変えながら適切に応用している。 (Hier habe ich die Brille. 「ここに メガネを持っています」)(動詞 haben、 不定冠詞と定冠詞の4格)	生徒同士で口頭で質疑応答する 様子で評価
3	身近な物の評価(良い・ 良くない)を言う	身近な物の感想を伝える表現を適切に 理解し、語句を変えて尋ねたり、答えて いる。 食品の単語を理解し、適切に発音でき る。 モデルダイアログにならい、食べ物 の好みを、語句を変えて応用している。	生徒同士で口頭で質疑応答する 様子で評価
4	自分が持っているもの について話す 食べ物の好みを伝える パフォーマンス課題の 導入・グループ分け 日独の食文化の比較	自分の持ち物について話す (不定冠詞の4格) 「AよりもBのほうが好きだ」という表 現を、語句を変えて適切に応用してい る。 日本とドイツの地理的条件や食材を適 切に比較している。	小テスト 生徒の話し合いの様子
5	自分の朝食・昼食・夕食 について話す	朝食・昼食・夕食に何を食べるかに関す るテキストを読み、重要な箇所を把握 している。 食習慣に関する語彙や文章の構造を理 解し、適切に話している。 相手にわかるように、食べ物の好みや 食習慣について、適切に質問したり、答 えている。	内容理解の質問をして、回答する 様子を観察。 口頭発表の様子を評価。

(9) 横浜市立みなと総合高等学校（授業者：池谷尚美、2024年1月版）

6	オーストリア・スイスの食文化・食習慣（P課題準備）	パフォーマンス評価の趣旨や内容を理解し、テキストから必要な表現を選択している。 スイス・オーストリアの朝食・昼食・夕食について、伝えるべき事柄を適切に取捨選択している。 メニューの単語を適切に発音している。	生徒の取り組みの観察 発表原稿の確認
7	オーストリア・スイスの食文化・食習慣発表（パフォーマンス課題）	スイス・オーストリアの朝食・昼食・夕食・名物料理について、発表内容を適切にまとめている。 スイス・オーストリアの朝食・昼食・夕食・名物料理について、画像を補助的に用いて適切に伝えることができる。 留学生へのインタビューを通じ、スイス・オーストリアの伝統的な食文化と、留学生の実際の食事の違いを比較している。 ベジタリアン・ヴィーガンなどの食事について知り、背景について理解を深める。	パフォーマンス課題（ループリックによる評価） インタビューの様子 振り返りシート・レポート（冬休みの宿題）

■本時の指導案

1. 本時の指導と評価の計画

分	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
	5 限		
10 分	自己紹介	自己紹介、ドイツ語で話したことを、クラスメイトが通訳する。	様子を観察
15 分	発表準備 1	パワーポイントの作成	作業の観察
15 分	発表準備 2	原稿の確認・発音の確認 リハーサル	作業の観察

(9) 横浜市立みなと総合高等学校（授業者：池谷尚美、2024年1月版）

10分	発表	<p>スイスやオーストリアでの普段の食事(朝食・昼食・夕食) や現地の名物料理を伝えている。</p> <p>聴き手に分かるように、明瞭な発音で、ビジュアルエイドを使いながら適切に伝えている。</p> <p>聴き手も、発表者が話していることを適切に要約している。</p> <p>ルーブリックの記入（自己評価）</p>	パフォーマンス評価
	6限		
25分	留学生にインタビュー	<p>スイス出身の留学生に、自己紹介→普段の食事に何を食べているか、スイスの名物は何かを尋ねる。</p>	インタビューの様子
20分	ベジタリアンやヴィーガンについて学ぶ	<p>ベジタリアンやヴィーガンになる理由についての統計資料を配布し、ドイツ語のキーワードを読む</p>	資料を読む様子を観察
	*冬休みの課題	<p>冬休み中に、以下の内容を更に調査して、まとめのレポート作成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語圏の中での食文化の違い（歴史や地理の観点を交える） ・ヴィーガンやベジタリアンについて分かったことをまとめる 	<p>様々な観点から食文化の違いを考察しようとする姿勢があるか</p>

■授業の概要

1. 学校名：東京都立高等学校
2. 科目名：ドイツ語発展1
3. 単位数：2単位 (週1回：50分授業×2コマ連続)
4. 担当者：能登 慶和 (非常勤)
TT有り：クリスティアン・パール (ALT)
5. クラスの構成：高校1年生 28名 (男10名・女18名)
6. 生徒の概況：今年度から初めてドイツ語を学習し始めた生徒たちである。北園高校では2010年よりドイツ外務省ドイツ語推進プロジェクト「PASCH」に参画しており、ドイツ語の履修者が比較的多い。その中でも発展クラスはとりわけこの「PASCH」の様々な活動に参加する生徒が集まっており、ドイツ語およびドイツ文化への興味が高い。
7. 使用教科書：Hueber社「Beste Freunde PLUS A1.1 Kursbuch - Interaktive Version」

■年間指導案

1. 年間目標：

ドイツ語の特徴を理解し、読む、聞く、書く、話すという基本的な要素に「interaction」を加えて5技能をバランスよく習得し、身の回りの人物や事物に関する簡単な情報や考えについて発信し相互にやり取りができる。また、ドイツ語やドイツ語圏の文化に対する興味と理解を深め、複眼的視野の獲得を涵養する。		
生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
ドイツ語の文法や表現を理解し、それらを運用する力(読む、聞く、書く、話す、やり取りする)を養う。	ドイツ語による日常的なコミュニケーションにおいて、場面に応じて簡単な情報を理解し、相互にやり取りする力を養う。	ドイツ語の学習を通じて、新たな異文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2. 単元構成：

月	単元名	備考
4月～5月	導入：挨拶、アルファベット、数詞	
5月～6月	Modul 1：自己紹介	
6月～7月	Modul 2：趣味、スポーツ	1学期期末試験
7月～8月	Modul 3：他己紹介、	
9月～10月	Modul 4：科目、言語	
11月～12月	Modul 5：名詞（文具）	2学期期末試験
1月～2月	Modul 6：一日の予定、時刻	
2月～3月	Modul 7：家族、職業	3学期期末試験

■単元指導案

1. 単元名：「家族、職業」

2. 単元の目標

家族や職業について話す。		
生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語の家族名称や職業名を理解し、ただしく読めることができる。 職業名の男性形と女性形の区別を理解できる。 助動詞構造を再認することができる。 所有冠詞および不定冠詞・否定冠詞の使い方を理解し、応用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語の家族名称や職業名について、英語と比較しながら類似点と相違点に気付くことができる。 特定の職業について、どういう能力が必要になるかを判断し、伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアあるいはグループで協働しながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ドイツ語を運用して自ら発信しようという態度を養う。

3. 社会と文化への気づきのポイント

「ダンサー」というテーマを通じて、世界各国のダンスや民族衣装についての理解を深める。また、様々な職業について調べることで、自身の将来のビジョンのヒントを見つける。

- 言語の学びと結びついているか：テキストの解釈、出自を表す表現や不定冠詞・否定冠詞のアウトプットを図る。
- 知識を獲得しているか：特定の職業に求められることについて把握する。
- 比較ができているか：各国での民族舞踊などの比較をする。
- 気づき（発見）が起こっているか：
- 考察（理由背景など）できているか：

4. 他教科・他科目との連携

英語、情報

5. パフォーマンス課題

「理想の職業について紹介しよう」

皆さんは姉妹校のドイツ人高校生と将来について話すことになりました。そのために、理想の職業を探し、その職業には何が求められるのか、どうすればなれるのかについて調べましょう。発表は4人1グループ、口頭（ドイツ語）で行います。

発表原稿はドイツ語で作成してグループごとにPadletに提出してください。また、その職業を選択した理由について日本語で補足してください。

発表の際には、既に習った助動詞や、不定冠詞・否定冠詞を応用しましょう。

6. 学習指導における具体的な評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性	
		主体的に学びに取り 組む態度	観点別状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況
⇒観点別学習状況評価		⇒個人内評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語の職業名を理解し、ただしく読めることができる。 ・職業名の男性形と女性形の区別を理解できる。 ・助動詞構造を再認し、応用 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の職業について、どういう能力が必要になるかを判断し、伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアあるいはグループで協働しながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単語や発音の習得に積極的に取り組み、成果に表れている。

<p>することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不定冠詞・否定冠詞の使い方を理解し、応用することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語を運用して自ら発信しようという態度を養う。 	
---	--	--	--

7. 単元の指導と評価の計画

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・導入 (読解): ある生徒へインタビューテキストを読み、基本的情報について解釈する 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を的確に捉えているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での観察
2	<ul style="list-style-type: none"> ・家族名称の解釈と所有冠詞の使い分け ・家族のイラストを描き、相手に聞く・答える 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族名称を適切に用いているか。 ・男性名詞と女性名詞で所有冠詞を適切に運用できているか。 ・的確に質問し、答えているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での観察 ・宿題: ワークブックを解答して Teams で送る。(3 次で小テスト)
3	<ul style="list-style-type: none"> ・職業名の解釈と男性形/女性形の区別 ・所有格の使い方 ・ワークブックを用いてペアで練習 ・読解: ブレイクダンサーについての記事 (前半) を解釈する 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業名を適切に用いているか。 ・男性形と女性形の区別が出来ているか ・的確に質問し、答えているか ・情報を的確に捉えているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での観察 ・宿題: ワークブックを解答して Teams で送る。(5 次で小テスト)
4	<ul style="list-style-type: none"> ・前置詞 aus の用法 (女性名詞の国に要注意) ・読解: ブレイクダンサーの記事 (後半) を解釈する ・グループ課題: 教科書の Dialog に倣って、特定の職業に必要なもの、不要なものについて述べる 	<ul style="list-style-type: none"> ・前置詞 aus と女性名詞の国 (3 格) を正しく運用できているか。 ・情報を的確に捉えているか。 ・文構造を理解しているか。 ・不定冠詞と否定冠詞の用法を理解しているか。 ・既習名詞を適切に応用できているか。 ・不定冠詞と否定冠詞を適切に応用できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での観察 ・宿題: ワークブックを解答して Teams で送る。(5 次で小テスト)
5	<ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス課題: 理想の職業について発表の準備をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの観察

6	パフォーマンス課題:理想の職業について発表する	<ul style="list-style-type: none"> 既習名詞を適切に応用できているか。 不定冠詞と否定冠詞を適切に応用できているか。 助動詞を含む文構造を適切に応用できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ルーブリック評価 テキストの提出
---	-------------------------	---	---

■本時の指導案

1. 本時の指導と評価の計画（3～4次：2月9日、7～8時間目）

分	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
5	単語の復習	意味の解釈	小テスト
5	前回の復習（ワークブックの確認）		
10	職業名の導入 所有の2格	職業名を適切に用いているか。 男性形と女性形の区別が出来ているか	授業での観察 宿題:ワークブックを解答してTeamsで送る。
15	職業名と所有の2格の応用（ペアワーク）	的確に質問し、答えているか	取り組みの観察
15	読解:ブレイクダンサーについての記事（前半）を解釈する	情報を的確に捉えているか。	授業での観察
	(Pause)		
15	前置詞 aus の用法 民族衣装と国の関係	前置詞 aus と女性名詞の国（3格）を正しく運用できているか 民族衣装と国の関係を的確に捉えているか。	授業での観察 宿題:ワークブックを解答してTeamsで送る。
20	読解:ブレイクダンサーについての記事（後半）を解釈する	情報を的確に捉えているか。 文構造を理解しているか。 不定冠詞と否定冠詞の用法を正しく理解しているか。	授業での観察 宿題:ワークブックを解答してTeamsで送る。
15	グループ課題:教科書のDialogに倣って、特定の職業に必要なもの、不要なものについて述べる	<ul style="list-style-type: none"> 既習名詞を適切に応用できているか。 不定冠詞と否定冠詞を適切に応用できているか。 	授業での観察 宿題:ワークブックを解答してTeamsで送る。

2. 補足事項

本来であれば5～6次のパフォーマンス課題を研究授業としたかったが、日程の調整上叶わなかった。

ルーブリック

【評価項目】

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
単元で学んだ文法事項を適切に運用し、正しい発音で発表できる。	理想の職業について、どうすればなれるのか、求められる内容等についての的確に述べることができる。	グループの仲間と積極的に協働し、発表でも原稿を見ずに淀みなく話すことができる。

【評価基準】

4：とてもよくできた。

3：概ねできた。

2：もう少し努力が必要。

1：ほとんどできなかった。

■授業の概要

1. 学校名：カリタス女子中学高等学校
2. 科目名：フランス語
3. 単位数：2 単位 = 45 分 × 週 2 時間 (ネイティブ 1 時間、日本人 1 時間、必修科目)
4. 担当者：小山美穂
5. クラスの構成：中学 1 年生 22 名 (習熟度別(既習・初習)による少人数展開)
6. 生徒の概況：今年度からフランス語の学習を始めた生徒たちである。

初回のアンケートの結果によると、フランス語に意欲的な生徒が多い。

7. 使用教科書：EXPLORE 1 (Hachette)

■年間指導案

1. 年間目標：

自分のことや日常生活、学校生活など身の回りのことについて、フランス語の語彙や表現、文法などを学びながら、フランス語で読む、聞く、書く、話すの 4 技能を高めることを目指す。また言語活動を通じて、フランスやフランス語圏の文化や社会を理解する。

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
・フランス語の音声と発音 ・日時、数字、色など日常生活に必要なものの表現。 ・自分の伝えたいことや書きたいことが表現できるための基本動詞と現在時制の文法規則の習得。	・知識・技能の習得で学習した内容を用い、日常的なテーマについて特に話すこと、書くこと、聞くことできる。	フランス語が世界で広く使用されていることを理解し、英語圏以外の地域にも目を向ける姿勢を養う。

2. 単元構成:

月	単元名	備考
4・5月	Unité 1 Rencontres ・アルファベットの発音 ・挨拶 ・数字(1～10) ・色	
6・7月	・動詞 s'appeler ・自己紹介の表現 ・身近な持ち物の語彙 ・名詞の性・数 ・不定冠詞・定冠詞	前期期末試験
9・10月	Unité 2 Origines ・動詞 être ・国籍と国名 ・動詞 avoir	後期第一中間試験
11・12月	・家族を表す語彙 ・所有形容詞 ・数字(11～69) パフォーマンス課題「自分の家族を紹介しよう！」	後期第二中間試験
1・2・3月	Unité 3 Loisirs ・動詞 aimer, faire ・曜日 ・余暇・スポーツについての語彙	学年末試験

■単元指導案

1. 単元名：自分や家族について話せるようになるう！

2. 単元の目標

新しい学習事項である不規則動詞 être、と avoir、国籍や性格・容姿を表す形容詞、及び既習の語彙や表現を適切に活用して、フランス語で自分のことや自分の家族を紹介し合うことのできる能力の育成を目指す（話す・書く）。

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
不規則動詞 être と avoir の活用と使い方を理解する。 形容詞の意味と形容詞の性数一致を理解する。	フランス語で自分の家族を紹介する際に、他者に伝わりやすいように説明することができる。	教科書の内容から、フランスの多国籍な社会のあり方を認識する。 外国語を用いて主体的に発信しようとする態度を養う。

3. 社会と文化への気づきのポイント

自分の家族のことを紹介するにあたり、国籍や性格・容姿を表す年齢の表現の仕方を学ぶ。
年齢表現における英語とフランス語の表現の仕方の違いに気づく
自分の家族をフランス語で紹介することによって、英語圏以外の人々ともコミュニケーションを取ることの価値を理解する。
様々な国の家族の在り方を考えるきっかけにしたい。

4. 他教科・他科目との連携

英語・社会・国語

5. パフォーマンス課題

自分の家族を紹介しよう！

6. 学習指導における具体的な評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学びに取り組む態度	観点別状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況
⇒観点別学習状況評価			⇒個人内評価
不規則動詞 être と avoir の活用と使い方を理解し、正しく書き、発音できる。国籍や性格・容姿を表す形容詞、及び所有形容詞の意味と性数一致を理解し、正しく書くことができる。	教科書の例文から、自分の家族を紹介する際に、必要な情報を判断することができる。自分の家族を授業で紹介する際に、伝えたいことをフランス語で書き、話すことができる。	自分に関することを他人に伝えるために、表現や構成を工夫することができる。	自身のフランス語学習を振り返り、フランス語でコミュニケーションをする意義を見出している。英語やフランス語のみならず、他の言語への関心や気付きを持つことができる。

7. 単元の指導と評価の計画

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1	不規則動詞 être の活用を知り、使用する。 国籍を表す形容詞を知り、使用する。	不規則動詞 être を主語に合わせて適切に活用して使えている。 国籍の形容詞の意味を理解できる。 →【知識・技能】	小テスト(後日) →【知識・技能】
2	不規則動詞 avoir の活用を知り、使用する。 avoir を使った表現を学ぶ。 数字 11～69 の言い方を学ぶ。	不規則動詞 avoir を主語に合わせて適切に活用して使えている。 →【知識・技能】	小テスト(後日) →【知識・技能】
3	国名を学び、国籍を表す形容詞との関係を知る。	国名から国籍、国籍から国名へと形を変えることができる。 →【知識・技能】	口頭による形容詞の意味と活用の確認 →【知識・技能】
4	容姿や性格を表す形容	容姿や性格を表す形容詞の意味を理解	練習問題を行い、口頭による確認

(11) カリタス女子中学高等学校 (授業者：小山美穂、2023年8月版)

	詞の意味と性数一致を学ぶ。	できる。 主語に合わせて性数一致することができる。 →【知識・技能】	→【知識・技能】
5	家族に関する表現を学ぶ。 所有形容詞を知り、使用する。	所有形容詞を修飾する名詞に合わせて正しい形を選択して使えている。 →【知識・技能】	小テスト(後日) →【知識・技能】
6	不規則動詞 être や avoir、所有形容詞や形容詞に関する練習問題を解く。	これまで学んだ語彙や動詞・形容詞の意味を理解し、正しく問題に解答することができる。 →【知識・技能】	練習問題を行い、口頭による確認 →【知識・技能】
7	教科書に載っている、家族の紹介文を読み、内容を理解する。	家族を紹介する際に必要な情報を、文章を読んで、判断することができる。 →【思考・判断・表現】	口頭による確認 →【知識・技能】 パフォーマンス課題 →【思考・判断・表現】
8	パフォーマンス課題の作成 原稿を作成し、その後原稿を読んだものを録音して、音声をロイロノートに提出。	紹介する目的や相手を想定しながら、表現や構成を工夫している。 →【主体的に取り組む態度】 これまで学んだ語彙や動詞・形容詞から紹介したい人物に合わせた適切な表現を使用し、活用できている。 →【思考力・判断力・表現力】	パフォーマンス課題 【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習する態度】

■本時の指導案(8次)

1. 本時の指導と評価の計画

分	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
5	あいさつ 出席確認 本時の目標の確認	なし	なし
30	発表の準備	【主体的に学習に取り組む態度】 【思考力・判断力・表現力】	(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する)
5	発表内容の発音練習 (終わっていない人は準備を継続する)	【主体的に学習に取り組む態度】 【思考力・判断力・表現力】	(記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動を確認する)
5	本時のまとめ	なし	なし

2. 補足事項

パフォーマンス課題 ルーブリック

評価／観点	フランス語の音声 【知識・技能】 【話すこと】 【書くこと】	内容の工夫と表現 【思考・判断・表現】 【話すこと】	作成に係る取組姿勢と新たな気づき、振り返り 【主体的に学習に取り組む態度】
A	発表内容が提出までにミスなく書くことができる。ほとんどミスなく発音できる。	話すときに、相手に情報や意図が伝わるように伝えることができる。	自身で話すこと・書くことの表現を作り出す活動に主体的に取り組む、発表に向けて準備に取り組むことができる。
B	発表内容がある程度書くことができる。発音のミスが3箇所以上にある。	話すときに、つかえたり、声が小さかったりすることがあるが、相手に伝えることができる。	自身で話すこと・書くことの表現を作り出す活動に取り組むことができる。
C	「B」を満たしていない。	「B」を満たしていない。	「B」を満たしていない。

(11) カリタス女子中学高等学校 (授業者：小山美穂、2023年8月版)

【補足】

前期にフランス語を学習し始めたばかりの生徒たちに対して、まず自分や自分の身の回りの扱いやすい内容をフランス語で表現できるようにというのが本単元のねらいである。今回はフランス語において重要な être と avoir を中心に自分の家族を紹介する活動を通して、使うことになる。前期に学習した s' appeler も取り入れることができ、フランス語で表現する能力を高める活動となっている。時間の都合上、授業中に発表することは難しいと判断し、作成した原稿を録音して提出させることにした。録音することで、フランス語の発音の練習、そして他人(今回は教員)が聞くことが前提になっているため、他者に伝わりやすいように話すことを意識させる活動となっている。

■授業の概要

1. 学校名：埼玉県立上尾鷹の台高等学校
2. 科目名：英語コミュニケーション I
3. 単位数：3単位 (50分授業)
4. 担当者：鈴木冴子
5. クラスの構成：22名 (男子9名、13名)
6. 生徒の概況：2クラス3展開の少人数クラスであるが、習熟度別ではないが学習意欲が高い生徒が多く在籍している。その中には、英語が苦手だと思い学習が思うとおりに進まない生徒もいる。
7. 使用教科書：三省堂『Vista English Communication I』

■年間指導案

1. 年間目標：

聞くこと、読むこと、話すこと (やり取り)、話すこと (発表)、書くことを一体的に育成するとともに、言語材料と言語活動を効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。		
生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
身の回りのことを表現するのに、必要な表現を身に着ける。 中学校で学んだ知識を活かして、文構造を理解し、ある程度のまとまった文章を理解することができる。	身近な話題について、自分の言葉で表現することができる。	コミュニケーションをとろうとする態度の育成をする。クラス内で、生徒同士協力・協調しながら学ぶことができる。 学習に向かう態度を養うことができる。 多文化を受け入れる態度を養う。

2. 単元構成：

	指導計画・指導内容	評価方法
第1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ ののちゃんの英文法 ・ Lesson 1 ・ Lesson 2 ・ Lesson 3 ・ 単語テスト (毎週) ・ リスニング演習 (毎週) ・ ティームティーチング 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題考査 ・ 中間考査 ・ 期末考査 ・ 単語テスト ・ 提出物 ・ パフォーマンステスト及び成果物
第2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1～3文型の確認 ・ Lesson 4 ・ Lesson 5 ・ Lesson 6 ・ 単語テスト (毎週) ・ リスニング演習 (毎週) ・ ティームティーチング 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題考査 ・ 中間考査 ・ 期末考査 ・ 単語テスト ・ 提出物 ・ パフォーマンステスト及び成果物
第3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ Lesson 7 ・ Lesson 8 ・ 単語テスト (毎週) ・ リスニング演習 (毎週) ・ ティームティーチング 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題考査 ・ 中間考査 ・ 期末考査 ・ 単語テスト ・ 提出物 ・ パフォーマンステスト及び成果物

■単元指導案

1. 単元名 Dick Bruna

2. 単元の目標

絵本作家のディックブルーナについて本文を通じて学ぶことで、キャラクターを作り出すことの難しさを知り、日本以外の国や地域、言語に目を向けることができる。		
生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養
過去形を使った文を作ることができる。 ディックブルーナの基本情報を読み取ることができる。 中学校で学んだ知識等を活かし	過去形を使い、小さい頃に好きだったキャラクターについて話すことができる。 本文内容を参考にキャラクターを考えることができる。	表現活動の中で質問をし、その答えを受け入れる態度を養うことができる。 クラス内で、生徒同士協力・協調しながら学ぶことができる。

(12) 埼玉県立上尾鷹の台高等学校 (授業者：鈴木冴子、2023年8月版)

て、本文内容を読み取ることができる。		学習に向かう態度を養うことができる。 目的に沿った創作活動ができる。
--------------------	--	---------------------------------------

3. 社会と文化への気づきのポイント

<input type="checkbox"/> ヨーロッパの地図でオランダの位置を確認し、他の国と地域への目を向ける。 <input type="checkbox"/> オランダ出身の画家について学ぶ。 <input type="checkbox"/> 絵本の表紙から多言語で翻訳されていることを知り、知らない言語へも目を向ける。 <input type="checkbox"/> 本文中のキーワード「simple、beautiful」を取り入れたキャラクターを作成し、捉え方が人によって違うことを知る。
--

4. 他教科・他科目との連携

社会 (地理)、美術 (デザイン)

5. パフォーマンス課題

本文を参考にミッフィーのお友だちを創って、担任の先生にプレゼンしてみよう。

6. 学習指導における具体的な評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学びに取り組む態度	観点別状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の状況
⇒観点別学習状況評価		⇒個人内評価	
動詞を過去形に活用させることができるか。過去形を用いた文を作ることができるか。 中学校で学んだ知識等を活かして、本文内容を読み取ることができるか。 (定期考査、提出物)	小さい頃に好きだったキャラクターについて話すことができたか。 本文内容を参考にキャラクターを考えることができたか。 (定期考査) (パフォーマンス課題)	表現活動の中で質問をし、その答えを受け入れる態度を養うことができたか。 目的に沿った創作活動ができたか。 (定期考査) (パフォーマンス課題) 学習に向かう態度を養うことができたか。 (単語テスト)	クラス内で、生徒同士協力・協調しながら学ぶことができたか。 創作活動を通じて、何かを感じることはできたか。 (振り返り)

7. 単元の指導と評価の計画

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1	Section1	【知識・技能】 語い・表現について理解できているか。	(定期考査)
2	Section1	【知識・技能】 ディックブルーナは何をした人なのか、彼の出身地について内容を取れたか。	(定期考査)
3	Section1&Section2	【知識・技能】 be 動詞の過去形を変化させることができたか。 語い・表現について理解できたか。	(定期考査)
4	Section2	【知識・技能】 ディックブルーナが Miffy を創作した目的や世界中に Miffy の本が広まっている様子について本文を理解できたか。	(定期考査)
5	Section2&Section3	【知識・技能、思考・判断・表現】 一般動詞の過去形を適切に活用することができたか。	(定期考査)
6	Talk まとめの問題	【知識・技能】【思考・判断・表現】 お互いが小さい頃に好きだったキャラクターについて話すことができる。 本文内容について理解できているか。	(定期考査)
7	まとめの問題 ミッフィーの友達づくり	【知識・技能】【思考・判断・表現】 本文内容について理解できているか。 本文内容を確認し、ミッフィーの友だちを創ってみよう。	(定期考査) ルーブリック 提出物

■本時の指導案

1. 本時の指導と評価の計画[7]

分	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
15	まとめの問題の答え合わせ	自分が前の時間にといた問題の答え合わせができたか。間違えた問題を訂正できたか。	(定期考査) 提出物
20	ミッフィーの友だちを創る	本文を元に、ディックブルーナの作品の特徴について確認し、その後オリジナルキャラクターを考えることができたか。	(ルーブリック)
15	お互いのキャラクターについて発表し合う	自分が創作したキャラクターのコンセプトとその理由について話すことができたか。	ルーブリック 成果物

[評価のルーブリック]

	素晴らしい 4点	できた 3点	もう一息 2点	それはちょっと 1点
ミッフィーの友だちを	イラストにすることができ、名前も付けられた。	イラストにすることができた。	イラストは途中で終わった。	イラストにできなかった。
ミッフィーと同様に	simpleでbeautifulで、オリジナリティがある。	simpleでbeautifulに創れた。	simpleかbeautifulである。	simpleでもbeautifulでもない。
自分で作った友だちについて	アピールポイントを目や手を使い効果的に伝えることができた。	アピールポイントについてアピールすることができた。	アピールポイントをとりあえず言って伝えた。	聞いた相手にアピールポイントが伝わらなかった。

2. 補足事項